

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第14集

鹿児島大学構内遺跡 (郡元団地)

J・K-9・10区 (理工系総合研究棟)

【古墳時代・弥生時代水田跡】

2019年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター



第Ⅱ遺構面検出の水田関連遺構（弥生時代中期）

序 文

鹿児島大学郡元キャンパスには、縄文時代から近代までの、貴重な遺跡が包蔵されていることが鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの発掘調査によって明らかにされています。その成果はこれまでに『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』や『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書』によって報告されてきました。

本書は、平成14年度に調査を実施した鹿児島大学構内遺跡郡元団地J・K-9・10区（郡元キャンパス理工系総合研究棟建設工事）における発掘調査報告書です。本調査では、南九州では検出例が極めて少ない弥生時代や古墳時代の水田関連遺構を良好な状態で発見しました。発掘調査後20年近く経過してようやく報告書刊行の運びとなりましたが、弥生時代水田遺構は未だ検出例の少ない遺構であり、本書は日本列島における弥生文化南限地帯の水田稲作導入の様相について重要な資料となることと存じます。

埋蔵文化財調査センターでは、今後とも文化財保護法に基づいた学内の施設整備事業に伴う埋蔵文化財調査を円滑に進めつつ、調査報告書を刊行することによって、調査成果を広く社会に還元できるよう全力を尽くす所存です。重ねて、埋蔵文化財調査室の事業についてのご理解・ご支援をお願い申し上げます。

2019年3月


鹿児島大学埋蔵文化財調査センター長
中村 直子

例言

1. 本報告書は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成 14（2002）年 4 月から平成 15 年 2 月に、3 回に分けて鹿児島大学郡元団地において実施した埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 本地点は、昭和 60（1985）年 6 月 1 日の鹿児島大学埋蔵文化財調査室設置以後は、郡元団地では国土座標第 2 座標系（X = - 158,200, Y = - 42,400）を基点として大学構内に一辺 50 m の方形地区割りを行い、各地点を表示している。本地点は J・K - 9・10 区である。
3. 調査時における図面作成・写真撮影は中村直子・鮎川章子・寒川朋枝・興柶@@・安座間充・王力明・新里貴之を行った。
4. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査センターが行った。担当者は以下のとおりである。

遺物実測	中村直子・寒川朋枝・大西聡子・相良暁子・篠原美智子・瀧田綾子・東友子・吉村ゆう子
製図	中村・寒川
作表	中村・相良・篠原・吉村
写真・執筆・編集	中村・寒川・新里
5. 本報告の内容について、近世陶磁器については渡辺芳朗氏（鹿児島大学法文学部）のご教示を得た。
6. 本書で報告している遺物の保管は、埋蔵文化財調査センターの管理のもと鹿児島大学内にて保管している。

凡 例

1. 昭和 60 年 6 月 1 日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。郡元団地では、国土座標第 2 座標系（ $X = -158,200$, $Y = -42,400$ ）を基点として一辺 50 m の方形地区割りを行った（Fig.2 参照）。本書掲載の座標はすべて日本測地系によるものである。
2. 本報告書におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
3. 本書では、土壇状遺構を SK、溝状遺構を SD、ピット状遺構を P と表示とする。
4. 遺物に関しては観察表を作成した。その表現については以下の通りである。
調整：調整名称の前の () は、調整方向を表す。(—)；横位方向，(|)；縦位，(\)；左上がりの斜位，(/)；右上がりの斜位，(?)；方向不明，とした。→は、調整の新旧関係を表す。
色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。
5. 遺物実測図中、----- は釉の境界ラインを示す。
6. 遺物実測図中、土器の赤色顔料の塗布範囲は  で図示する。
7. 遺物断面黒塗りのものは須恵器を表している。
8. 本文中の遺物番号は通し番号を付し、挿図・図版・遺物観察表と一致する。

抄 録

ふりがな	かごしまだいがくこうないいせきこおりもとだんちじえー・けー・きゅう・じゅっく りこうけいそうごうけんきゅうとう							
シリーズ名	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第14集							
書名	鹿児島大学構内遺跡 郡元団地J・K-9・10区（理工系総合研究棟）							
編著者	中村直子・新里貴之・寒川朋枝							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒890-8580 鹿児島市郡元一丁目21番24号 Tel 099-285-7270 Fax 099-285-7271							
発行年月日	2019年3月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内遺跡郡元団地	鹿児島市郡元一丁目21番24号	4620	1-23-0	31° 34' 11"	130° 32' 33"	2002年4月22日～2015年2月19日	1975	理工系総合研究棟建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
鹿児島大学構内遺跡郡元団地		弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世	弥生時代・古墳時代：水田関係遺構（擬似畦畔・足跡状遺構・溝状遺構・ピット・小ピット） 古代：波板状凹凸面	突帯文土器・入来式土器・成川式土器・土師器・須恵器・青磁・近世陶磁器・打製石鏃・磨製石鏃・磨石・砥石・軽石製加工品・ガラス製瓶				

本文目次

巻頭カラー写真

序 文

例 言

凡 例

抄 録

第1章 遺跡の位置と環境	1
第2章 調査に至る経緯	1
第3章 調査体制と期間	6
第4章 発掘調査の経過	8
第5章 層位	8
第6章 各層の遺構と出土遺物	17
第1節 1・2層出土遺物	17
第2節 3層出土遺物	25
第3節 4層出土遺物	28
第4節 第Ⅰ遺構面（5層上面）検出遺構・出土遺物	37
1 波板状凹凸面	37
2 SD3と出土遺物	37
第5節 5層出土遺物	37
第6節 第Ⅱ遺構面（6層上面）検出遺構と出土遺物	55
1 擬似畦畔	55
2 ピット群とピット出土遺物	55
第7節 6層出土遺物	62
第8節 第Ⅲ遺構面（7層・8層上面）検出遺構	70
1 SD1・SD2および周辺ピット・土壌群	70
2 SD4～8	70
3 ピット群	70
第9節 第Ⅳ遺構面（8層上面）検出遺構	79
1 AZ1～3	79
2 水田面	80
第7章 まとめ	111
第1節 各層の時期	111
第2節 弥生時代～古墳時代の水田遺構	111

挿図目次

Fig. 1	遺跡の位置	2	Fig. 25	5層出土遺物(5)	47
Fig. 2	調査区の位置	3	Fig. 26	第II遺構面平面図	55
Fig. 3	表土除去後の調査区平面図	7	Fig. 27	第II遺構面平面図 西側	56
Fig. 4	北壁層位断面図(1)	9	Fig. 28	第II遺構面平面図 東側	57
Fig. 5	北壁層位断面図(2)	10	Fig. 29	第II遺構面検出ピット	59
Fig. 6	西壁層位断面図(1)	11	Fig. 30	第II遺構面検出ピットの径と深さ	59
Fig. 7	西壁層位断面図(2)	12	Fig. 31	第II遺構面遺構出土遺物	61
Fig. 8	南壁層位断面図(1)	13	Fig. 32	6層出土遺物(1)	63
Fig. 9	南壁層位断面図(2)	14	Fig. 33	6層出土遺物(2)	64
Fig. 10	東壁層位断面図	15	Fig. 34	6層出土遺物(3)	65
Fig. 11	1・2層出土遺物(1)	18	Fig. 35	第III遺構面平面図	71
Fig. 12	1・2層出土遺物(2)	19	Fig. 36	第III遺構面平面図 西側	72
Fig. 13	1・2層出土遺物(3)	20	Fig. 37	第III遺構面平面図 東側	73
Fig. 14	3層出土遺物	26	Fig. 38	第III遺構面平面図(イ)部	74
Fig. 15	4層出土遺物(1)	29	Fig. 39	SD1 および関連遺構	75
Fig. 16	4層出土遺物(2)	30	Fig. 40	SD2・4～8	76
Fig. 17	4層出土遺物(3)	31	Fig. 41	第III遺構面検出ピットの大きさと深さ	79
Fig. 18	第1遺構面平面図	38	Fig. 42	第IV遺構面平面図(1)	80
Fig. 19	波板状凹凸面	39	Fig. 43	第IV遺構面平面図(2)	81
Fig. 20	SDs1・SD3	41	Fig. 44	第IV遺構面平面図 西側	82
Fig. 21	5層出土遺物(1)	43	Fig. 45	第IV遺構面平面図 東側	83
Fig. 22	5層出土遺物(2)	44	Fig. 46	第IV遺構面平面図(イ)部	84
Fig. 23	5層出土遺物(3)	45	Fig. 47	第IV遺構面断面図	85
Fig. 24	5層出土遺物(4)	46	Fig. 48	本地点周辺の弥生時代水田遺構	112

表目次

Tab.1	鹿児島大学構内遺跡郡元団地内の発掘調査(1)	4	Tab.12	遺構リスト(9)	95
Tab.2	鹿児島大学構内遺跡郡元団地内の発掘調査(2)	5	Tab.13	遺構リスト(10)	96
Tab.3	鹿児島大学構内遺跡郡元団地内の発掘調査(3)	6	Tab.14	遺物観察表(1)	97
Tab.4	遺構リスト(1)	87	Tab.15	遺物観察表(2)	98
Tab.5	遺構リスト(2)	88	Tab.16	遺物観察表(3)	99
Tab.6	遺構リスト(3)	89	Tab.17	遺物観察表(4)	100
Tab.7	遺構リスト(4)	90	Tab.18	遺物観察表(5)	101
Tab.8	遺構リスト(5)	91	Tab.19	遺物観察表(6)	102
Tab.9	遺構リスト(6)	92	Tab.20	遺物観察表(7)	103
Tab.10	遺構リスト(7)	93	Tab.21	遺物観察表(8)	104
Tab.11	遺構リスト(8)	94	Tab.22	遺物観察表(9)	105
			Tab.23	遺物観察表(10)	106
			Tab.24	遺物観察表(11)	107
			Tab.25	遺物観察表(12)	108

Tab.26 遺物観察表 (13) 石器類	108	Tab.28 層別遺物出土状況 (2)	110
Tab.27 層別遺物出土状況 (1)	109		

写真目次

PL 1 調査開始時の状況	1	PL 22 5層出土遺物 (3)	50
PL 2 表土除去後の状況	8	PL 23 5層出土遺物 (4)	51
PL 3 北壁層位	10	PL 24 5層出土遺物 (5)	52
PL 4 西壁層位	12	PL 25 5層出土遺物 (6)	53
PL 5 南壁層位	14	PL 26 5層出土遺物 (7)	54
PL 6 東壁層位	16	PL 27 第II遺構面	58
PL 7 1・2層出土遺物 (1)	20	PL 28 第II遺構面検出ピット	60
PL 8 1・2層出土遺物 (2)	21	PL 29 第II遺構面検出遺構出土遺物	61
PL 9 1・2層出土遺物 (3)	22	PL 30 6層出土遺物 (1)	66
PL 10 1・2層出土遺物 (4)	23	PL 31 6層出土遺物 (2)	67
PL 11 1・2層出土遺物 (5)	24	PL 32 6層出土遺物 (3)	68
PL 12 3層出土遺物	27	PL 33 6層出土遺物 (4)	69
PL 13 4層出土遺物 (1)	32	PL 34 第III遺構面 (1)	71
PL 14 4層出土遺物 (2)	33	PL 35 第III遺構面 (2)	74
PL 15 4層出土遺物 (3)	34	PL 36 第III遺構面 (3)	77
PL 16 4層出土遺物 (4)	35	PL 37 第III遺構面 (4)	78
PL 17 4層出土遺物 (5)	36	PL 38 第III遺構面 (5)	79
PL 18 第I遺構面 (1)	40	PL 39 第IV遺構面 (イ)部	84
PL 19 SD3 出土遺物	42	PL 40 第IV遺構面 (1)	85
PL 20 5層出土遺物 (1)	48	PL 41 第IV遺構面 (2)	86
PL 21 5層出土遺物 (2)	49		

第1章 遺跡の位置と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾（錦江湾）が広がり、他の三方は始良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。鹿児島大学には、郡元キャンパス、桜ヶ丘キャンパス、入来牧場（薩摩川内市）、指宿植物試験場（指宿市）、唐湊学生寮において埋蔵文化財が確認されており、本報告地点が含まれる郡元キャンパス内の遺跡は鹿児島大学構内遺跡郡元団地と呼称されている。

郡元団地は、沖積平野部の自然堤防帯に立地し、標高は約7mである。昭和26年の県立医大遺跡（現在の鹿児島大学附属中学校敷地内）の調査¹⁾以降、現在までに61回に及ぶ発掘調査が行われている（Tab.1～3）。なお、埋蔵文化財調査室設置以前の昭和59年までは、「釘田」遺跡や「水町」遺跡など旧小字名等が遺跡の名称として用いられている²⁾。

郡元団地は、縄文時代前期～近世の複合遺跡であるが、特に古墳時代の竪穴建物跡が多数発掘されている。現在、5か所の居住域が確認でき、いずれも微高地上に立地している。郡元団地中央部には東西方向に流れる河川跡がみられ、河川跡埋土からは弥生～古墳時代の木製品や木杭列などの遺物が出土している。その一部は、井堰跡と考えられ、本報告で掲載する弥生時代の水田遺構に関連するものである。古墳時代の遺物・遺構包含層より上位では、古代から近代に至るまでの水田・畑地跡が連続的に認められ、この地では継続的に農耕が行われていたことが推定される。

第2章 調査に至る経過

鹿児島大学では、平成13年度に郡元団地において理工系総合研究棟の建設とそれに伴う共同溝の設置が計画された。過去の調査では、本地点東側に弥生時代中期～古墳時代の竪穴建物跡が密集する居住域が確認され、また北側では弥生時代～古代の河川跡があり、その川底から井堰跡と考えられる木杭列が3か所確認されている。これらの成果から周辺は水田稲作農耕を生業とする集落であったと推定され、本工事地点も同時期の遺構が良好に残存していると予想されたため、校舎建設地の発掘調査を実施する事が決定された。



1 掘削開始前（南東から）

PL 1 調査開始時の状況



2 表土・2層掘削後（西から）



国土地理院の基盤情報地図 2473024 を使用

Fig. 1 遺跡の位置 S= 1/ 50,000

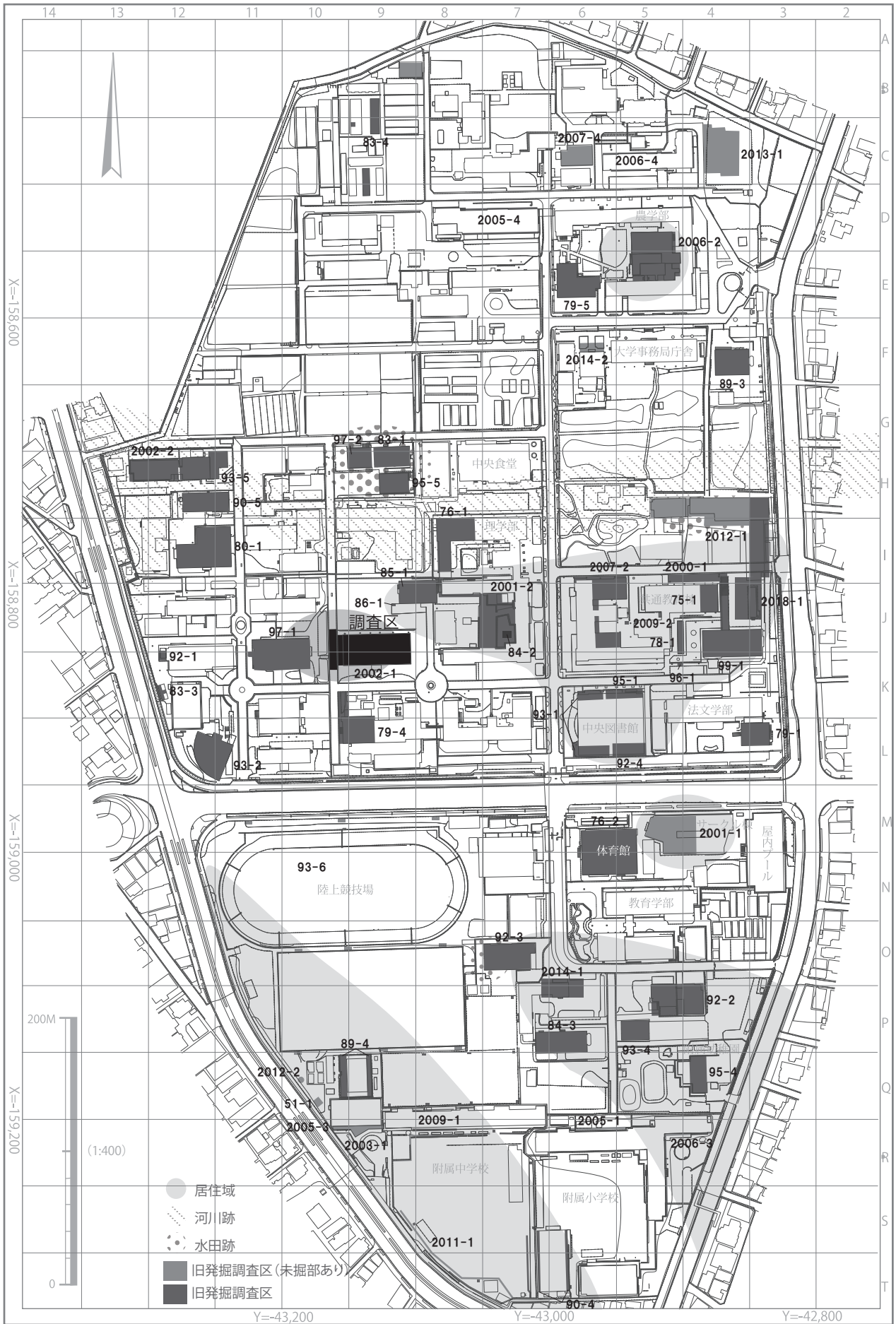


Fig. 2 調査区的位置 S = 1/4000

Tab. 1 鹿児島大学構内遺跡郡元団地内の発掘調査（1）

調査No.	地区	事業名	主な時代	主な遺構・遺物	掲載文献
51-1	Q-10区	鹿児島県立医大建築工事	古墳時代	竪穴建物跡	河口, 1952・河口, 1955・河口, 1969
75-1	I・J-4区	教養部校舎増築工事（釘田第1地点）	古墳時代	竪穴建物跡	年報VI
76-1	I-8区	理学部2号館増築工事（釘田第8地点）		竪穴建物跡・河川跡・木杭列, 土器・須恵器	年報I・報告書12
76-2	M・N-5・6区	教育学部第2体育館建設工事（釘田第6地点）		溝状遺構, 土器・須恵器	年報I
78-1	J-5区	教養部講義室建設工事（釘田第2地点）		土器	
79-4	K・L-9・10区	教養部講義室建設工事（釘田第4地点）		用水路	
79-5	E-6区	農学部研究棟建設工事（釘田第5地点）			
79-1	L-3・4区	法文学部講義室建設工事（釘田第3地点）		土器	年報I
79-1	O-4・5区	教育学部校舎建設工事（釘田第7地点）		土器	年報I
80-1	I-11・12区	工学部機械工学科校舎建設工事		溝状遺構, 土器・須恵器	年報I
83-1	G・H-9区	電子計算機室建設工事（釘田第9地点）		溝状遺構, 土器・須恵器	年報I 池畑, 1991（年報VI付編III）
83-3	K-12区	工学部危険物薬品庫改修工事		水田・ピット, 土器・須恵器・磁器	年報I・鹿児島大学法文学部考古学研究室, 1985
83-4	C・D-9区	農学部温室建替え工事		溝状遺構, 土器・古銭・陶磁器	年報I
84-2	J-7区	理学部車庫建設工事		土器	年報I・鹿児島大学法文学部考古学研究室, 1986
84-3	P-6・7区	教育学部校舎建設工事（水町遺跡）		水田跡・溝状遺構, 土器・硬玉製勾玉	坪根, 1987
85-1	I・J-9・10区	理学部一号館増築工事	古墳時代	竪穴建物跡群	年報I
86-1	J-9区	理学部塵捨場設置工事	古墳時代	竪穴建物跡	年報II
87-2	G・H-9・10区	電子計算機室増築工事	平安～鎌倉時代	溝状遺構・河川跡	年報III
89-3	F-3・4区	大学院連合農学研究科校舎建設工事	近世・中世	土取り穴群	年報V
89-4	Q-9・10区	教育学部附属中学校プール上屋建設工事	古墳時代	竪穴建物跡群	年報V
90-4	S・T-6・7区	教育学部附属小学校プール上屋建設工事	古墳時代	竪穴建物跡群, 鉄製鋤先・墨書土器	年報VII
90-5	H-11・12区	工学部情報工学科校舎建設工事	弥生時代～近世	河川跡	年報VII
92-1	K-12区	工学部応用化学工学科エレベーター建設工事	古代?	土器	年報VIII
92-2	O・P-4・5区	教育学部音楽美術棟建設工事	近世 古墳時代	水田跡 溝状遺構	年報IX・X

Tab. 2 鹿児島大学構内遺跡郡元団地内の発掘調査(2)

調査No.	地区	事業名	主な時代	主な遺構・遺物	掲載文献
92-3	O-7区	教育学部福利厚生施設建設工事	古墳時代 古墳時代以前	溝状遺構・ピット群 溝状遺構・水田跡	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報IX・X
92-4		中央図書館増築工事(1次)	古墳時代	竪穴建物跡	年報18
93-1	K・L-6区	中央図書館増築工事(2次)	古墳時代	竪穴建物跡・溝状遺構	年報18 報告書3
93-2	L-11・12区	稲盛会館建設工事	近世 平安～近世	水田跡 遺物	『鹿児島大学構内遺跡郡元団地L-11・12区-鹿児島大学稲盛会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』
93-4	P-4区	教育学部教育実践研究指導センター建設工事	近世 古墳時代 弥生時代後期	溝状遺構・水田遺構 溝状遺構・掘立柱建物跡・ピット群 土器群	年報11
93-5	H-11区	地域共同研究センター建設工事	弥生時代	河川跡・木杭列	年報13
93-6	M～T-7～ 12区	運動場照明設置工事	古墳時代 古代	住居跡・土墳墓	年報15
95-1	K・L-5・6区	中央図書館建築工事(3次)	古墳時代 弥生時代	溝状遺構 遺物包含層	年報19 報告書3
95-4	Q-4・5区	幼稚園舎建設工事	古墳時代	竪穴建物跡・掘立柱建物跡	報告書4
95-5	H-9区	情報処理センター増築工事		河川跡・水田跡	報告書2
96-1	K-5区	防火水槽取設工事	古墳時代	竪穴建物跡群	
97-1	J-10・11区	工学部校舎建設工事	弥生時代 縄文時代中期	水田跡 土器・石器・抉状耳飾り転用垂飾品	報告書11
99-1	J・K-4区	文系総合研究棟建設工事	近世・中世 古墳時代	畑跡 竪穴建物跡群・土器集中以降、土器・須恵器・鉄斧・玉類	
2000-1	I・J-4区	共同溝埋設工事	古墳時代	竪穴建物跡群、土器・須恵器	
2001-1	M-4・5区	サークル棟建設工事	弥生時代 古墳時代	中期溝状遺構、ピット群 遺物	年報17
2001-2	J-7・8区	理学部改修工事	古墳時代 弥生時代	竪穴建物跡群、溝跡 竪穴建物跡	
2002-1	J・K-9・10 区	理工系総合研究棟建設工事	弥生時代	水田跡など	本書(報告書14)
2002-2	H-12・13区	VBL棟建設工事	近世～弥生時代	河川跡、木杭列など	
2003-1	R-9・10区	教育学部附属中学校体育館改修工事	古墳時代	遺構 遺物	
2005-1	R-5・6・7区	教育学部附属小学校校舎改修工事	近代や中世 幕末前後 中世～弥生時代 中期	溝 銃弾 遺物	

Tab. 3 鹿児島大学構内遺跡郡元団地内の発掘調査（3）

調査No.	地区	事業名	主な時代	主な遺構・遺物	掲載文献
2005-3	Q-10区	教育学部附属中学校保存住居跡埋め戻し工事	古墳時代	竪穴建物跡	報告書3
2005-4	D-7・8区	農学部5号館改修工事	近世～弥生時代	遺物包含層	報告書5
2006-2	D・E-5区	農学部1号館改修工事	近世	高等農林建物跡 水田跡	報告書5
2006-3	R・S-4・5区	教育学部附属小学校改修工事（2次）	近代 古墳時代～弥生時代	畑跡 遺物包含層	
2006-4	C-5・6区	農学部2号館改修工事	近世 弥生時代～近世	水田跡 河川跡	報告書5
2007-2	I・J-5・6区	共通教育棟2号館改修工事	近代～弥生時代	水田跡, 水路, 竪穴建物跡群	年報32
2007-4	C-6区	南九州地区軽種馬医療体制整備事業	近代 中世以前	水田跡 川跡	報告書5
2009-1	Q・R-8・9区	教育学部附属中学校増築・改修工事	古墳時代	竪穴建物跡・ピット群, 土器	報告書9
2009-2	J-5区	共通教育棟樹木移植工事	古墳時代	住居跡	
2011-1	S・T-7～9区	教育学部附属中学校グラウンド改修その他工事	古墳時代 古代	土器 土師器等	報告書9
2012-1	H・I-3～5区	大学会館他解体等工事（学生支援センター）	古墳時代 縄文時代	水田跡（小畔・大畔・水路・足跡）・ 竪穴建物跡群, 土器・須恵器・磨製石鏃, 焼土跡, 土器	
2012-2	Q-10区	教育学部附属中学校倉庫設置工事	古墳時代	土器	報告書9
2013-1	C-4区	産業動物飼育実習棟建設工事	江戸時代	水田跡・建物跡・河川跡・護岸用施設, 陶磁器・桶	
2014-1	O・P-6・7区	教育学部学習プラザ建設工事	古墳時代～古代	溝状遺構, 土師器・土器・須恵器	
2014-2	F-6区	保健管理センター増築その他工事	江戸時代	水田跡	
2018-1	I・J-3・4区	稲盛記念会館建設工事	古墳時代	竪穴建物跡群・掘立柱建物跡, 土器・ 須恵器・石庖丁・磨製石鏃・玉類	

掲載文献：「年報」＝『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』

「報告書」＝鹿児島大学埋蔵文化財発掘調査報告書

第3章 調査体制と期間

発掘調査は、以下の体制と期間で実施された。

所在地：鹿児島市郡元1丁目21番40号

調査起因：理工系総合研究棟建設と共同溝の設置

発掘調査期間：平成14年4月22日～10月31日（校舎本体部分・共同溝）、12月11日～平成15年1月8日（東区）、平成15年2月4日～19日（南区）

調査面積：1845m²

調査主体者：鹿児島大学埋蔵文化財調査室 室長 新田栄治

調査担当：鹿児島大学埋蔵文化財調査室 中村直子・新里貴之・王力明・寒川朋枝

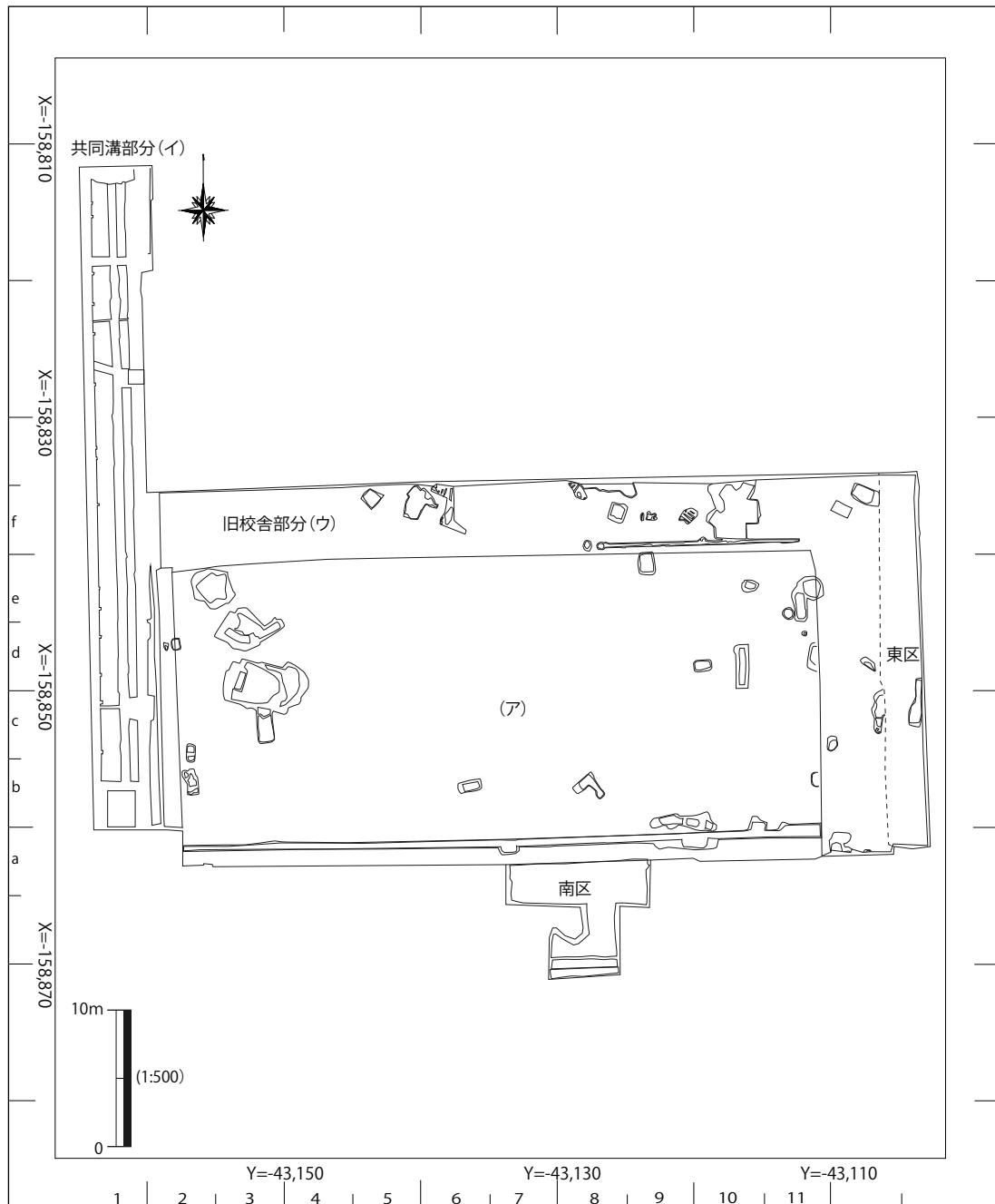


Fig. 3 表土除去後の調査区平面図 S = 1/250

第4章 発掘調査の経過

発掘調査は3回に分けて実施された。1回目の発掘調査終了後に建物の設計変更が発生し、1回目の調査区外に拡大された東区と南区を追加調査したものである。1回目の発掘調査は、平成14年4月22日～10月31日に実施した。建物本体部分（Fig. 3-ア・ウ）と共同溝部分（同イ）にあたるが、共同溝部分は道路部分だったため、先行して実施し、8月22日に調査を終了している。

建物本体部分は、調査前は木造校舎と植物園であった。X=-158865.0, Y=-47165.0を基点として5m間隔のグリッドを設定し、西から1～11区、南からa～e区と呼称した（Fig. 3）。木造校舎解体工事を発掘調査と実施して行ったため、6層まではア部分について調査を先行し、解体終了後、旧校舎部分に着手した。7層上面で建物本体部分全面の調査開始となった。

発掘調査に際し、現代の客土・攪乱層である1層と近代の水田層と判断された2層を重機によって掘削した。3層以下は、層ごとに人力掘削を実施し、遺構の確認を行った。基本土層は13層まで確認したが、5・6・7・8層上面で遺構が検出された。いずれも、弥生時代～古代の水田跡もしくはそれに関連する遺構であると考えられる。同様な遺構は、西側に20m離れた工学部校舎建設に伴う発掘調査（97-1）でも確認しており³⁾、土層堆積状況もこの地点の西側に類似することから、連続した遺構であると推定された。

弥生時代水田層より下位の層は、過去の調査から無遺物層であると推定されたため、調査区内の全面調査は8層上面までとし、8層以下は下層確認トレンチを本体部分5トレンチ、共同溝部分7トレンチを設定した（Fig. 43）。郡元団地では砂礫層（13層）上面まで掘削を行ったが、いずれも泥炭層や氾濫原の砂層・シルト層のみが堆積しており、遺物の出土もなかったため、層位断面図を作成して調査を終了した。

2回目の東区での発掘調査は12月11日～翌年1月8日、3回目は南区について2月4日～19日に発掘調査を実施した。いずれの調査区とも1回目の調査区に接続していたため、土層堆積状況は類似していると予想し、1回目の調査で遺構が確認されていた5層直上の4層中程までを重機掘削をし、その後人力掘削に切り替えた。いずれも8層上面で掘削を終了し、調査区壁面の層位断面図を作成して調査を終了した。

第5章 層位（Fig. 4～10, PL.3～6）

基本層位としては、1～13層までを確認した。

1層 客土、現代による攪乱を受けている。ブロック・土管などを多く含む。

2層 褐灰色（10YR6/1）、0.5cm大の軽石を含む。

3a層 黄褐色、シルト質砂。0.5～1cm大の軽石を含む。鉄分浸透。

3b層 褐灰色（10YR6/1）、シルト質砂。1～2cm大の軽石含む。マンガン浸透。



1 3層上面検出（西から）



2 3層上面検出（北東から）

PL 2 表土除去後の状況

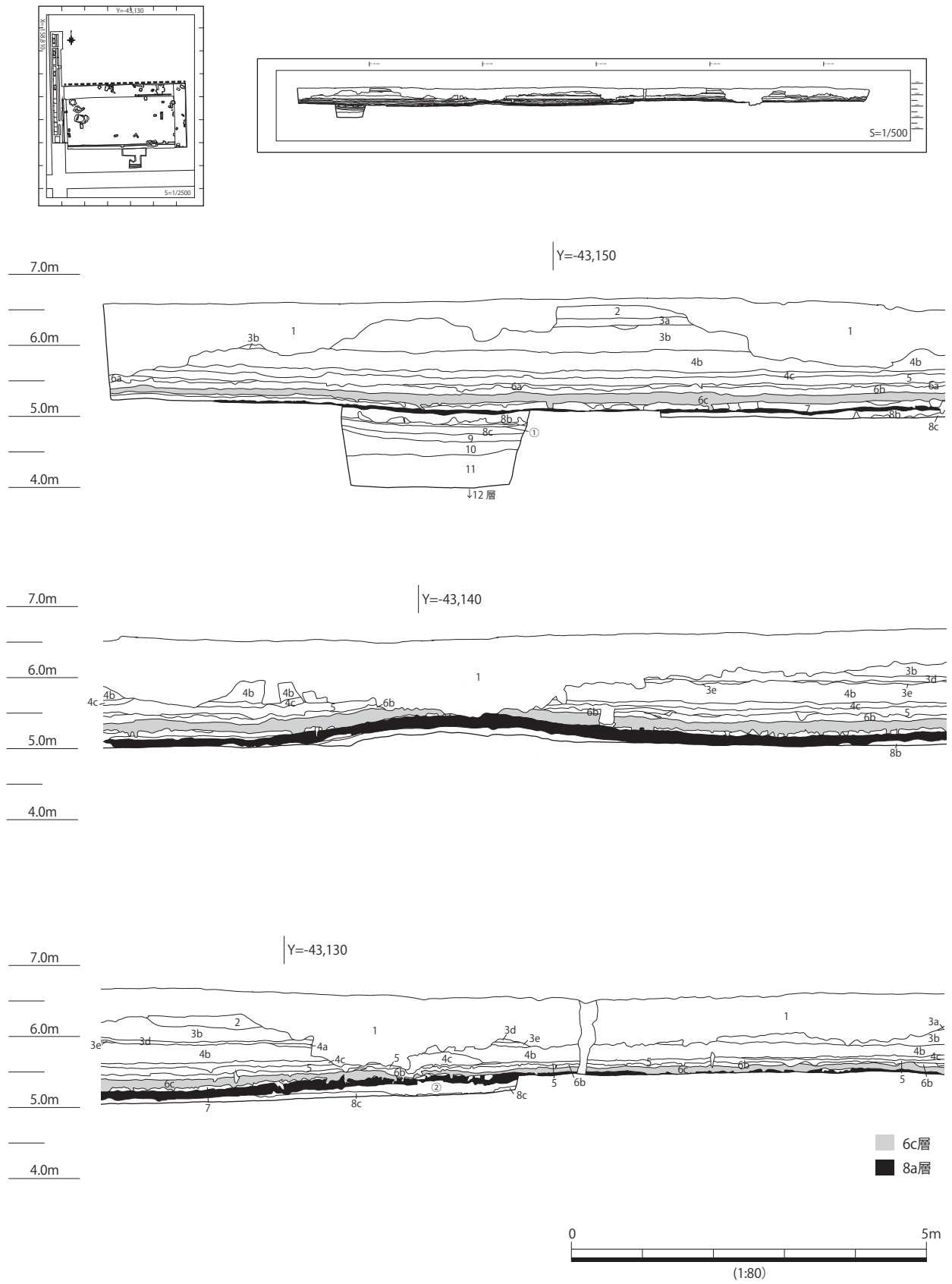


Fig. 4 北壁層位断面图 (1) S=1/80

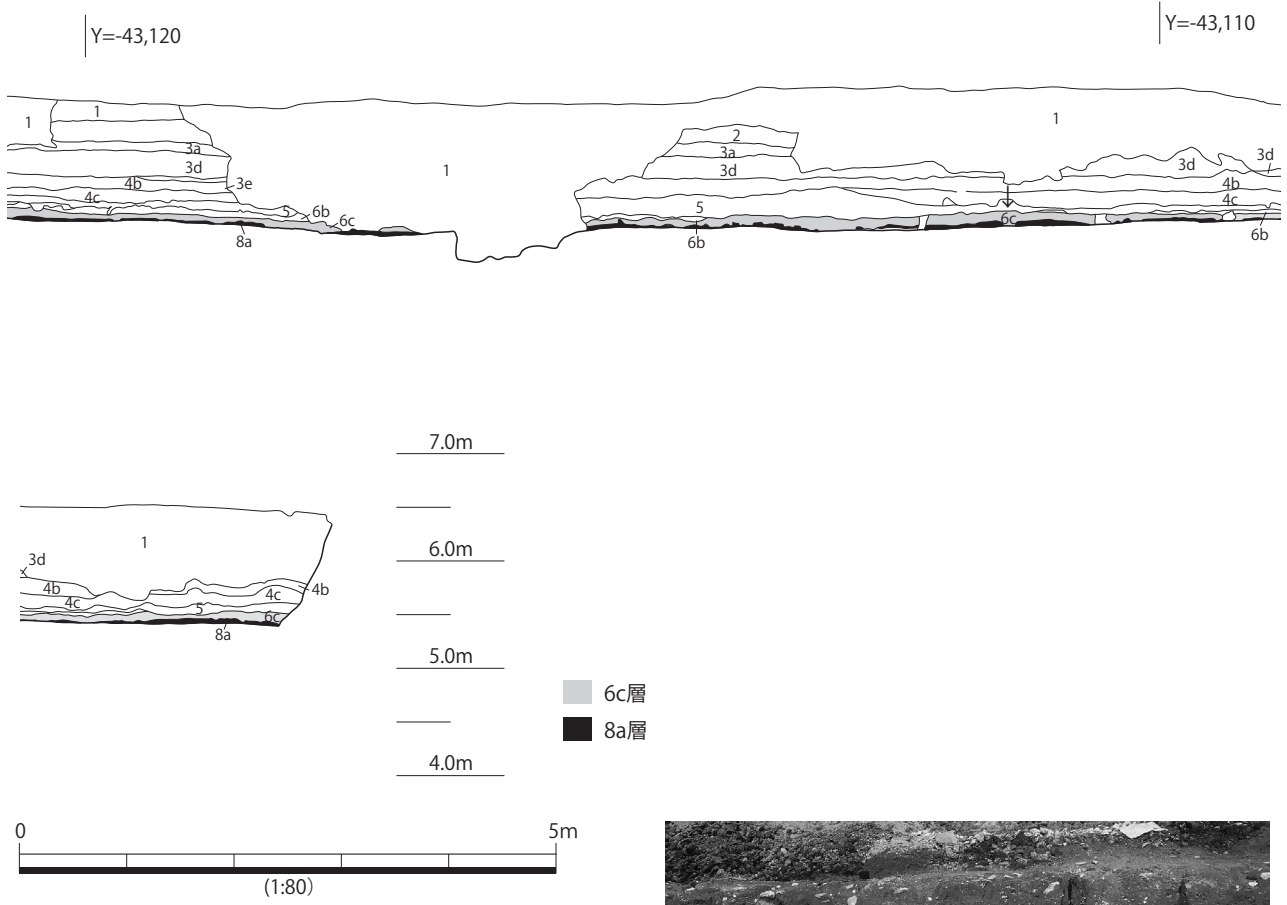


Fig. 5 北壁層位断面図(2) S=1/80



1 Y=-42140 付近



2 Jトレンチ付近
PL 3 北壁層位

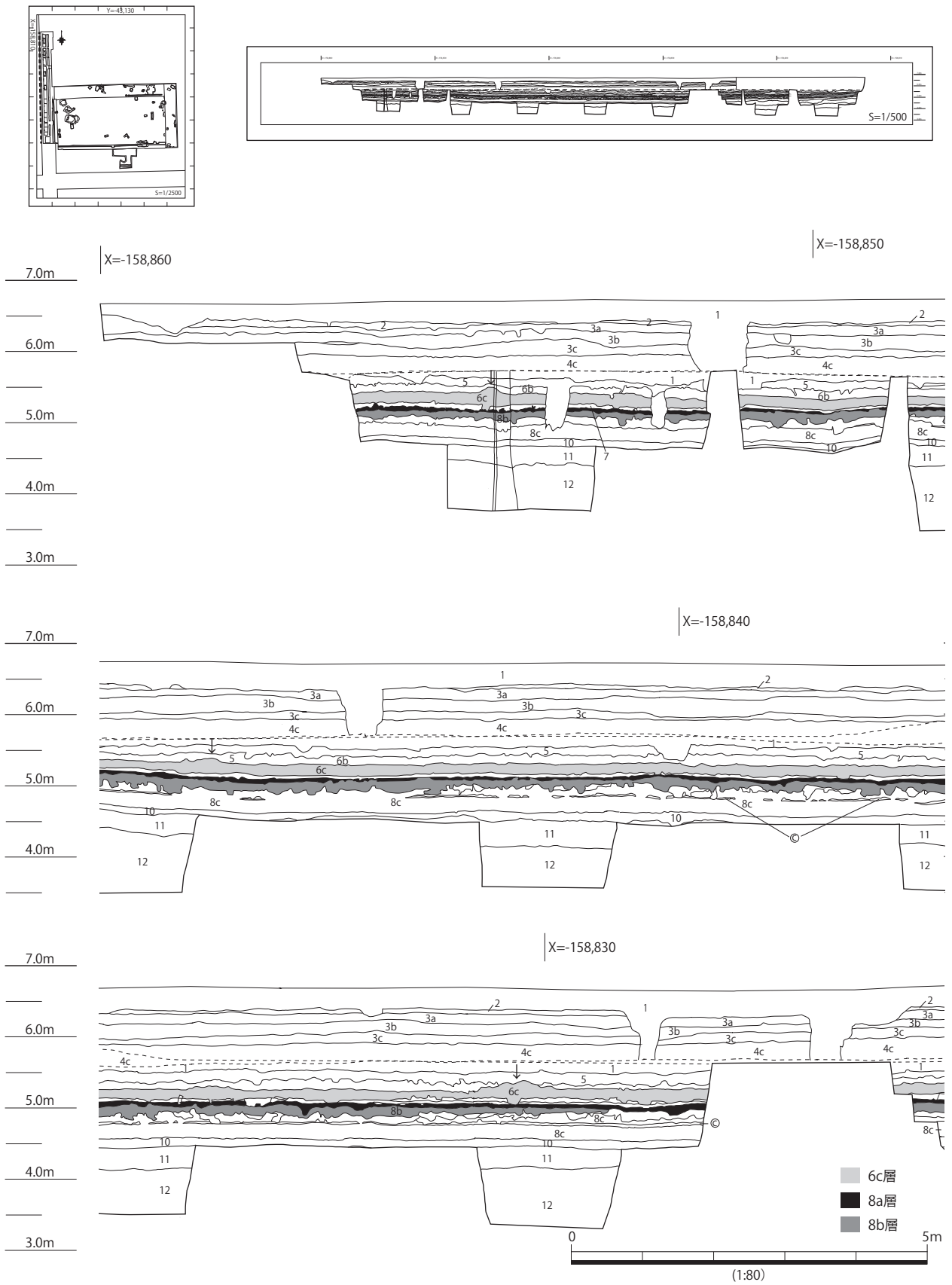


Fig. 6 西壁層位断面图 (1) S=1/80

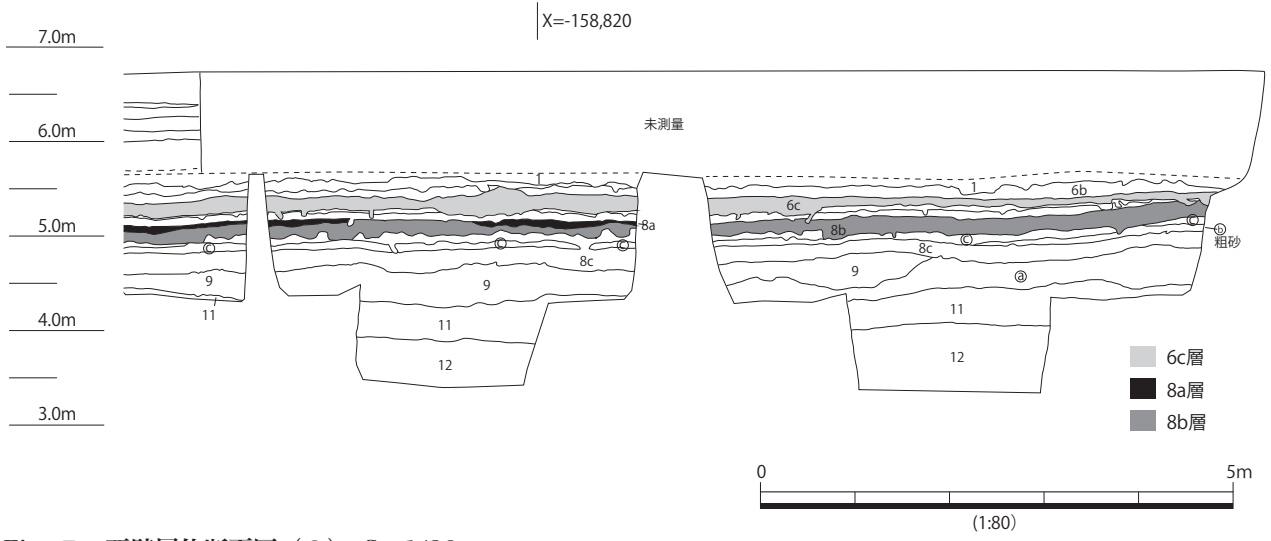


Fig. 7 西壁層位断面図(2) S=1/80



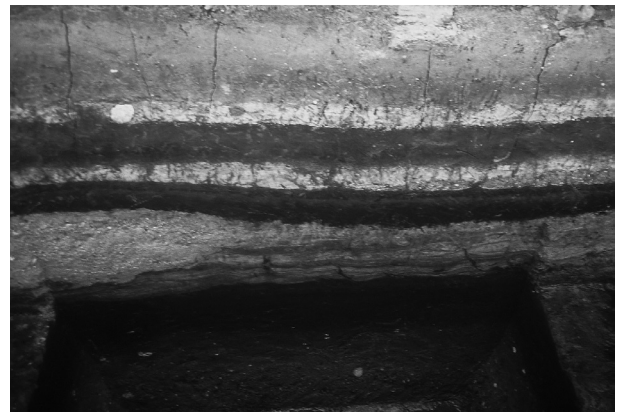
1 2トレンチ下部



3 4トレンチ下部



2 5トレンチ下部



4 7トレンチ下部

PL 4 西壁層位

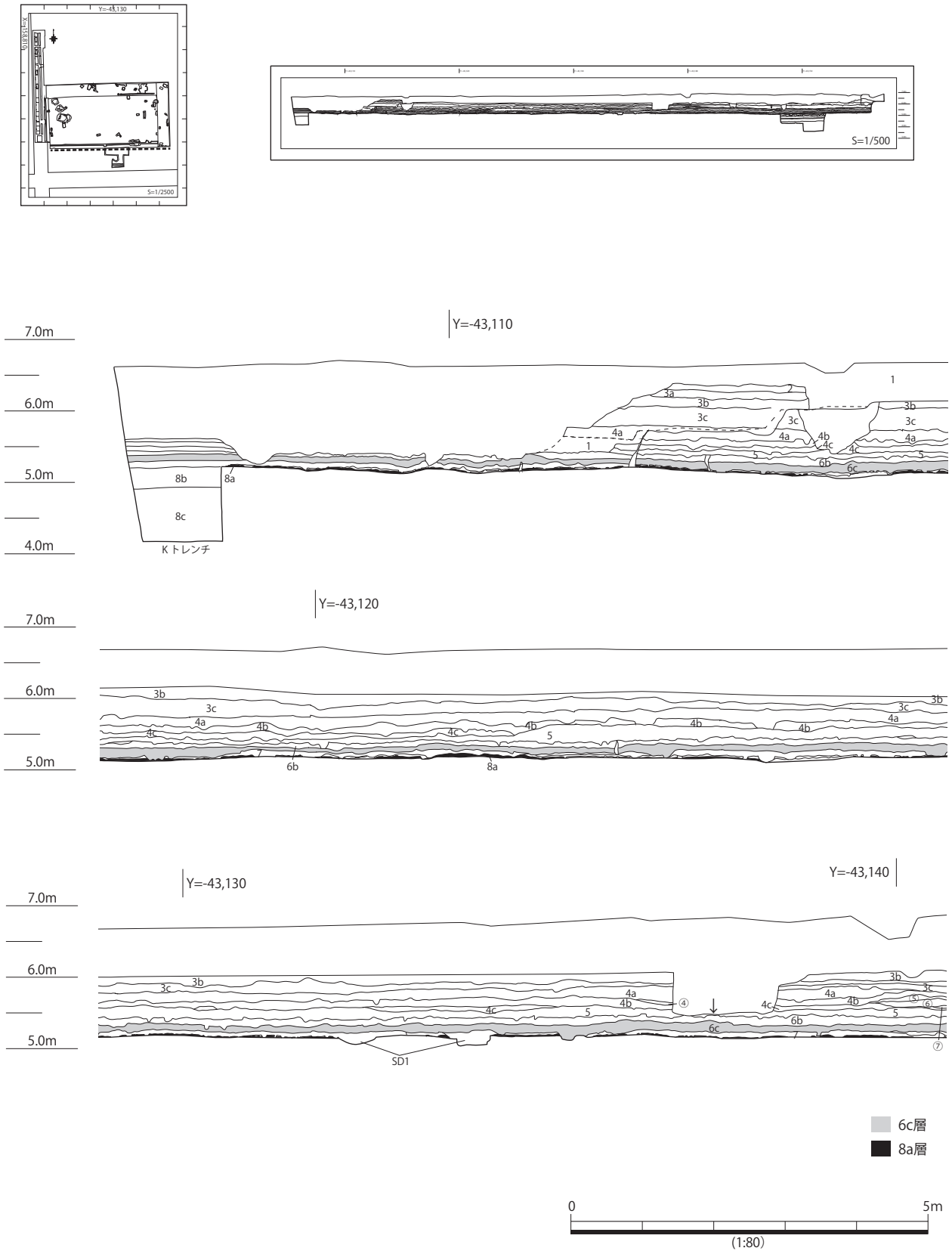


Fig. 8 南壁層位断面図(1) S=1/80

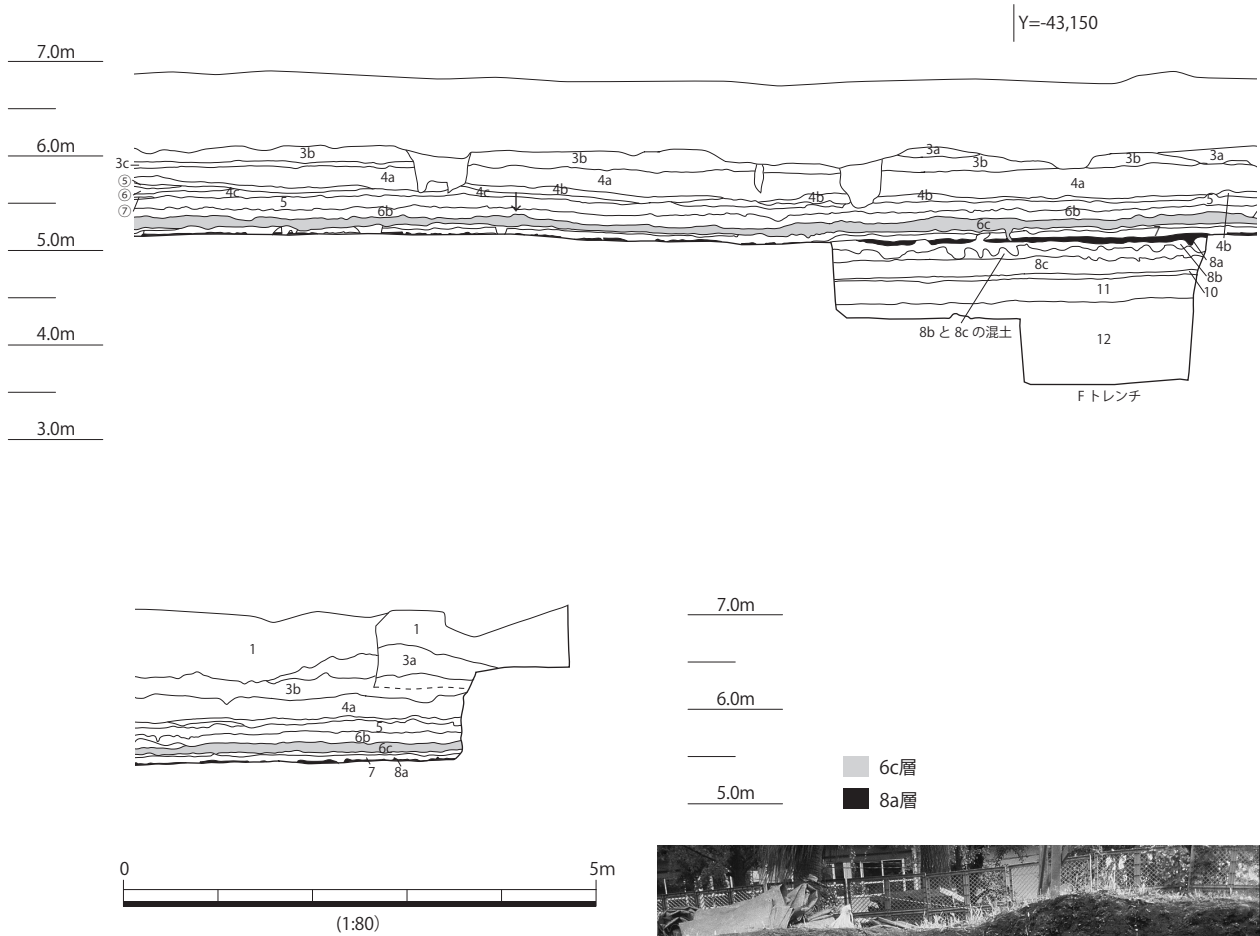
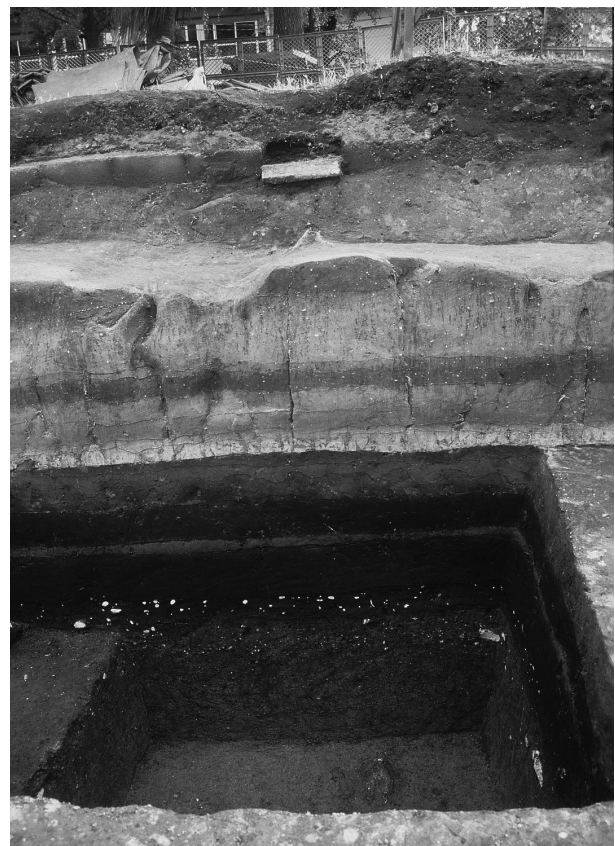


Fig. 9 南壁壁層位断面図 (2) S=1/80



1 Y=-43138 付近南壁
PL 5 南壁層位



2 Y=-43150 付近南壁

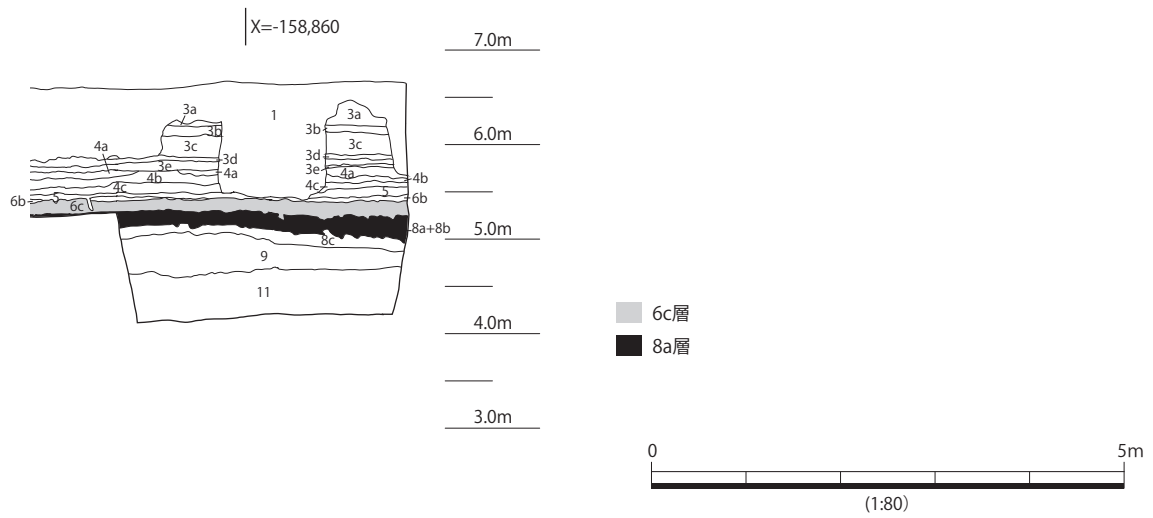
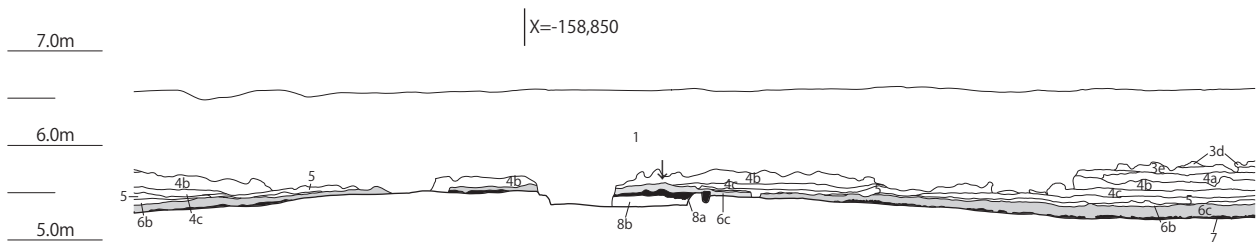
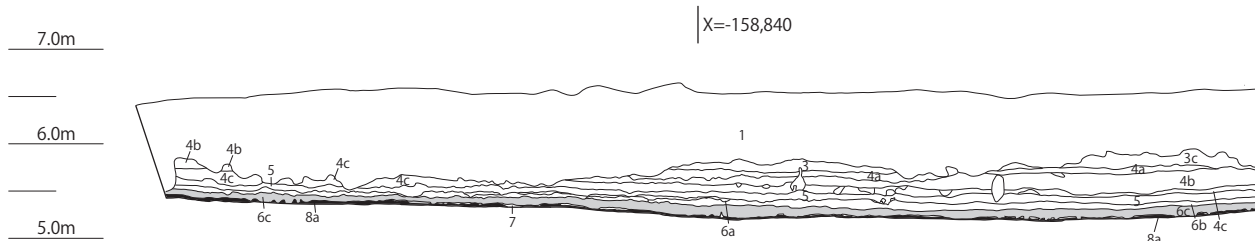
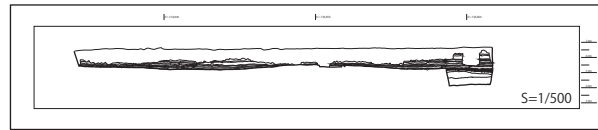
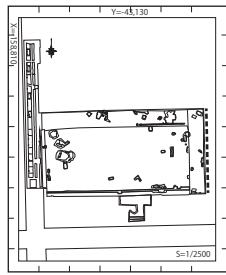


Fig. 10 東壁層位断面図 S=1/80



1 X=-158845 付近東壁



2 X=-158860 付近東壁

PL 6 東壁層位

- 3c層 灰白色 (10YR7/1), シルト質砂。黄色の軽石含む。マンガン浸透。
- 3d層 灰白色 (10YR8/1), シルト質砂。
- 3e層 褐灰色 (10YR6/1), シルト質砂。
- 4a層 灰白色 (10YR7/1), シルト質砂。
- 4b層 にぶい黄橙色 (10YR7/2), 砂質シルト。マンガン含む。2cm 大の軽石含む。
- 4c層 灰白色 (10YR7/1), 砂質シルト。
- 5層 灰褐色 (7.5YR5/2), シルト質砂。0.5 ~ 2cm 大の軽石を多く含む。
- 6a層 にぶい黄橙色 (10YR7/3), シルト質砂。
- 6b層 にぶい黄橙色 (10YR7/3), シルト質砂。砂っぽく, 1cm 大の軽石を含む。
- 6c層 灰黄褐色 (10YR6/2), シルト層。鉄分含む。
- 6c?層 にぶい黄橙色 (10YR7/2), シルト層。断面が筒状の鉄分見られる。
- 7層 淡黄色 (10YR4/1), シルト。
- 8a層 褐灰色 10YR4/1, 砂質シルト。微細な炭粒を含む。
- 8b層 暗灰黄色 (2.5Y5/2), 砂質シルト。0.5 ~ 2cm 大の軽石含む。
- 8c層 黒褐色 (10YR3/1) シルトと褐灰色 (10YR5/1) シルト質砂との混土。
- 9層 黒褐色 (2.5Y3/1), シルト。
- 10層 にぶい黄褐色 (10YR5/4), 泥炭とシルトの混土。
- 11a層 黒褐色 (10YR2/2), 泥炭層。一部赤褐色 (2.5YR4/6)。
- 11a層 泥炭層混じり粗砂
- 12層 灰黄褐色 (10YR4/2) に類似, 粗砂混じりシルト質砂。
- 13層 明黄褐色 (10YR6/6), 粗砂。
- 13層 軽石礫を多く含む粗砂層。
- 13層 黄灰色 (2.5Y4/1) に類似, 粗砂。

校舎基礎部分などの近現代の攪乱によって残存状況は異なるが、3～12層は整合的に堆積している。遺構として確認できなかったものの、3～7層までは灰褐色でシルト質を基調としていることや、鉄分やマンガンの浸透具合から、そのほとんどが水田層であった可能性が高い。出土遺物は小片が多いが、出土状況から (Tab.28・29)、3層は中世、4層が古代 (平安時代)、5層が古墳時代、6層が弥生時代～古墳時代、7・8層は弥生時代中期以前の遺物包含層と考えられる。遺構は、4つの面で検出できた。5層上面を第I遺構面、6層上面を第II遺構面、7層・8層上面を第III遺構面、8層上面を第IV遺構面とした。

第6章 各層の遺構と出土遺物

第1節 1・2層出土遺物 (Fig. 11～13 PL. 7～11)

1層は現代の攪乱を受けており、コンクリートブロックやなど建築資材の混入が多くみられた。校舎建て替え工事などによるものと考えられる。2層は近代の水田層と推定されたため、1層とともに表土として重機で掘削し、遺物は掘削中に採集したため、正確な出土層位は不明である。ここには50点を図化した。

1～3は弥生土器甕の口縁部である。1・2は入来Ⅱ式の甕口縁部である。1は上面が平坦で口端部外面はヨコナデによって断面M字状に凹む。口唇部内面はやや飛び出す形状を呈する。2も上面が平坦で水平方向外側に伸びるが、口唇端部は丸みを帯びている。3はやや上向きに屈曲すると推定される甕の口縁部である。口唇端部は丸い。肥後地方の黒髪式系の弥生甕口縁部の特徴に類似するが、焼成が硬質で赤褐色を呈し、入来式的である。4は円板状の平底底部で立ち上がり部分で欠損している。5は東原式甕の口縁部である。やや外反しながら開く形状で、一条刻み目突帯を持つ。刻み目には布目圧痕が認められる。口縁端部は丸い。6は甕口縁部片だが、口唇部付近は欠損している。外面に1条刻み目突帯が施され、刻み目には布目圧痕が認められる。外面・内面ともやや幅の広いハケ目が明瞭である。7は甕口縁部片である。断面が低い台形状の一条突帯を持ち、上部に突帯を胴部に接着する際つuitとと考えられる、連続的な指押さえ痕が認められる。6・7とも成川式土器である。8は成川式大壺の幅広突帯である。外面にはひも状の工具による格子文が施されている。9は成川式壺の底部である。やや丸みを帯びた平底で、器壁は厚い。10・11は成川式の高杯脚部である。10は脚部上部で、杯部との接合部で欠損している。かなり摩滅しているが、外面には赤色顔料が塗布されている。脚内部まで粘土が充填されている。11は脚下半部である。脚端部には平坦面を持つ。外面には赤色顔料が塗布され、ミガキが施されている。

12・13は須恵器である。12は大甕の口縁部で外反する形状を呈し、端部は細くとがり気味だが丸みを持つ。外面頸部には回転ナデの痕跡が認められる。13は高杯脚上半部である。杯部接合部で欠損している。外面の縦半分は、暗赤褐色を呈する。14は内黒土器器碗である。口縁端部はやや丸みを帯び、外反する。胎土・成形とも精緻である。15～18は土師器碗の底部付近で高台を持つ。いずれも摩滅が著しい。15は外側に踏ん張る高台を持ち、外面の体部との接合付近は工具ヨコナデによるハケ状の痕跡が残っている。18は低脚で外側に開き、底部器壁は厚い。19～21は土師器杯の底部である。19は器壁が厚く、底面には回転ヘラ削り痕が認められる。20も底部が小さく厚い。摩滅が著しいが、底面に回転ヘラ削りの痕跡が認められる。21はやや内湾気味に立ち上がるため、胴下半部は丸みを帯びた形状になると推定される。

22・23は近代の素焼きの貯金壺である。両者は同質で径のサイズも合うため、同一個体と判断した。22は縁のみが残存しているが、上面は中央に凹む形状を呈している。23は平底で底面には糸切り痕が明瞭に残る。24は同じく平底の底部だが、内面中央部から外側への回転ナデの結果、中央部に突起が残っている。底面には回転糸切りの痕跡が明瞭に残り、やや上面にそっている。

25は瓦器の火鉢である。外面は赤褐色を呈し、口縁部直下に一条の横沈線が施されている。口縁部外面から上面・内面突起部までススが付着している。内面には浅いハケメが横方向に施されている。

26～37は陶器である。26は苗代川焼きの深鉢で、口縁部は内側水平方向に肥厚し、内面端部はやや丸く仕上げる。外面口縁部直下には横方向の強いハケメによる凹凸が認められ、複数条の沈線文に見える。内面は光沢のある釉が施されているが、外面は風化し白色化している。27は苗代川焼き播鉢の口縁部である。口縁部はやや上向きに屈曲し、内側にも張り出しを持つ。口縁端部は丸みを持つ。内面にわずかにハケ目が確認でき、播鉢と判断された。28は鉢の口縁部である。内外面に光沢を持つ釉薬が施されている。口縁部はやや上向きに広がり、端部は丸い。29は碗の高台である。緑がかかった灰色の釉が施されており、青磁であると推定される。内面には環状の釉のふき取りがある。高台外面にも釉が施されている。30は近世前半の肥前焼きの皿である。茶色がかかった胎土に緑味を帯びた釉が厚めに施されているが、高台部は無釉である。31は龍門司焼の水注胴部である。明瞭な屈曲部を持ち、その下部は削り痕が横方向に連続した平坦面として認められる。胎土は緻密で硬い。薩摩地方で「カラカラ」と呼称される酒器にあたと推定される。32は苗代川焼の壺口縁部である。短く立ち上がる形状で、肩部が



Fig. 11 1・2層出土遺物(1) S= 1/3

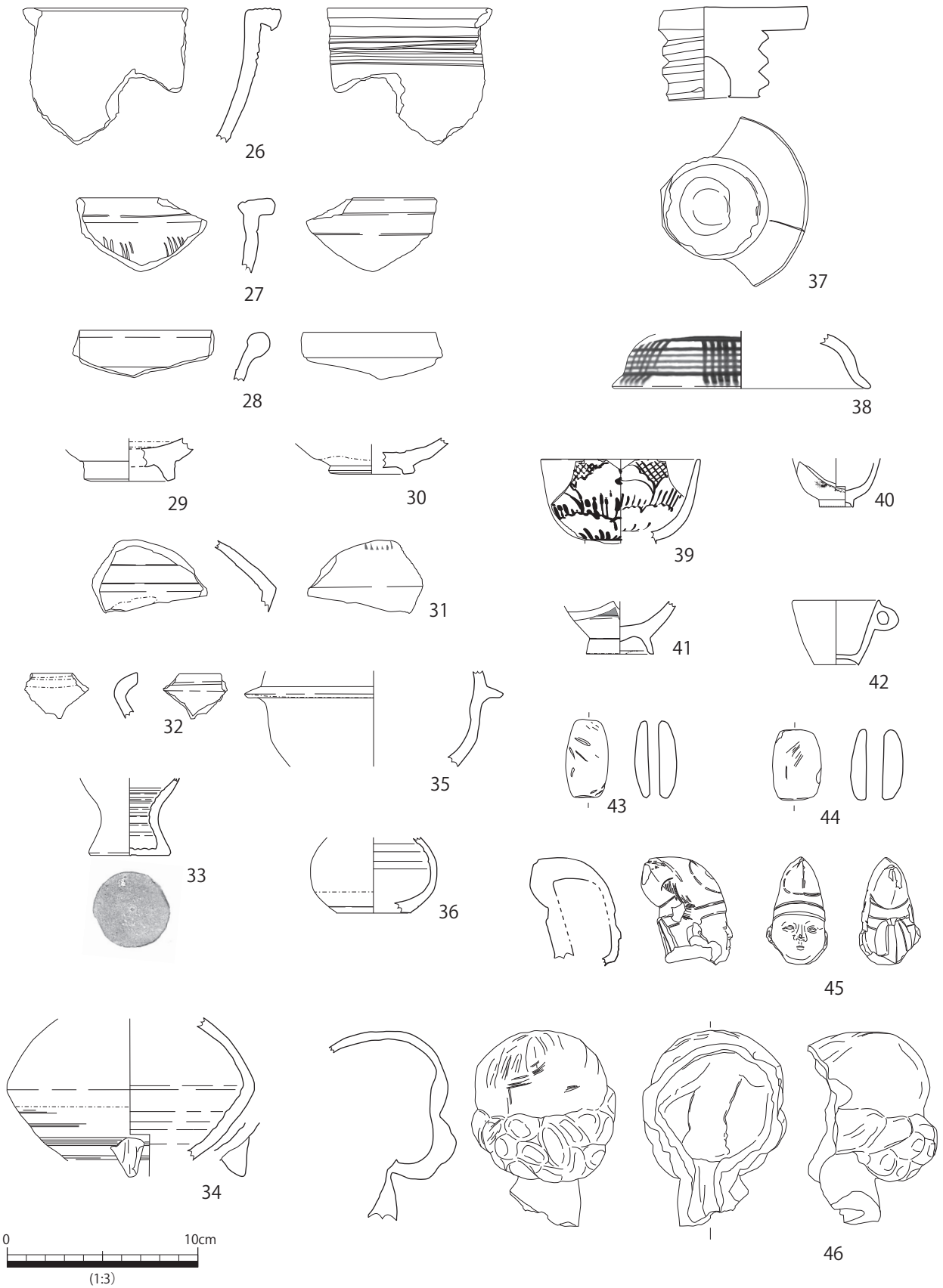


Fig. 12 1・2層出土遺物(2) S= 1/3

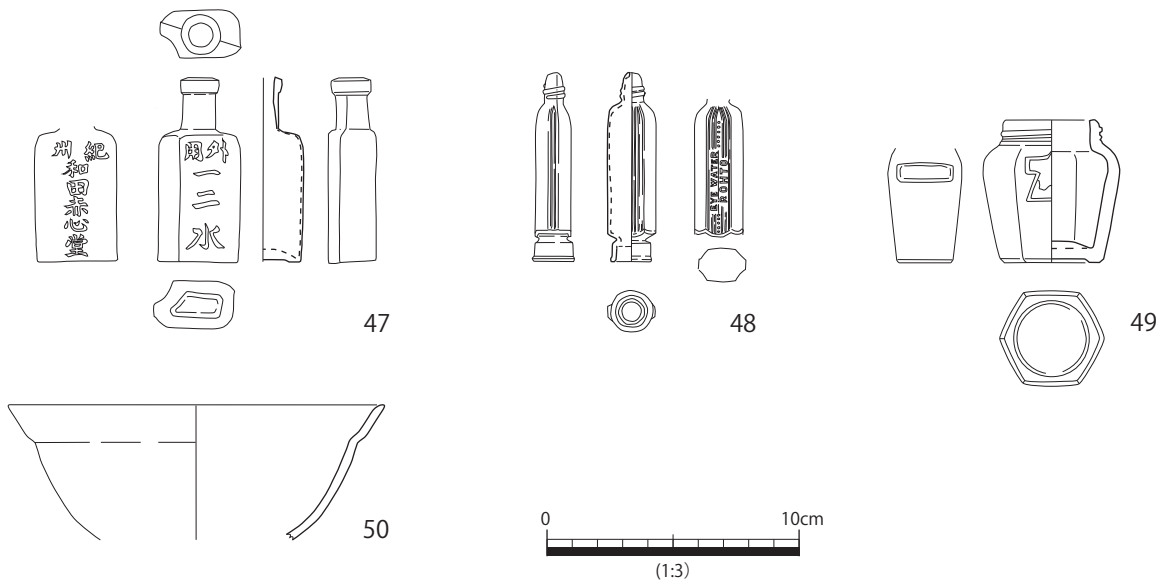
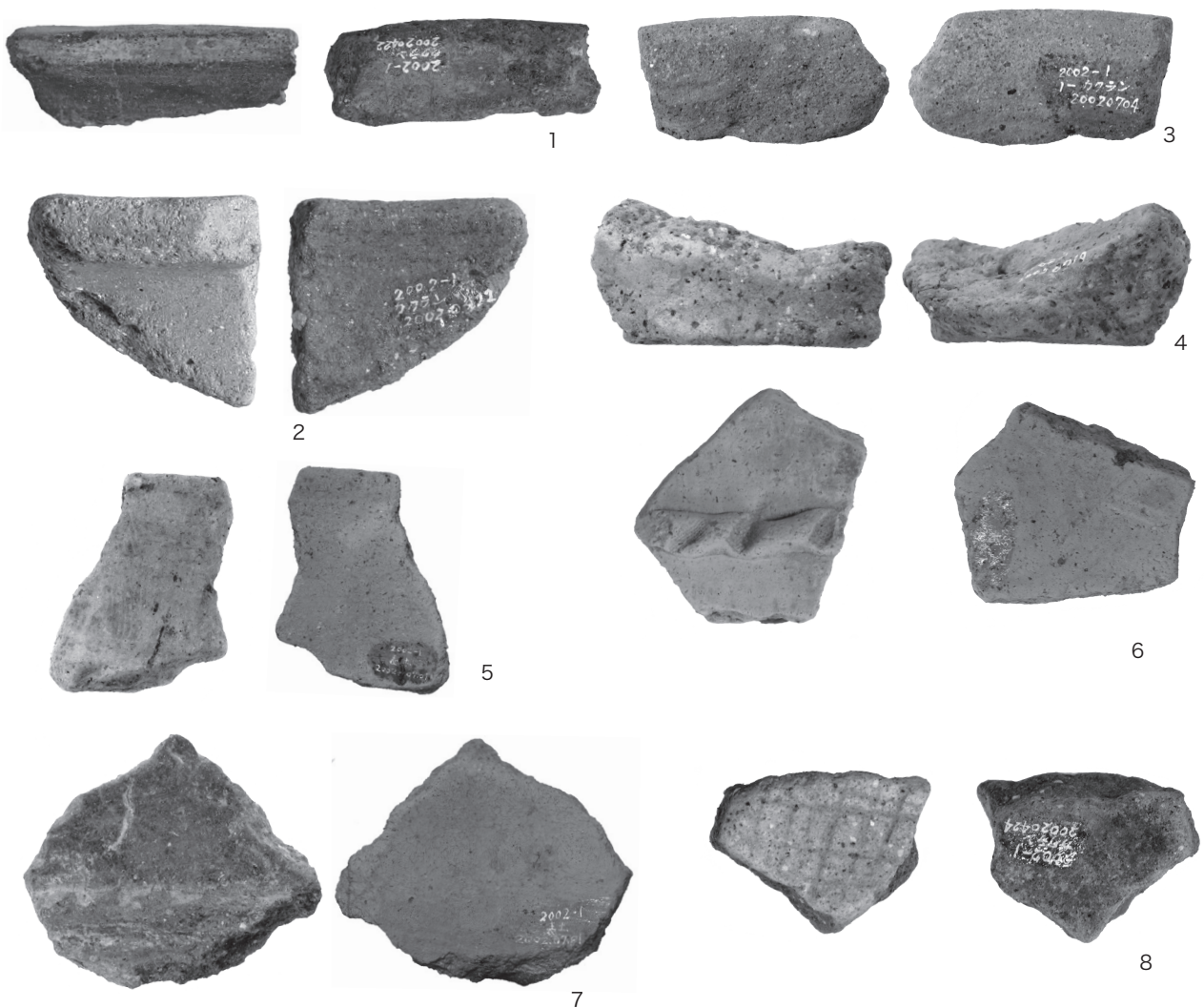
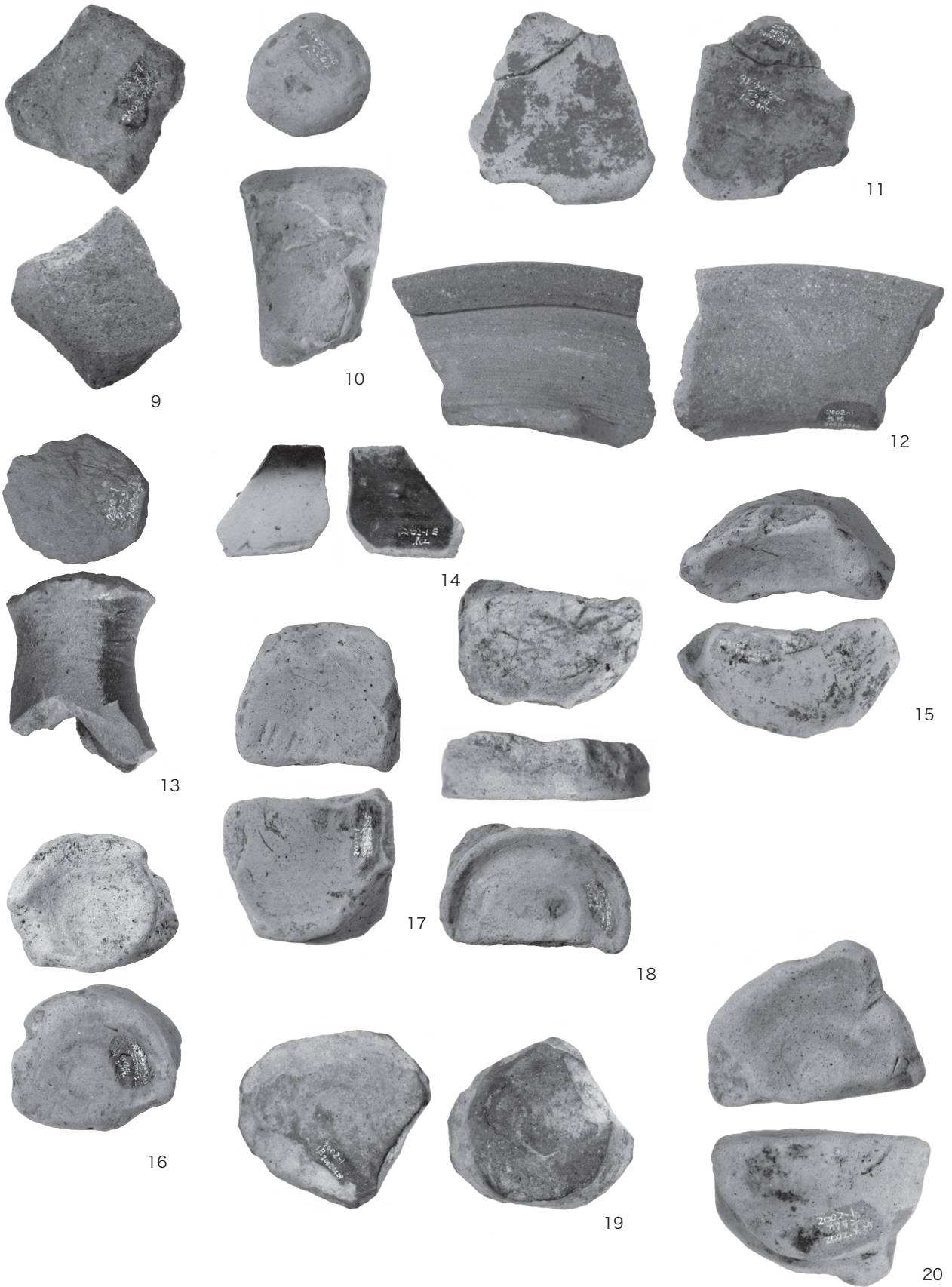


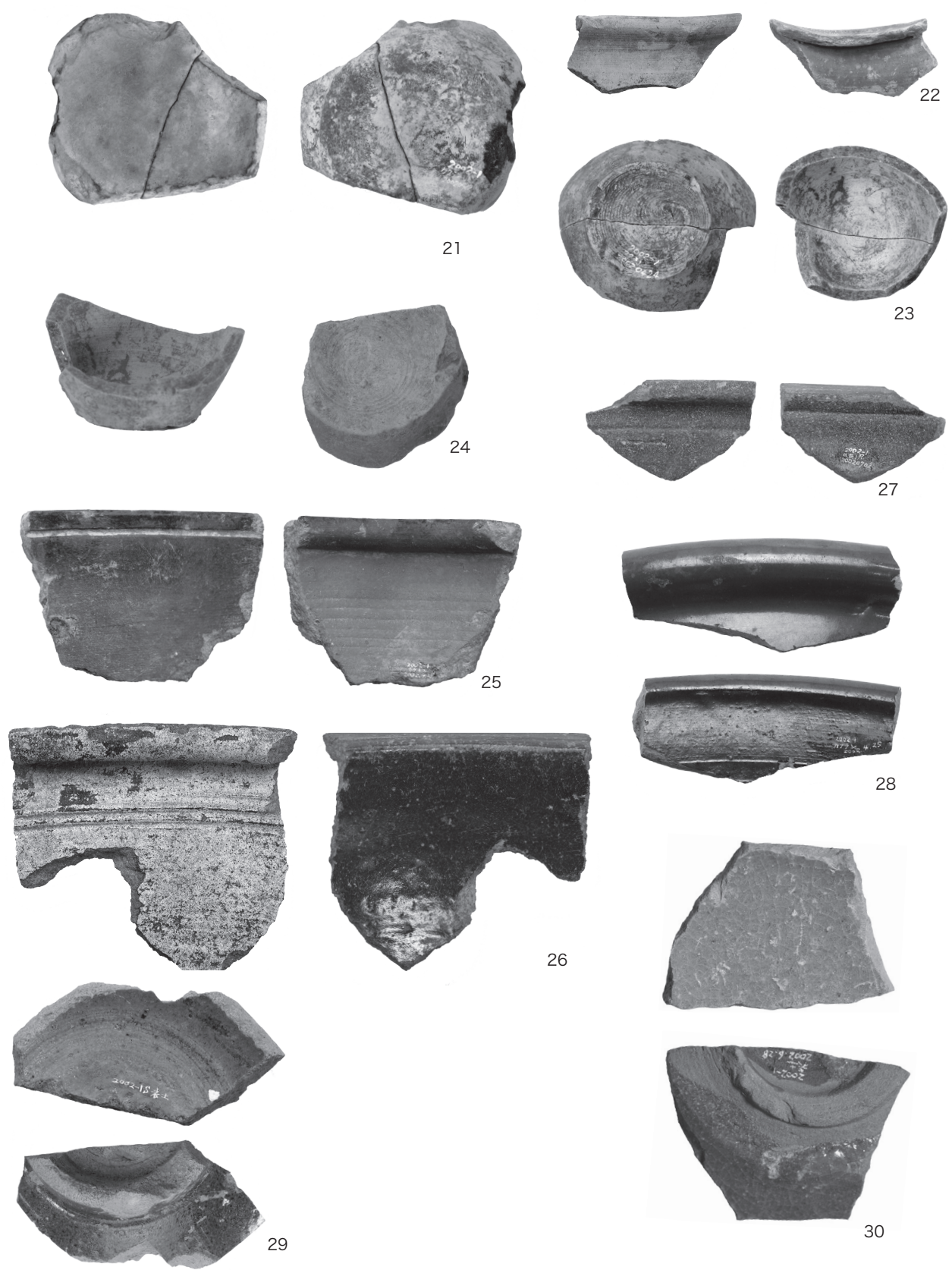
Fig. 13 1・2層出土遺物(3) S= 1/3



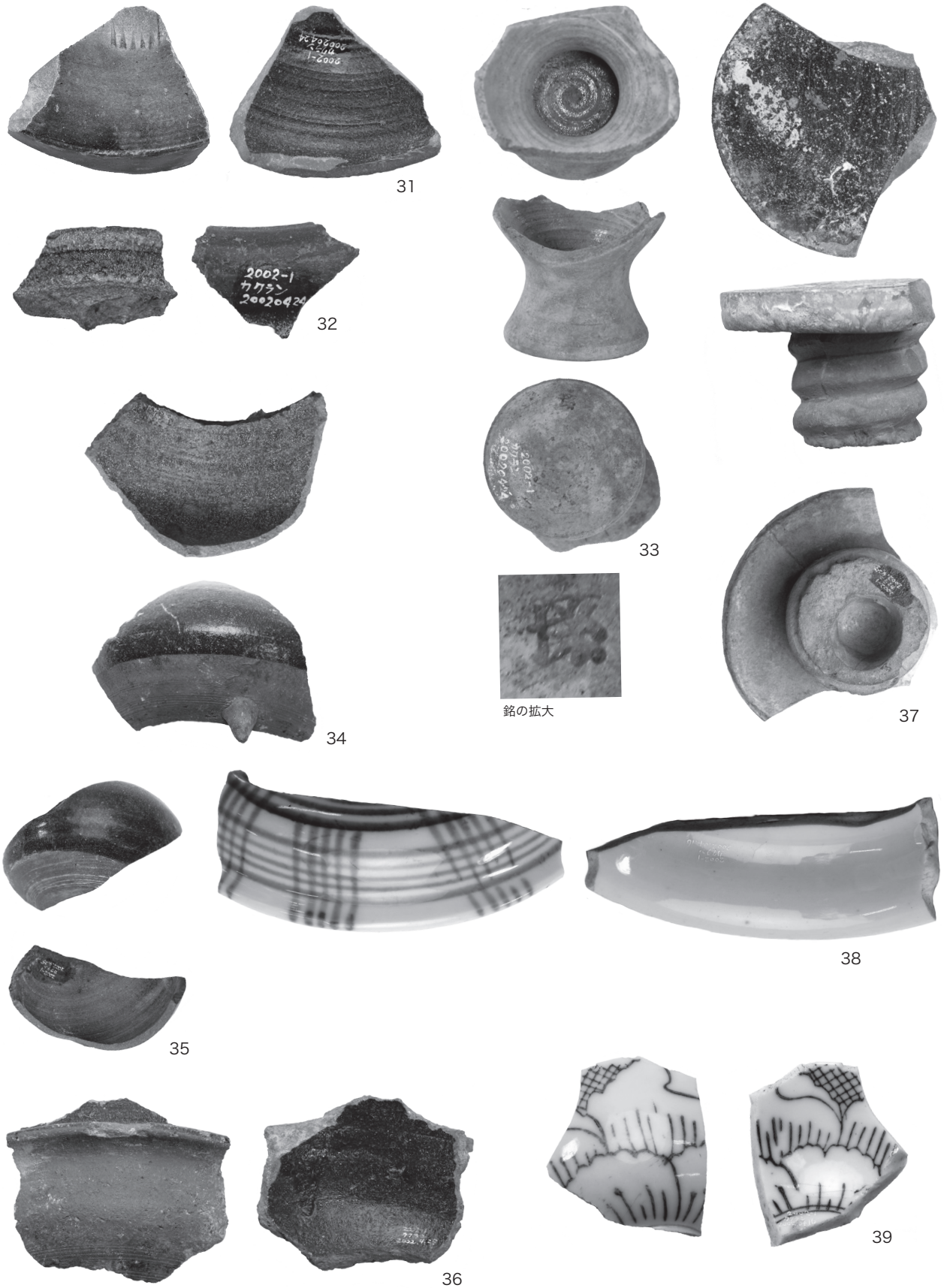
PL 7 1・2層出土遺物(1)



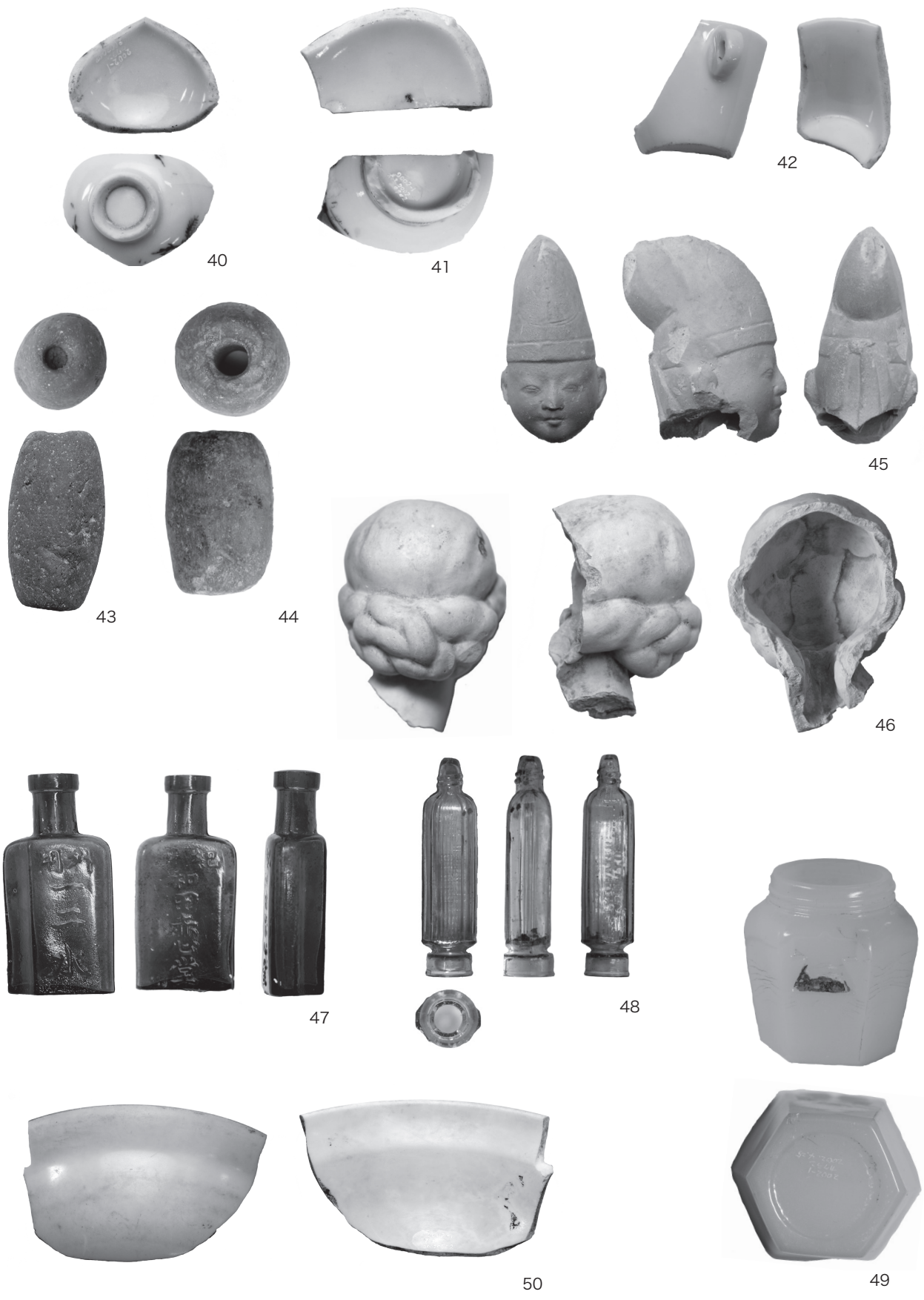
PL 8 1・2層出土遺物(2)



PL 9 1・2層出土遺物(3)



PL 10 1・2層出土遺物(4)



PL 11 1・2層出土遺物(5)

張る。内面には釉のふき取りが認められる。33は灯明受け皿の底部である。胎土は灰黄色を呈し緻密で、内面のみ等名釉が施されている。外面は丁寧になでられているが、内面には回転ナデの痕跡が顕著である。底面は平坦だが、スタンプによる「孫」銘がある。34は苗代川焼の土瓶である。底面が欠損しているが、足が1個残存している。胴部はやや下膨らみの算盤玉状を呈し、屈曲部より少し下位まで施釉されている。底面付近は無釉でススが少し付着している。35は土鍋の下半部である。張り出し部分より下部は無釉である。釉は光沢が強く、近代以降のものと推定される。36は陶器の茶入れである。内面と底面付近は無釉である。胎土は緻密である。37は硫酸瓶の蓋である。上面に釉が施されているが、下部は無釉である。3つのネジ山が作り出されている。底面と側面に型作りの痕跡であるバリが認められる。

38～42は磁器である。38～41は染付で、呉須による文様が施されているが、いずれも青みが鮮やかなコバルトブルーの発色を呈し、近代以降のものであると考えられる。38は浅いが内面に文様がなく、蓋であると考えられる。40は外面に松葉文と高台内面に一条の圈線が施されている。内面は無紋である。39は碗で、内外面ともに花卉の紋様が施されている。41は小杯の底部である。やや青味を帯びた透明釉が内外面共に施されている。42は小さな把手がついた無紋の小碗である。

43・44は土鍾である。どちらも長さ5cmほどで、端部や外面にヒモ擦れの痕跡が認められる。45・46は素焼きの土人形の頭部である。45は頸部から下が欠損している。明橙褐色を呈し、緻密な胎土である。中空で型作りであるが、紋様が精緻で仕上げも丁寧である。46も後頭部のみ破片である。灰白色を呈し中空で、内面には型に粘土を入れ込んだ時の粘土の継ぎ目やユピオサエの痕跡が明瞭に残っている。

47～49はガラス容器である。47は青ガラスの薬瓶で、外面には「紀州 和田赤心堂」「外用 一二水」との陽刻がある。48は透明度の高い水色のガラス瓶である。一方の先端が丸く目薬便で外面に「EYE WATER ROHTO」との陽刻がある。49は不透明な白色のガラスで、化粧瓶である。外面に紙ラベルが残存しているが、表面が剥落して文字などは見えない。

50はプラスチック製の鉢である。白色を呈し、器壁が上部から下部まで一様で軽い。

第2節 3層出土遺物 (Fig. 14 PL. 12)

51・52は弥生土器である。51は甕の口縁部で、ほぼ水平方向に伸び、端部に平坦面を持つ。内面には上部にはわずかに張り出しがあり、回転ナデが認められる。52は甕の脚台である。充実脚台で、端部が少し張り出し、底面はわずかに上げ底状を呈する。底面の凹み部分には同心円状のナデ痕が認められ、回転台に乗せ、底面のナデ調整を行ったと考えられる。53・54は成川式土器である。53は甕体部底部分で脚台との接合部で欠損している。54は高杯の杯部である。碗形を呈する杯部下部の屈曲部付近の破片である。外面には赤色顔料が塗布され、ミガキが施されている。胎土は精製されている。

55～57は土師器である。55は杯か碗の口縁部である。56は碗の高台付近である。高台内面の天井部が中心部に向かって下がる形態を呈する。57は高台部である。やや外側に開く形状を呈する。杯部底面は欠損しているが、立ち上がり部は残存している。粘土接合部で欠損したのと考えられる。

58・62は瓦器の摺鉢である。58は黄白色を呈し土師質であるが、外開きの器形で口唇部をM字状にくぼませる形状を呈し、内面はかなり剥落しているものの、下部に幅の広いスリ目が認められる事から、表面の還元処理がされなかったものと判断した。62は、内面に6条1組のスリ目が2箇所確認できる。

59は須恵器の杯か碗の口縁部である。緻密な胎土で、回転ナデが施されている。

60は青磁碗の胴部である。灰色の胎土で、透明度のある緑色の釉が施されている。外面に鑄入り蓮弁が確認できる。61は磁器碗の底部である。低い高台を持ち、内外面とも施釉されているが、破片上部のみで、見込み付近は無釉である。

63は凹石である。緩やかに凹むように加工されていると思われるが、表面の風化等により詳細な加工痕は不明瞭である。

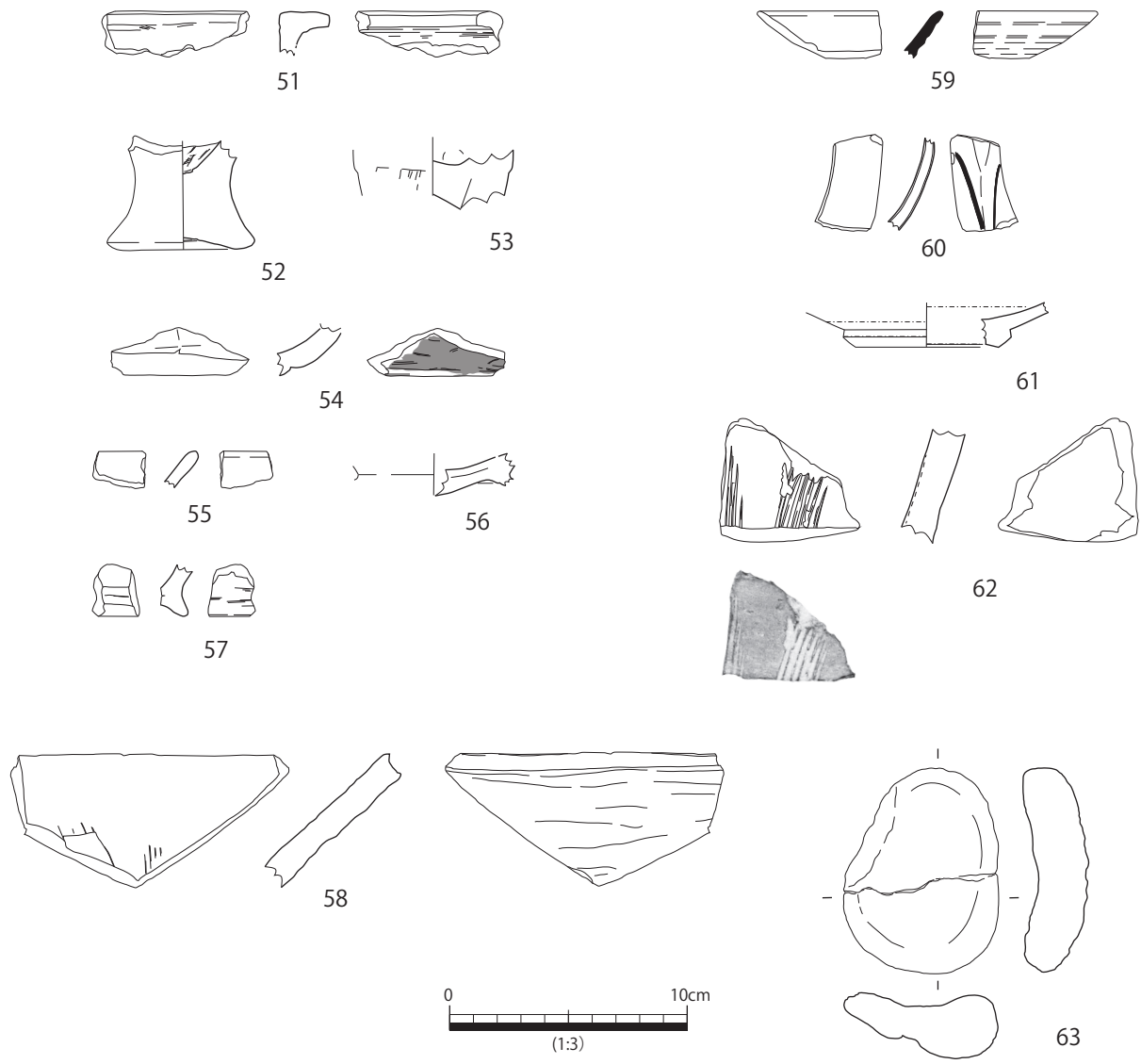
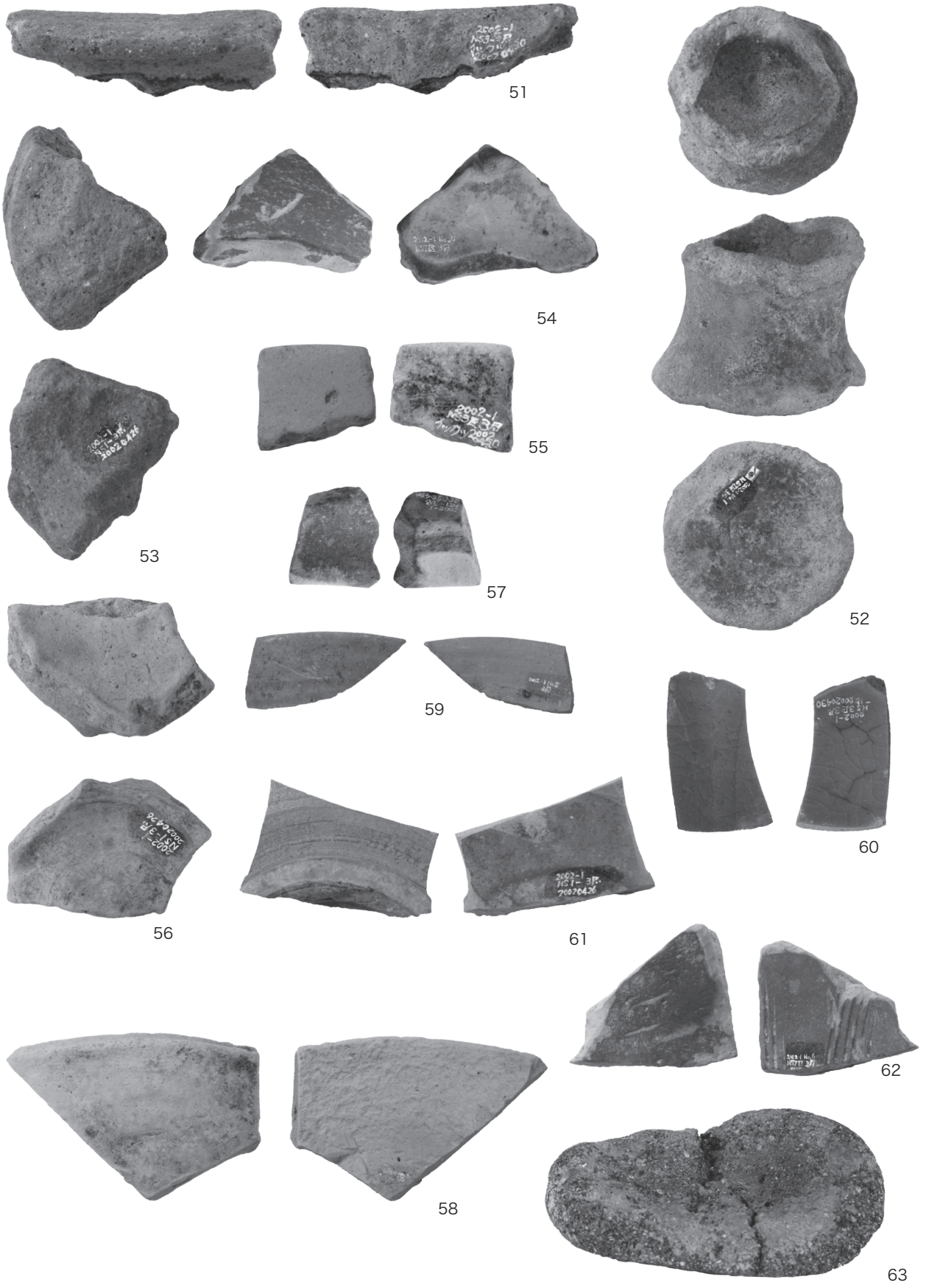


Fig. 14 3層出土遺物 S=1/3



PL 12 3層出土遺物

第3節 4層出土遺物 (Fig. 15～17 PL. 13～17)

64～67は弥生土器である。64は入来Ⅰ式の甕で、断面三角形口縁部で上面はやや下向きである。65・66は入来Ⅱ式の甕口縁部である。上面は水平で口唇部端部が窪み、断面M字状を呈する。67は壺の口縁部である。湾曲気味に外に開く器形で、端部はヨコナデによりくぼんでいる。

68～82は成川式土器である。68～72は甕の口縁部である。68・69は直立する器形だが、わずかに端部を外反させており、端部はヨコナデによって角張る形状である。70～72は直立もしくはやや内湾気味の器形で、端部はやや丸みを帯びる。72は1条の刻み目突帯を持つ。72は甕にしては砂粒が少なく精緻な胎土である。73～77は口縁部付近の突帯や沈線文が施されている部位である。73～75は紋様を施されている部分より上部が反りながら外に開く形状を呈し、成川式でも前半期のものであると考えられる。73は1条の断面三角突帯、74は刻み目突帯である、75は浅い横方向の沈線の下に、浅い刻みが施されており、1条刻み目突帯に類するものと考えられる。76・77は直立もしくは内湾気味の器形に施されたものと推定できるが、いずれも指でつまんだ痕跡を残す絡縄突帯である。78～80・82は甕の脚台部である。78は体部下半部から脚大部分にあたる。脚台内面には、内面の器面調整痕であるハケメが放射状に施されているのが明瞭に残っている。外面は被熱のため赤変し、体部内面は黒く焦げ付いた跡が認められる。79・80は甕の脚部で端部に平坦面を持つ。81は鉢の口縁部である。端部を細くとがらせる形状で、その外面には横ナデを施している。82は低い脚部で小型の台付き鉢である。端部が先細りの丸みを帯びた形状である。

83～88は弥生時代から古墳時代の壺である。83・84は壺の多条突帯部分である、83は肩部にあたり、断面三角形の2条の突帯が添付されているが、欠損している下方にも数条施されていた可能性は高い。84は胴部で断面三角形の3条の突帯が添付されている。いずれも弥生時代中期段階のものであると推定される。85・86は壺の1条刻み目突帯である。85は断面方形の突帯に縦長の刻みを短い間隔で施しており、刻み工具が胴部に接触した痕跡から、細長いヘラ状のものであったと推察される。86は刻み目に布目圧痕が明瞭に残っており、刻み工具に布を巻いていたと考えられる。87は大型の壺に施される幅広突帯である。突帯を数条の横沈線によって区画し、縦方向に刻み目を入れている。上下の刻み目の位置が連続する事から、長い工具で上下同時に刻みを施したものである。88は壺底部である。底面をコブ状に肥厚させ、底面は丸みを帯び、立ち上がり部はゆるやかである。

89～95は成川式の高杯である。89～92は杯部で外面下部に段を有する椀形である。89は赤色顔料が塗布されていないが、胎土は精製されており、赤色塗布されている90～92と胎土は類似する。92は脚部との接合部で欠損している。93～95は脚部である。いずれも外面に赤色顔料が塗布され、ミガキが施されている。93内面には絞り痕が認められる。94内面上部は、接合部で欠損している。94・95ともスカート状に広がる脚部形態で、端部は平坦に仕上げている。96～100は埴である。96は底部が丸みを持つが、立ち上がり部には稜線が明瞭に残る。精緻な胎土である。97～100の外面には、高杯同様、赤色顔料が塗布され、ミガキが施されている。胎土も精緻である。97・98は反り返るように屈曲する肩部である。どちらも胴部屈曲部接合面で欠損している。97内面には絞り痕が認められる。99・100は底部だが、少し上げ底状を呈する。

101～110は土師器である。101～103は杯の底部である。101・102は底面ヘラ切りで、内外面にも回転ナデが認められる。103は著しく摩滅しており、器面調整等詳細は不明である。109は杯の底部である。104・105は杯か碗の口縁部である。106～108は碗の高台部付近である。106は高台接合部で欠損している。107は内面が褐色を呈し、108は内外面の一部に赤色顔料が認められた。110は蓋である。端部が屈曲し、内面屈曲部に稜線を持つ。

111は白磁皿の底部である。抉り入り高台で接地面のみが無釉だが、それ以外は全面少し緑がかかった透明釉が施されている。内面に1か所の目跡が認められる。胎土は黄白色である。

112・113は石器である。112は片面に弾けによると思われる凹みがあることやひび割れの痕跡、部分的な黒色

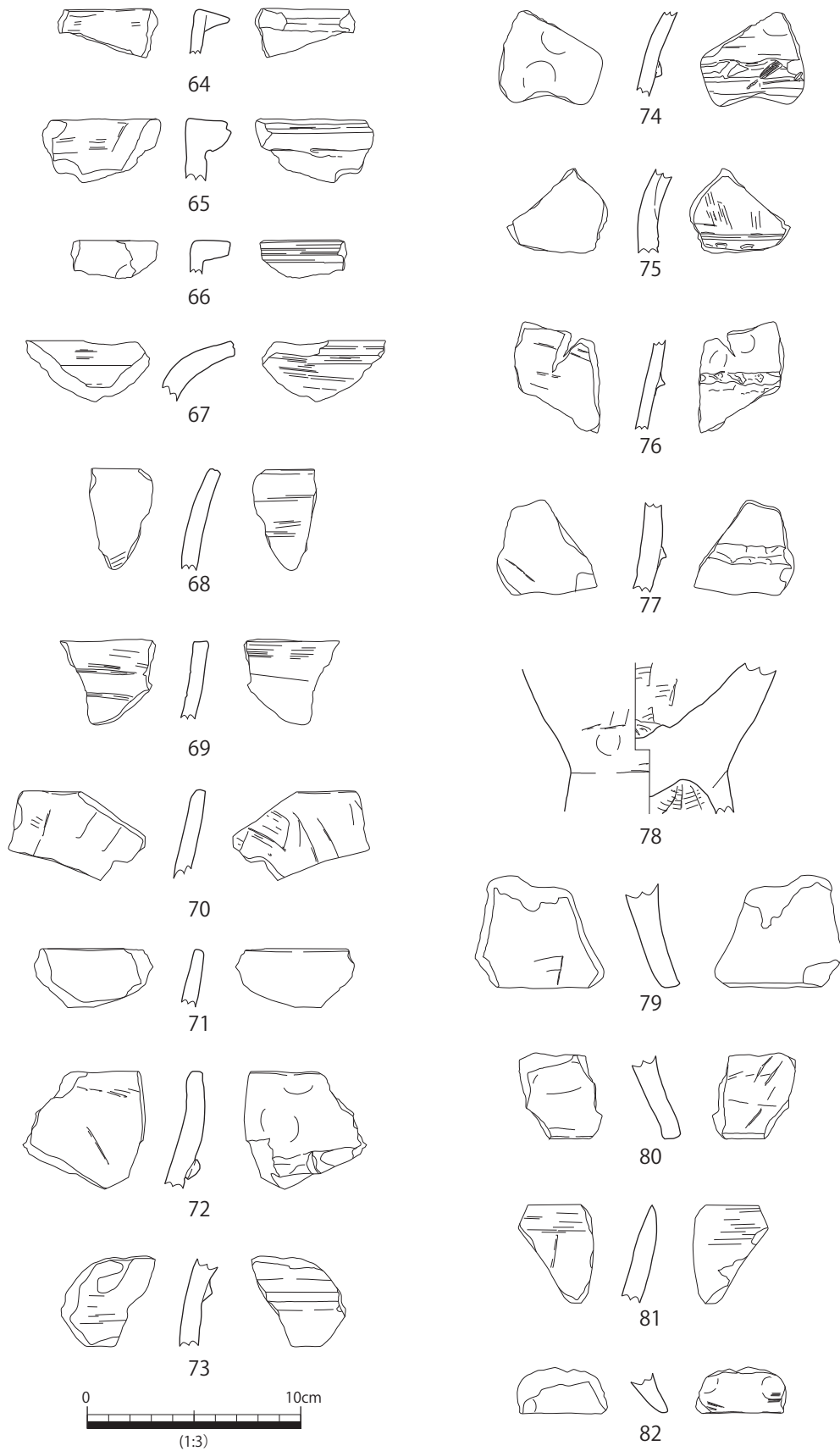


Fig. 15 4層出土遺物(1) S=1/3

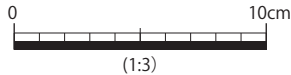
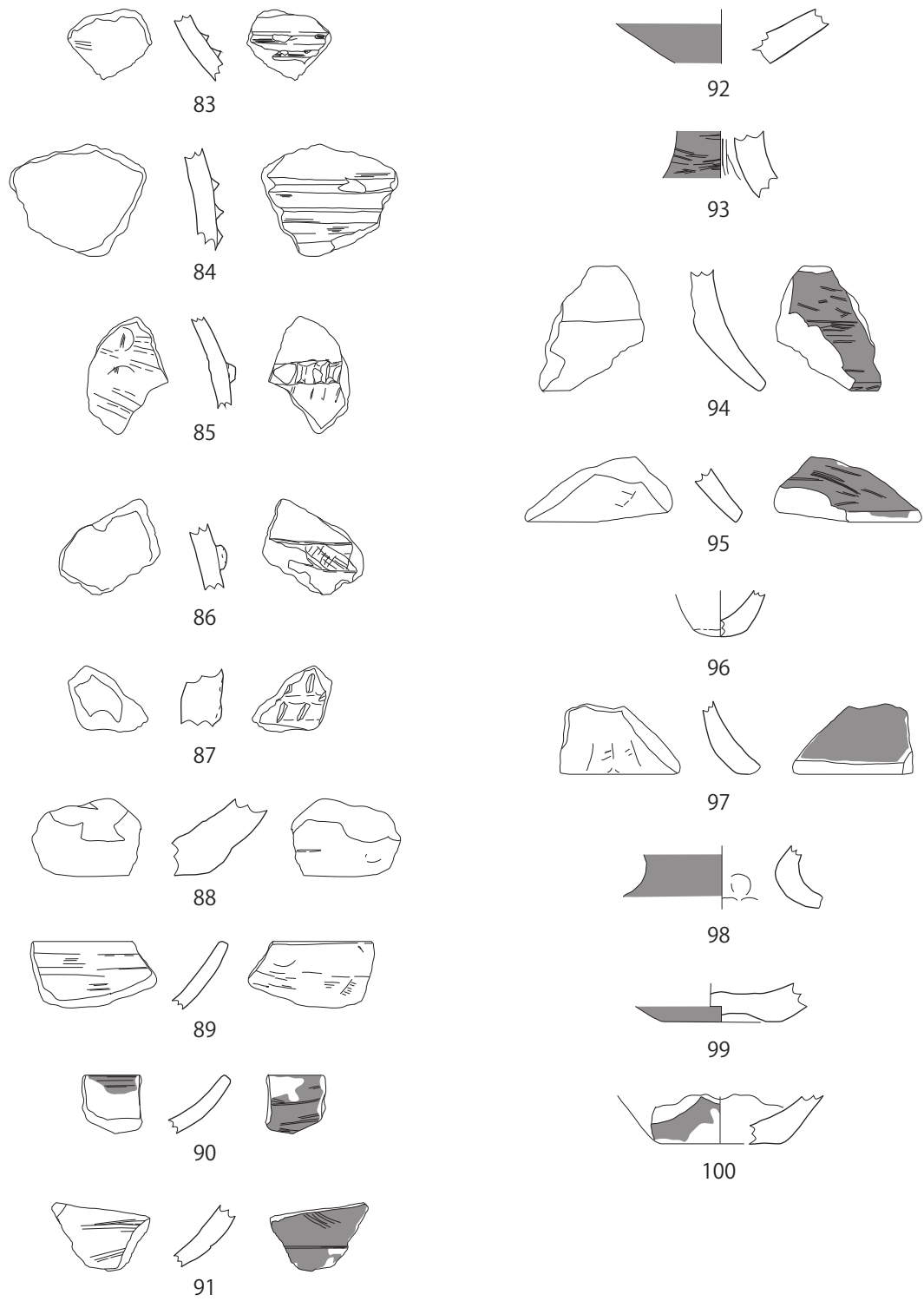


Fig. 16 4層出土遺物 (2) S=1/3

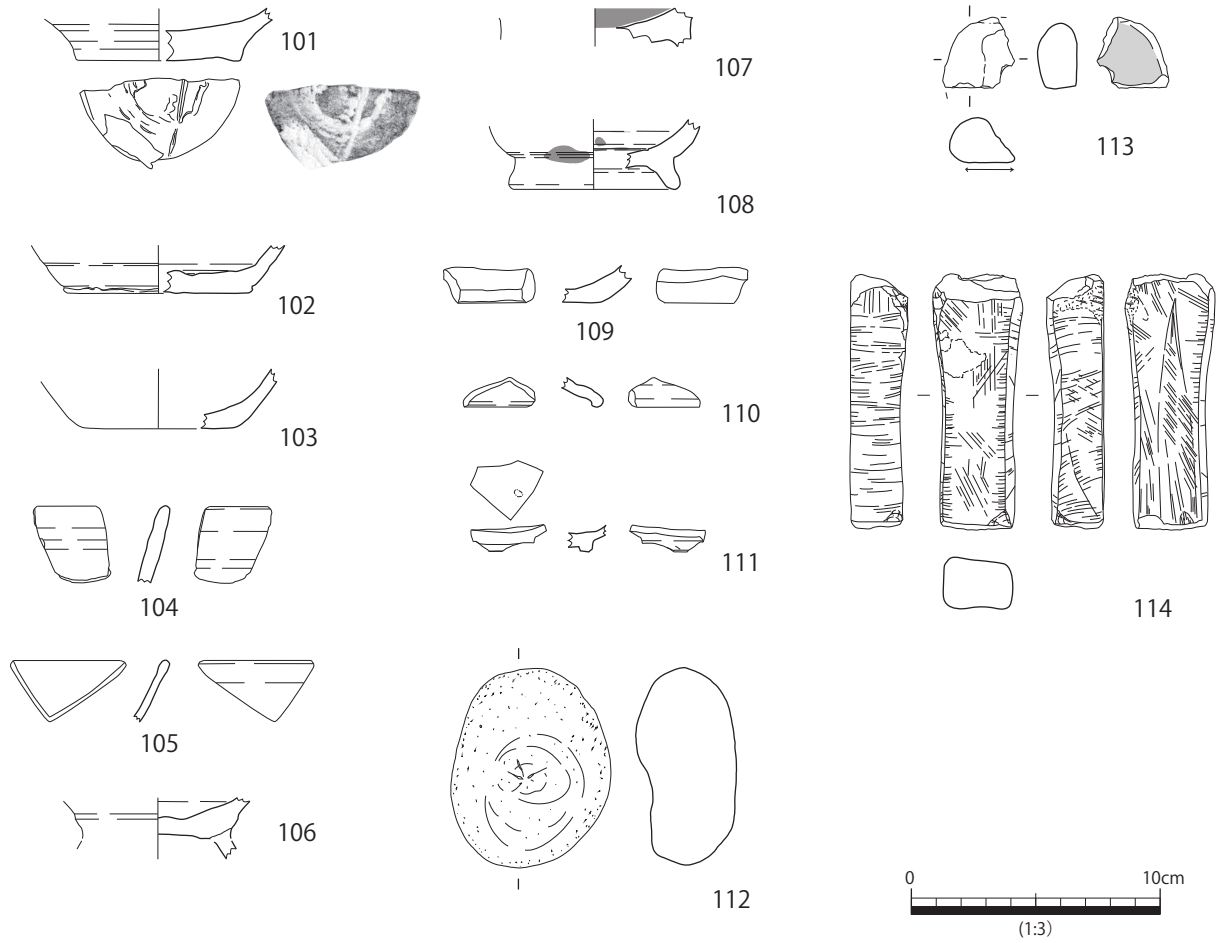
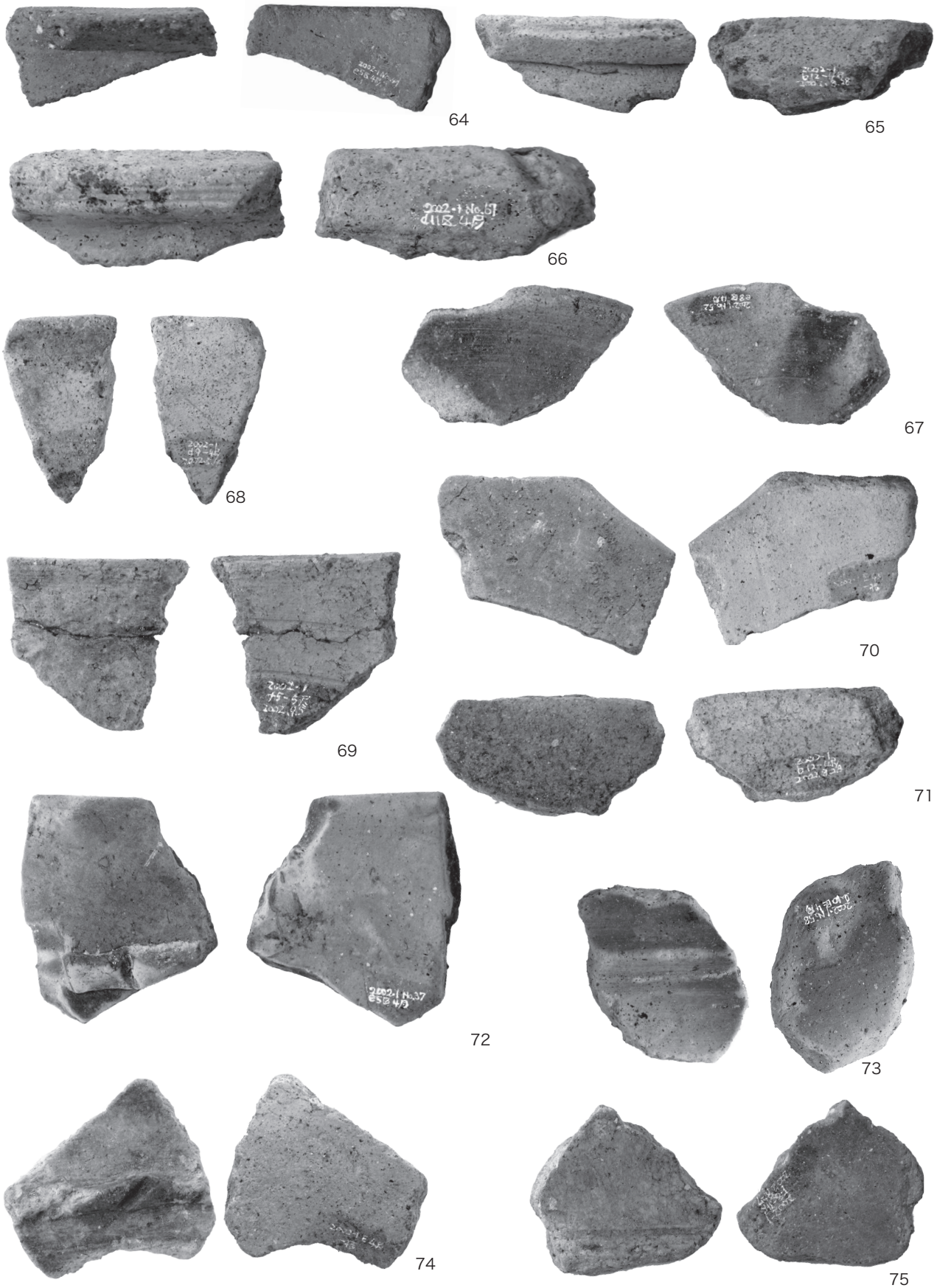


Fig. 17 4層出土遺物(3) S=1/3

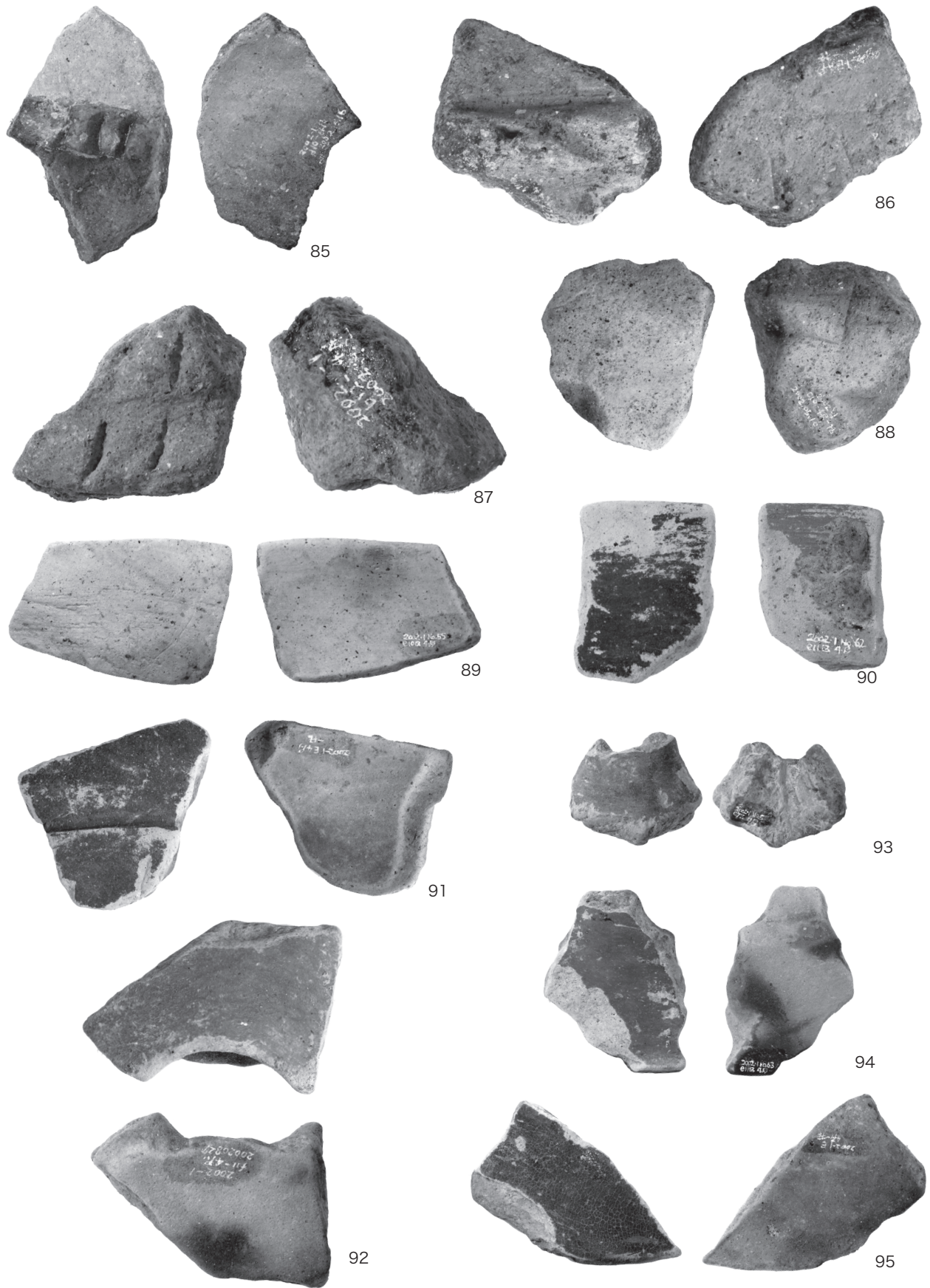
化などから、被熱礫であると思われる。113は小片であるが片面に平坦な磨面が認められ、磨石片であると考えられる。114は砂岩製の砥石である。細長い立方体状を呈するが、中央部がやや湾曲している。上部は欠損するものの、四側面とも擦り面が認められる。



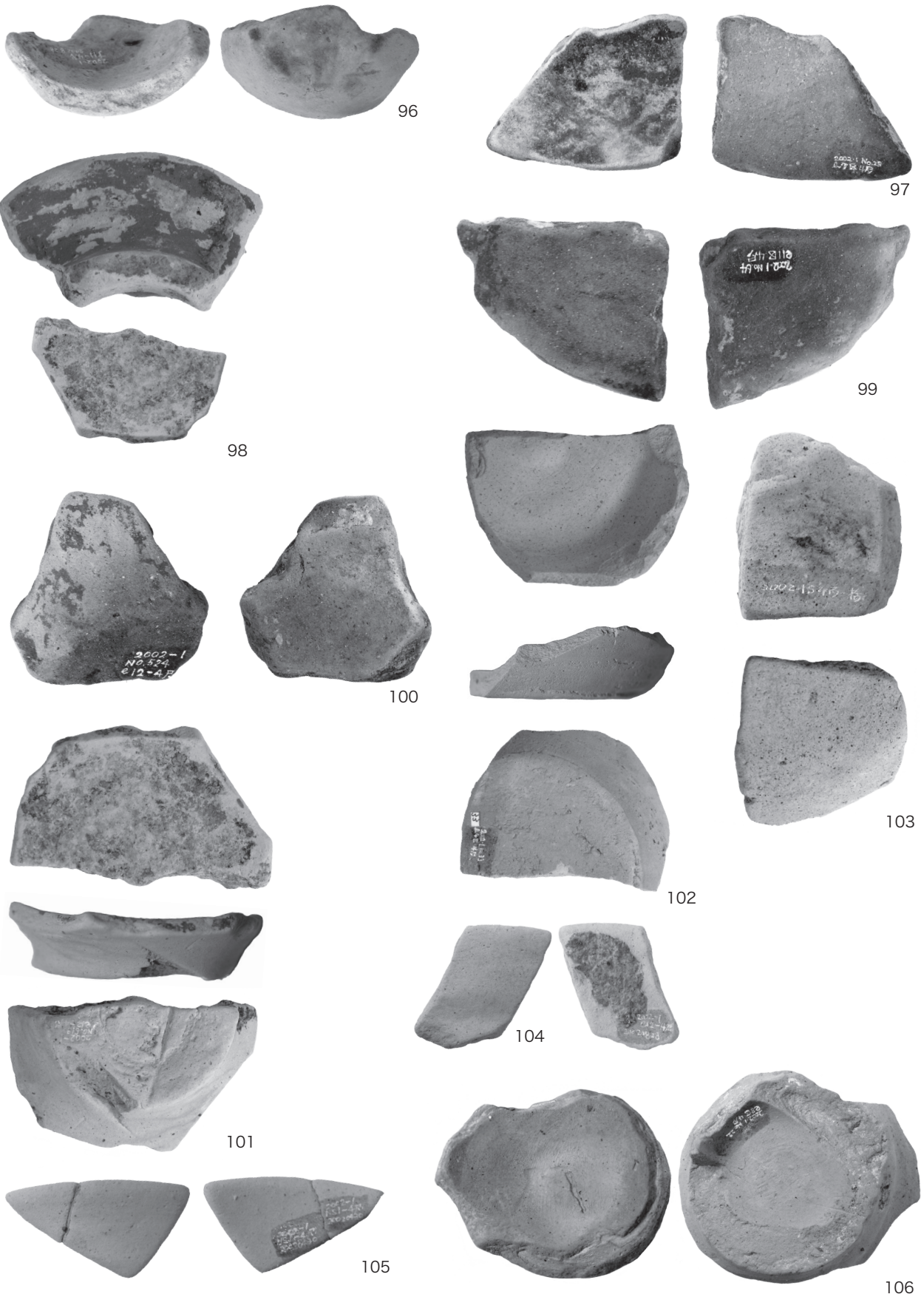
PL 13 4層出土遺物(1)



PL 14 4層出土遺物(2)



PL 15 4層出土遺物(3)



PL 16 4層出土遺物(4)



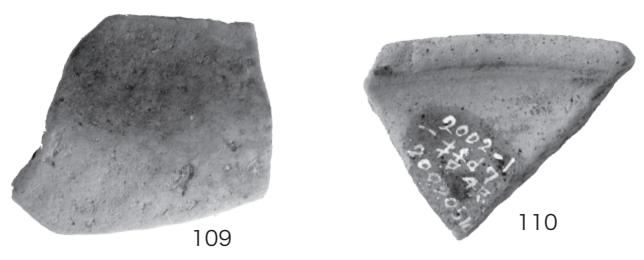
107



108

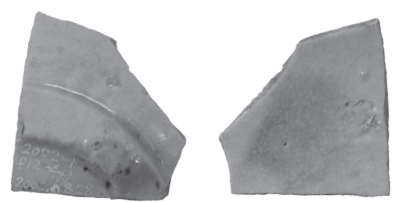


2002-1
E12-4
2002.9.3



109

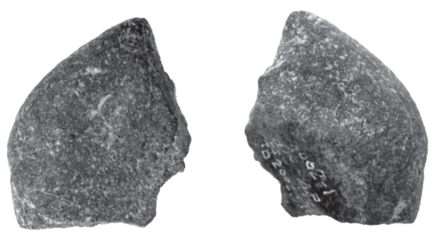
110



111



112



113



114

PL 17 4層出土遺物(5)

第4節 第I遺構面（5層上面）検出遺構・出土遺物

1 波板状凹凸面 (Fig.19 PL. 18 Tab. 4・5)

調査区中央部に37個の土塊状の窪みが北北東-南南西方向に並んで検出された。土塊は不定形や楕円状のものが多く、大きさは直径が70～15cm程度、深さ1～18cmと浅い。各土塊の底面は安定した平坦面を持たず、凸凹が著しい。土塊の芯芯距離は、70～90cmとある程度一定している。2列認められるが、西側列はさらに南側と北側で軸がずれており、2列に並ぶ小さな窪みが重なり合っているようにも見える。埋土はいずれも検出面直上の4層土を基調とするが、砂ブロックも含まれる。

不定形の浅い窪地状で、複数列並び、間隔にあまりバラツキがないことから牛馬が繰り返し歩いた痕跡である「波板状凹凸面」⁴⁾であると推定される。この遺構は道跡に関連すると考えられているが、本調査では検出できなかった。

2 SD3と出土遺物 (Fig. 20 PL. 18・19)

南区と調査区旧校舎部分で溝状遺構を検出した。調査の際には、北側で検出した遺構をSD3、南区検出のものをSDs1と呼称したが、検出面と位置関係から調査区Aで検出されていた波板状凹凸面と関連する同一遺構であると判断された。ただし、SD3とSDs1は凹凸面ではなく溝状を呈することから、SDs1・SD3として扱う。

南区検出は南側がやや広く1.7mほどの幅を持つが、主流部は幅約1mほどで深さは10cm弱である。底面に部分的な窪地状の部分があるが、深さ20cm弱で波板状凹凸面の深さと共通している。北側で検出した部分は、溝状の平面形を呈するが、高低差がほとんどなく、範囲内に細かい凹凸面が形成されその窪地に粗砂が詰まっている状態であった。溝状遺構の底面付近だけがかろうじて残存していたと推定される。

出土遺物

SD3の粗砂層中から小片の遺物が出土している。このうち、図化できたのは3点であった。

115・116は古墳時代成川式土器の甕口縁部である。115は外面に細い絡縄突帯を1条施し、内湾気味に直立する。表面はやや摩滅している。116も内湾気味に直立するが、突帯は太い。117は薄手の作りで、内湾する口縁部である。古墳時代前半期の小型丸底壺である可能性が高い。

第5節 5層出土遺物 (Fig. 21～25・PL. 20～26)

118は弥生土器で、入来Ⅱ式の甕口縁部である。L字状に口縁部が伸びる形状で、端部は横ナデによってくぼんでいる。119は甕脚部である。短く外反し、端部を肥厚する。120・121は壺の口縁部である。外反する形状を呈し、120の口唇部は平坦面を持つ。121は口唇部をくぼませ、断面M字状を呈する。器壁は薄く、外面のハケメ細い。

122～131は成川式甕である。122～123は口縁部で、若干外に開く形態を呈する。125～131は脚台部である。125・126は脚部との接合部で欠損している。体部は底がすばまり小さな平底状であり、その側面に脚部を取り付けていることがわかる。127は脚端部まで残っているが、短く外側に踏ん張るような形態を呈する。128～131は脚部のみ残存しているが、128は低く上げ底状を呈する器形で、胎土は精製されている。129・130は外側に開く形態を呈する。131は、径が小さく端部は細くすぼまる形状で、小型品であると考えられる。132は壺の底部である。平底を呈すると考えられるが、丸底の底面が押しつぶされたような形状を呈する。133は小型の壺か鉢の底部で、やや細い丸底である。底面に平らな面が見えるが、器形にゆがみが生じたためと考えられる。134～136は壺胴部の多条突帯である。いずれも細い断面三角突帯を複数条並行に貼り付けている。弥生時代中期～後期に当たると考えられる。137～145は壺胴部の刻み目一条突帯である。137は小型の壺につけられたもので、細い突帯に細い刻み目を短い間隔で施している。成川式前半期に当たる。138はやや幅の広い突帯に細い刻み目を施し、作りは丁寧である。139は刻み目は浅く、その間隔は狭い。胴部外面にはハケメが明瞭である。140は突帯が細く、刻み目も浅いが、胎土は精製されている。141は、刻み目を施した工具痕が刻みより上まで付いており、細長い工具を使用したことがうかがえる。142は胎土が精製されている壺で、突帯がやや幅広く、

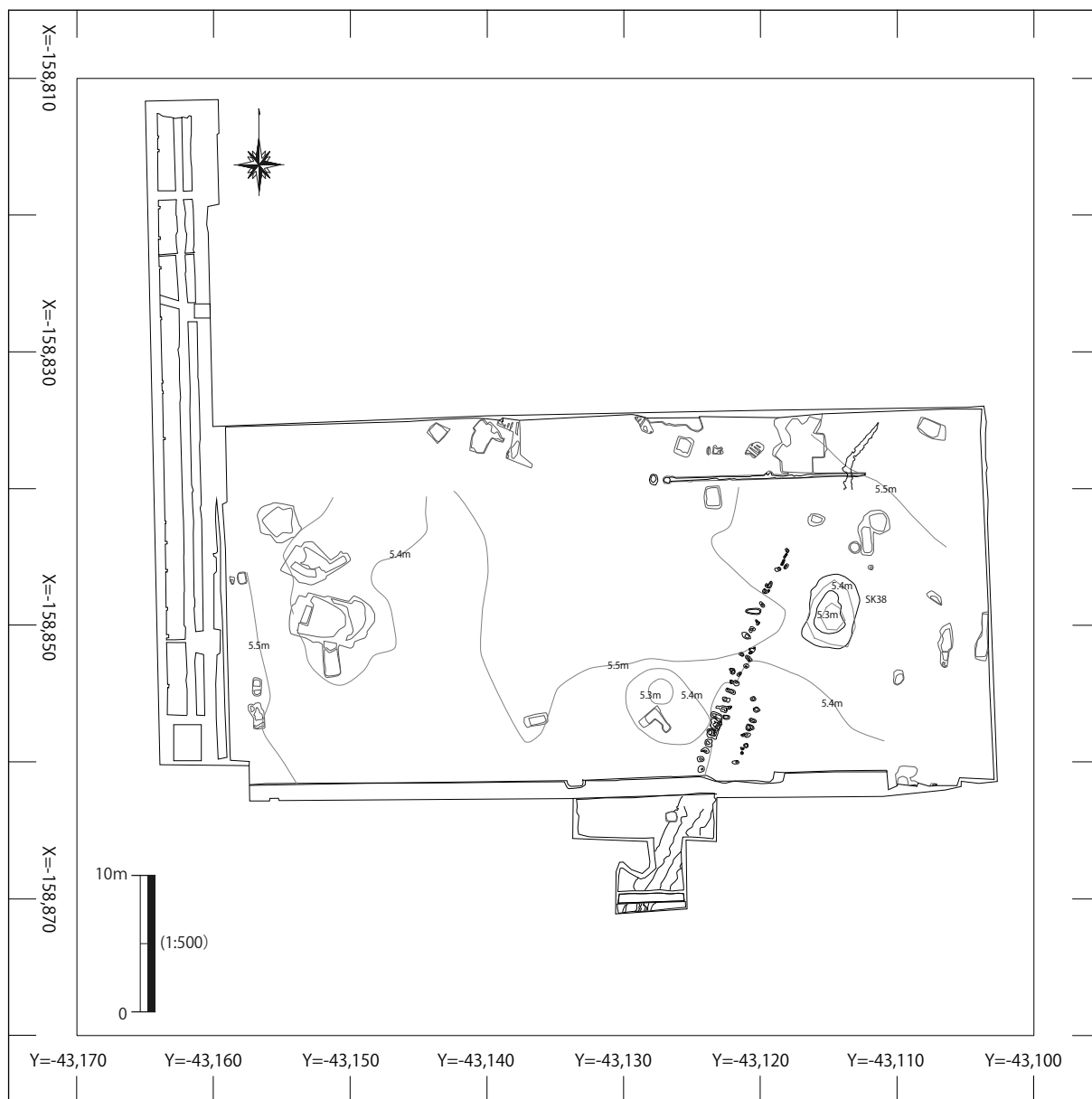


Fig. 18 第I遺構面平面図 S=1/500

刻み目には布目圧痕が確認できる。143は低く平らな突帯に浅い刻み目が施されている。144は断面が方形のやや幅広の突帯に、ハケ工具によって深い刻み目が施されている。145は断面方形のやや幅広の突帯に浅い刻み目が施されている。146～149は甕の一条刻み目突帯である。146は突帯が低く、ほとんど潰れているものである。147はやや外反する口縁部である。148は細い突帯に浅い刻み目が施されている。150～154は一条突帯が施されているものである。150は細い断面三角突帯で、突帯外面を横ナデによって調整している。153は突帯下部に指オサエが残る形態を呈する。154は突帯を貼付する際付いたと思われる突帯上下に連続した爪痕が残っている。155は断面三角形の一条突帯の上に並行沈線文で鋸歯文を施している。156～160は壺のいわゆる「幅広突帯」である。156～158は格子文で、157・158は刻み目の中に布目があり、ひも状の工具を使用したと考えられる。159は並行斜行文で、これもひも状工具による。160は竹管文を3段並べて施している。

161～174は高杯である。161～168は杯部である。椀形を呈するものがほとんどで、164・166・167は外面に赤色顔料が塗布されている。165は屈曲する形態を呈するが、内外面が赤褐色の粘土で薄く覆われており、

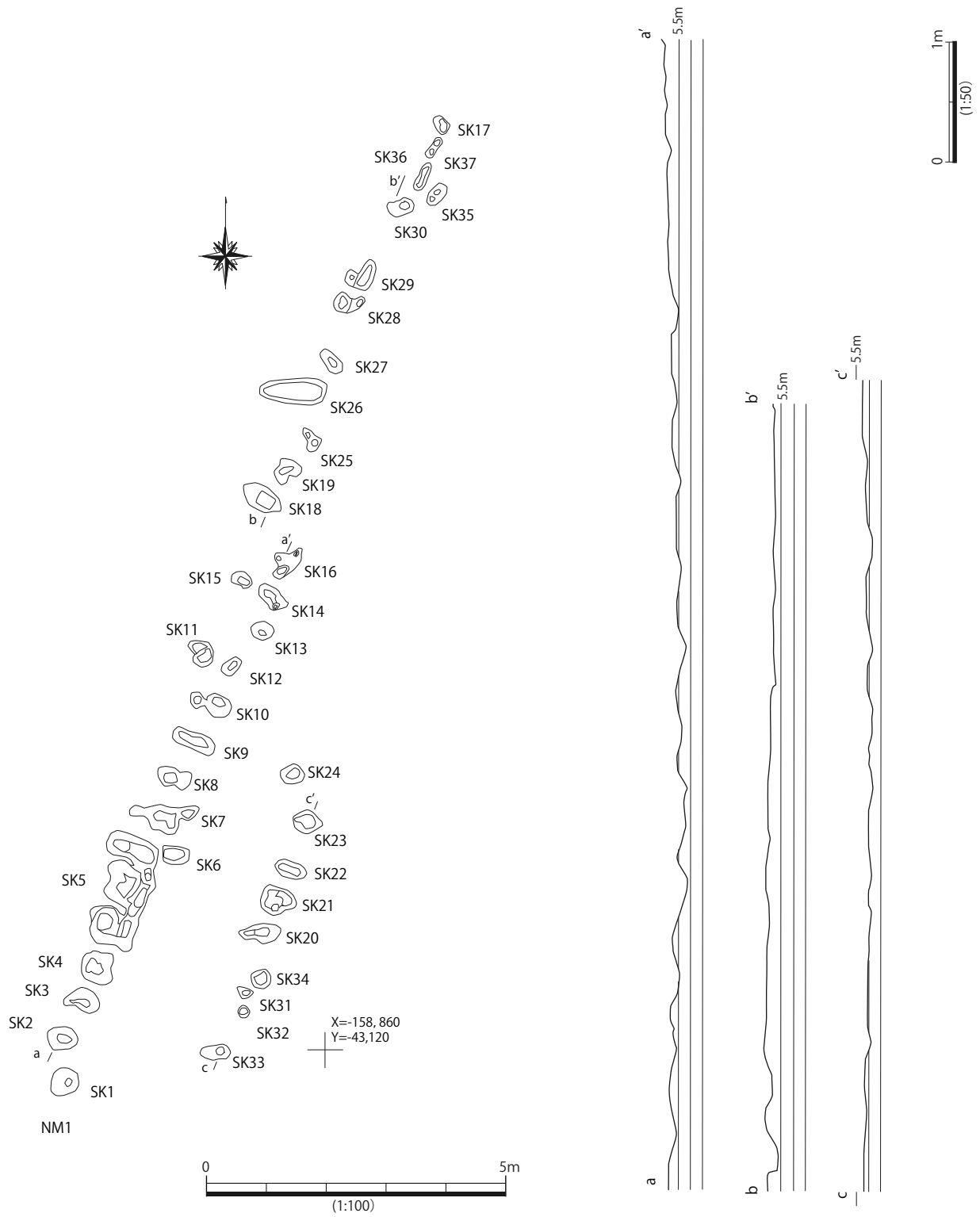


Fig. 19 波板状凹凸面 平面図 S=1/100 断面図 S=1/50



1 5層上面検出遺構完掘（西から）



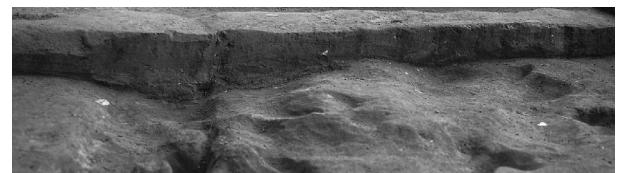
2 波板状凹凸面遺構完掘状況（南から）



3 SD 3 検出状況（北から）



4 SD3 間靴状況（北から）



5 SD3 埋土

PL 18 第I遺構面（1）

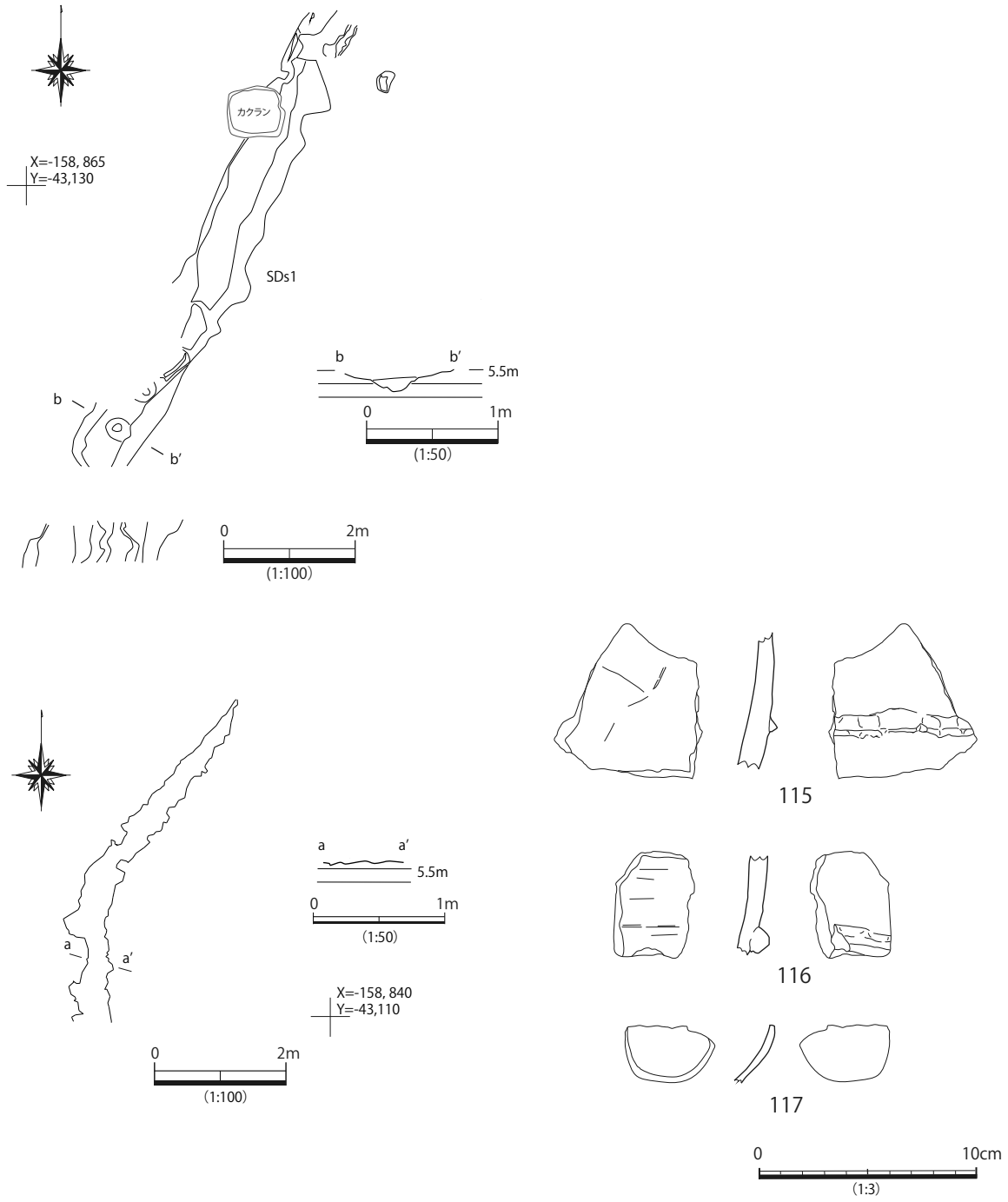


Fig. 20 SDs1・SD3 平面図 S=1/100 断面図 S=1/50, SD 3 出土遺物 S=1/3



PL 19 SD 3 出土遺物

赤色顔料を塗布する高杯とは製作技法が異なる。168は脚部との接合部で欠損している。169～174は脚部である。169は脚の上部で、169は筒形を呈する。170は外面に段を有するタイプである。171は外面に赤色顔料が塗布されている。172は脚端部が欠損しているものの、脚部が全周残っているものである。バチ型に開く形状で、筒部は粘土が充填されている。173・174は脚端部で外面に赤色顔料が塗布され、ミガキが施されている。

175～188は小型丸底壺もしくは罎である。175は内湾する口縁部で、外面口唇部直下には浅く細い沈線が一条めぐらされている。胎土は精製されている。176～178も何も胎土が精製され、白っぽい色調である。小型丸底壺か同時期の鉢の口縁部であろう。176内面と181外面には、鋭利な直線的な工具痕が認められる。刀子など鋭利な刃を持つ工具で表面を削った際、刃が深く当たった部分が線状に残ったものと推定される。179は肩部で外面には細いミガキが認められる。180はきつく屈強する罎の胴部である。やはり、胎土が精製され、白っぽい色調である。181～183は外面に赤色顔料が塗布され、胴部が算盤玉状に屈曲する罎の胴部である。いずれも胴部下半部との接合部で欠損している。184は胴部が丸く張る罎の胴部である。やはり外面に赤色顔料が塗布されている。185～187は罎の底部である。いずれも外面に赤色顔料を塗布し、立ち上がり部にはっきりとした稜を持つ平底を呈する。186は内面にも赤色顔料が塗布されており、やや細長い形状である。188は胴部が丸く下ふくらみの形態を呈する罎である。口縁部接合部で欠損している。胴部には細いハケメ調整が確認できる。

189は素焼きで硬質な質感を持ち、土管であると考えられる。

190は粘板岩小剥片であるが、片面は磨かれ、側面にわずかに稜が残る。石斧もしくは砥石片の可能性はある。191は剥片であるが外面全体が磨られている。192は磨石の欠損した一部である。破面以外の表面はよく磨られている。193は目の細かい硬質砂岩で、片面が平坦に磨られ微弱光沢が認められる。194は棒状の砂岩で、片側先端部に敲打痕が認められる。195は硬質砂岩である。先細りの先端部とその対面の側面部を利用し敲打を行っている。196・197は軽石加工品である。196は左側面と底面が磨られている。197は部分的に磨面、表面に2条の線状の刻みが認められる。198は打製石鏃である。基部の片方が欠損しているが、浅い抉りが入る形状を呈する。

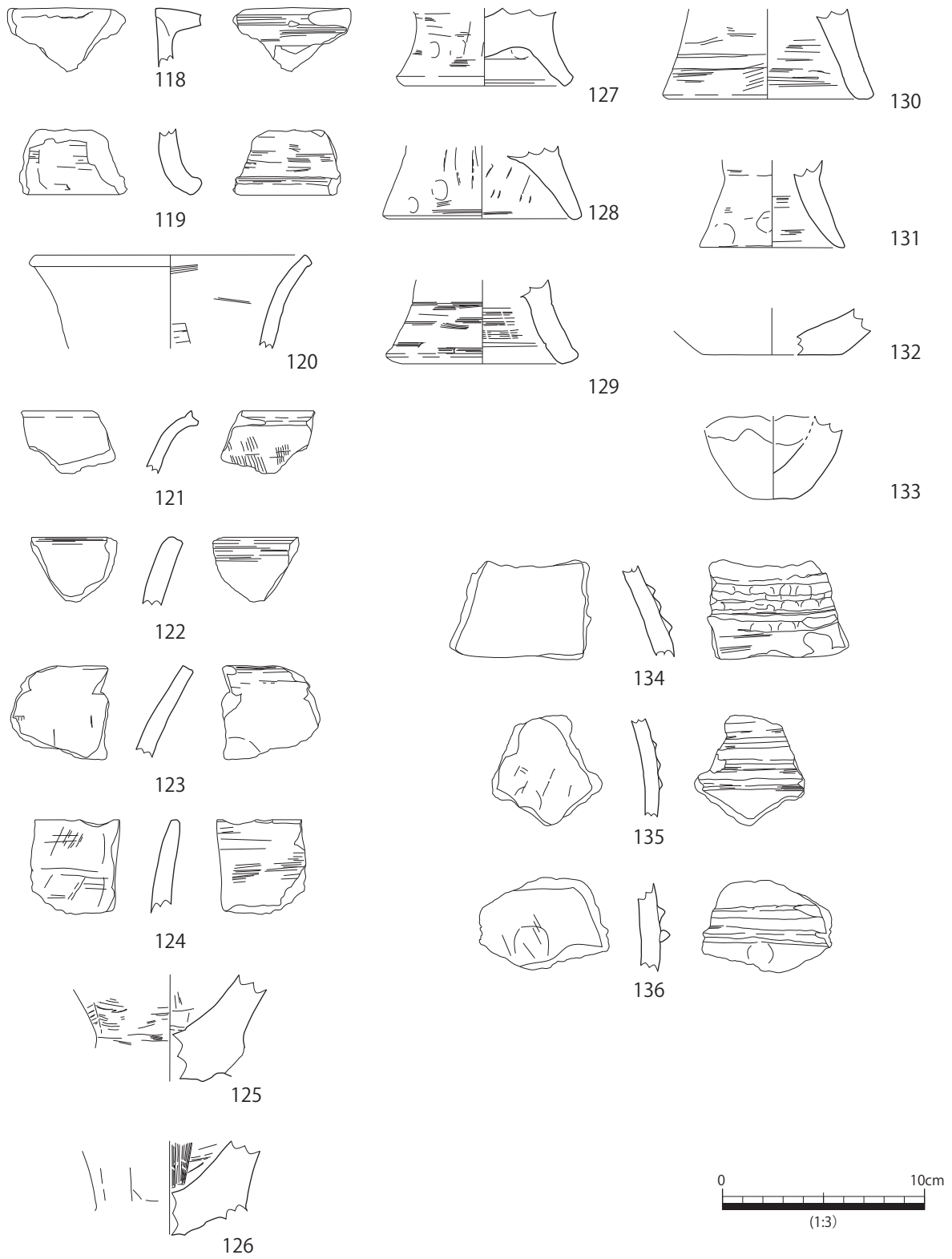


Fig. 21 5層出土遺物(1) S=1/3

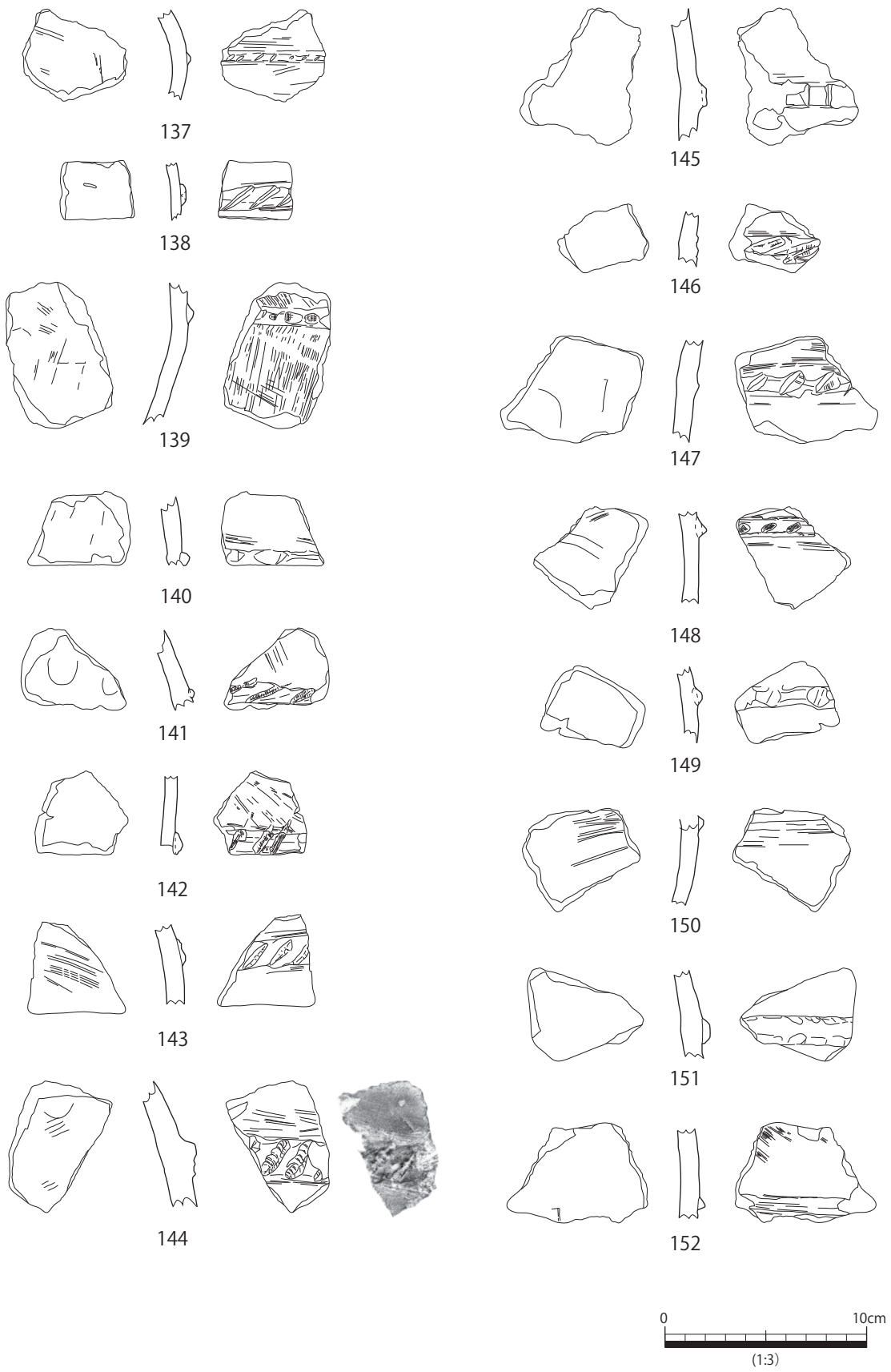


Fig. 22 5層出土遺物(2) S=1/3



Fig. 23 5層出土遺物(3) S=1/3

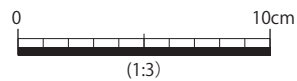
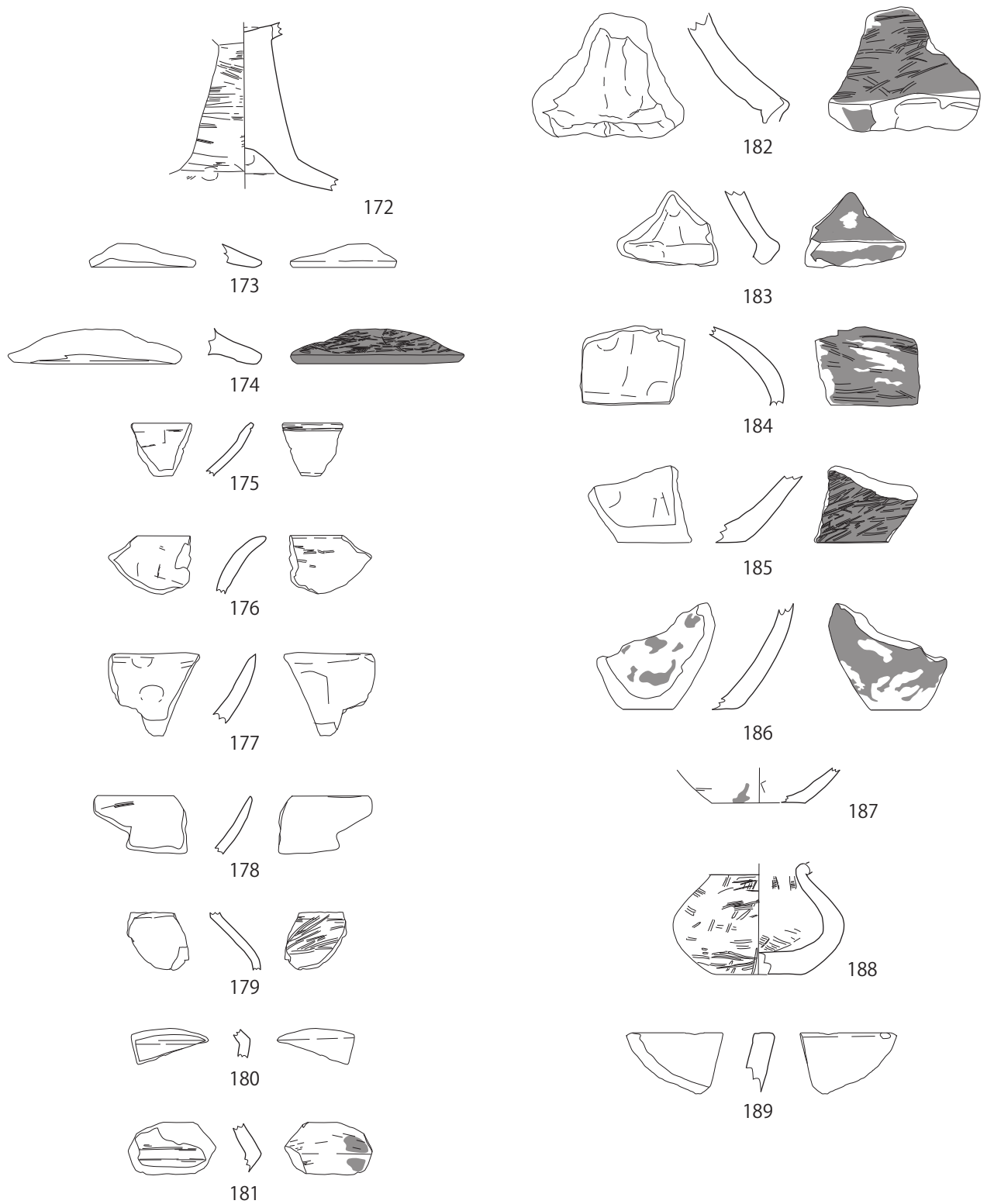


Fig. 24 5層出土遺物(4) S=1/3

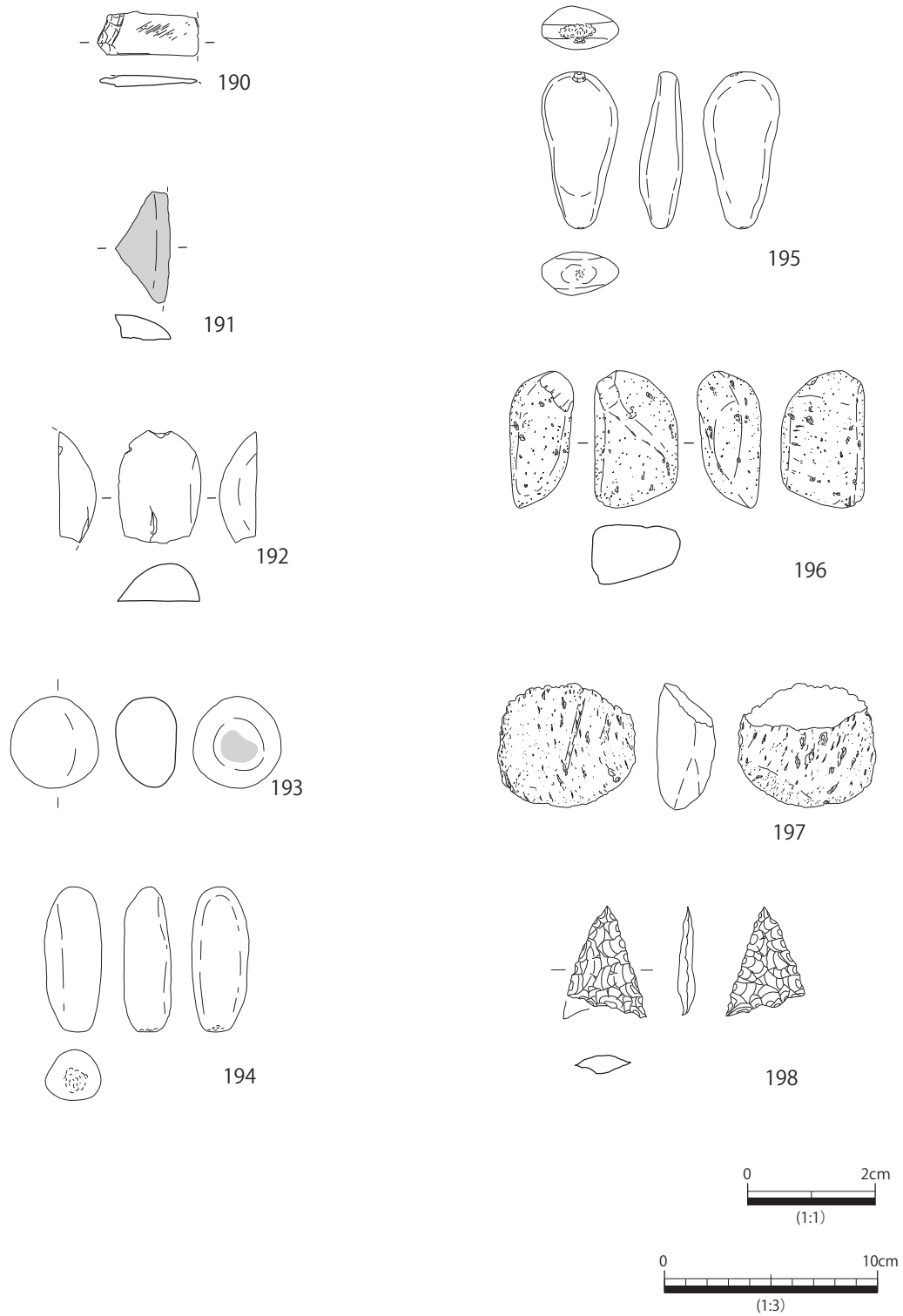
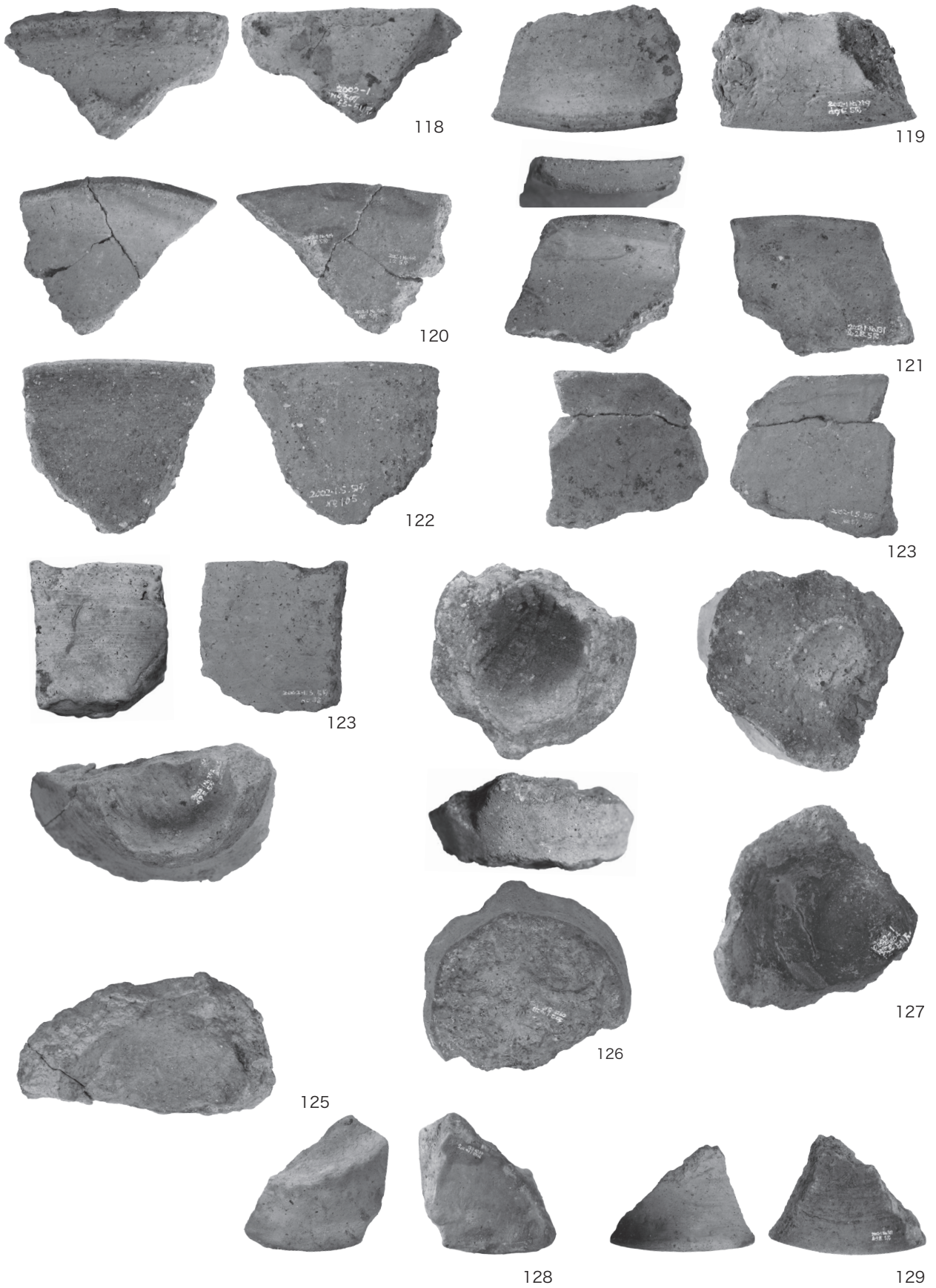


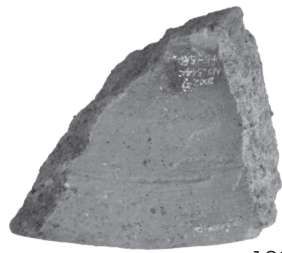
Fig. 25 5層出土遺物(5) 190～197: S=1/3, 198: S=1/1



PL 20 5層出土遺物(1)



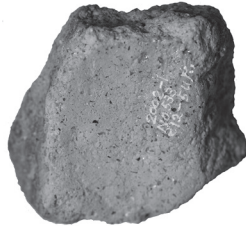
130



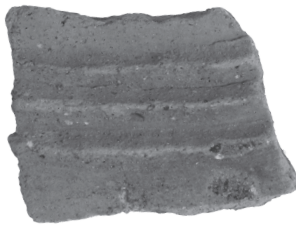
131



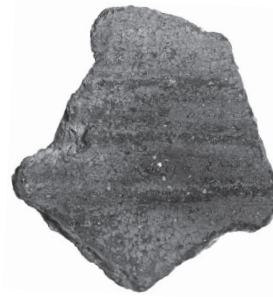
132



133



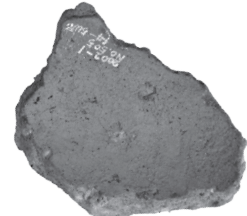
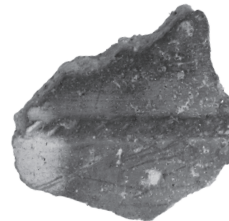
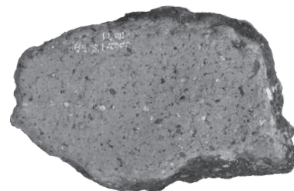
134



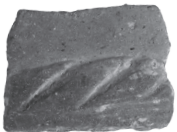
135



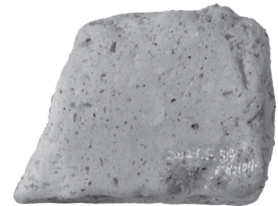
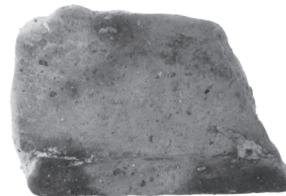
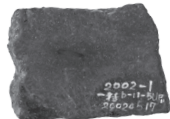
136



137



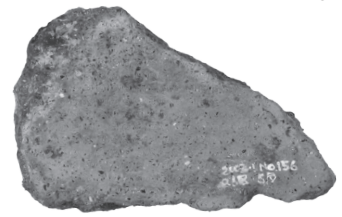
138



140

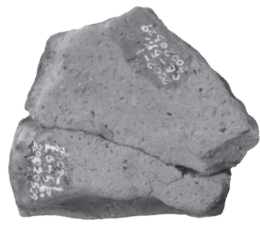
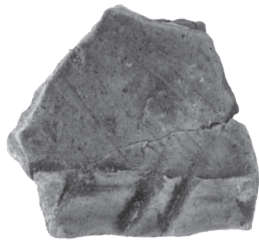


139



141

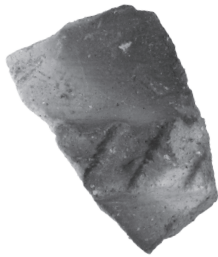
PL 21 5層出土遺物(2)



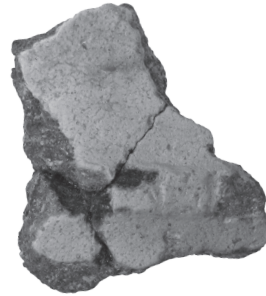
142



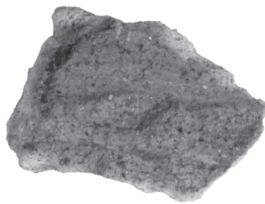
143



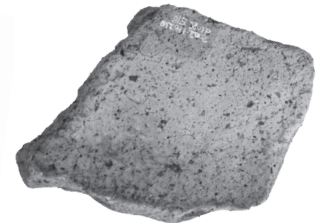
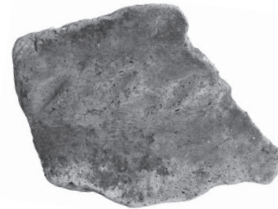
144



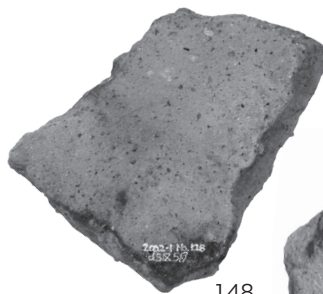
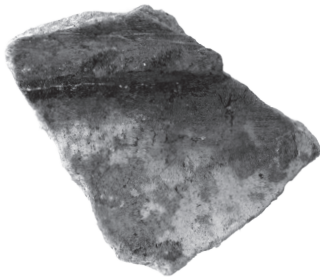
145



146



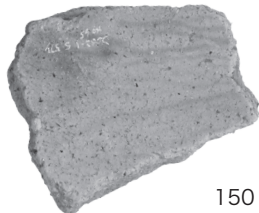
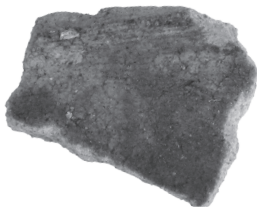
147



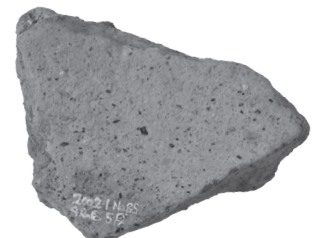
148



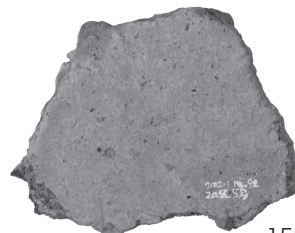
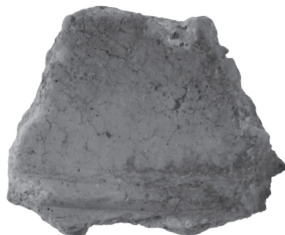
149



150

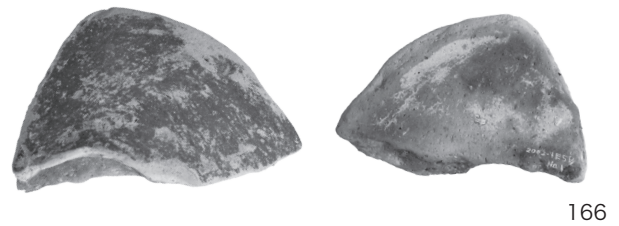
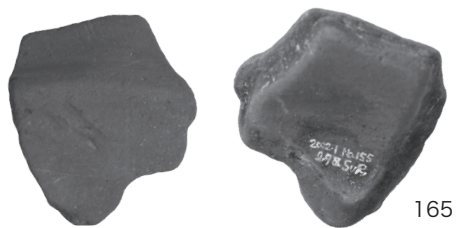
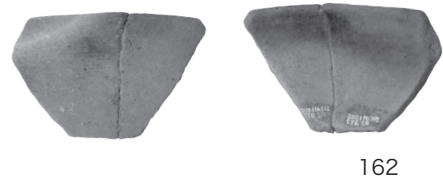
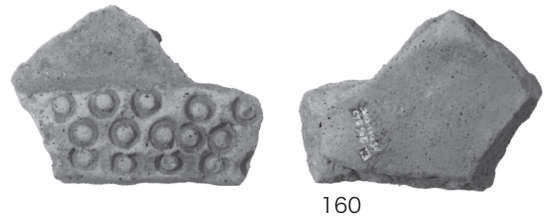
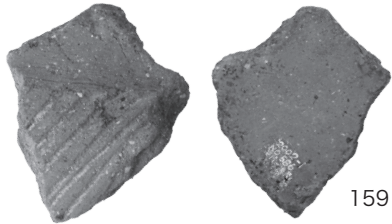
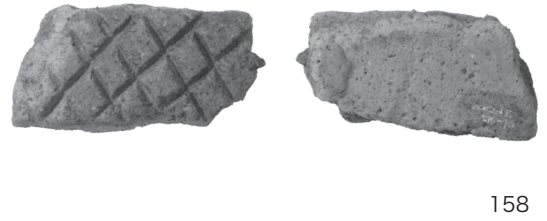
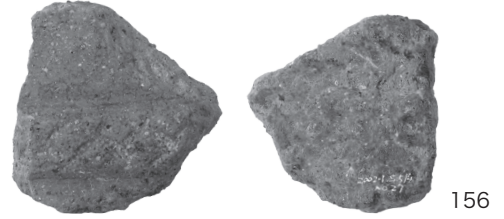
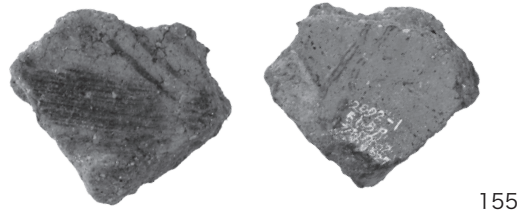
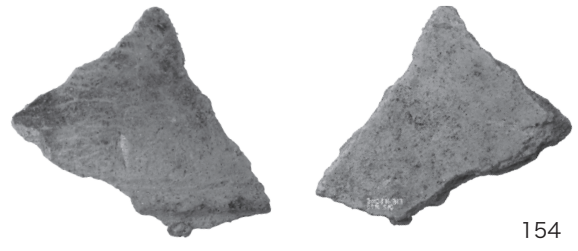
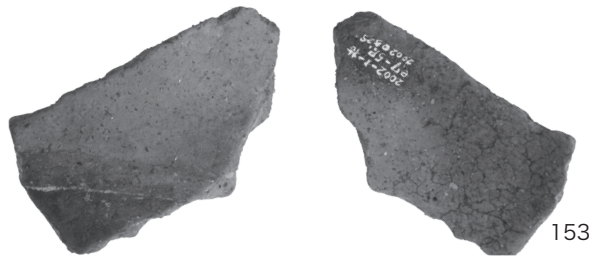


151

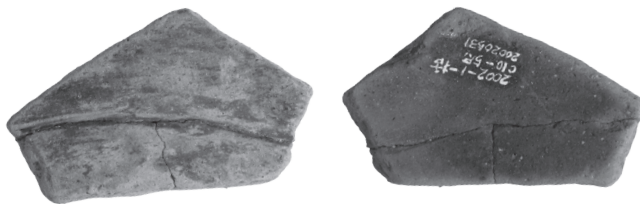


152

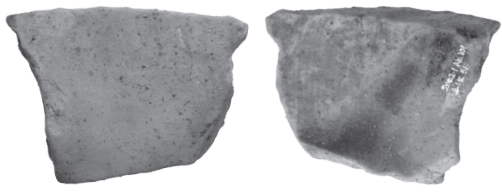
PL 22 5層出土遺物(3)



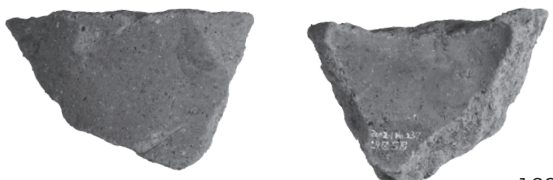
PL 23 5層出土遺物(4)



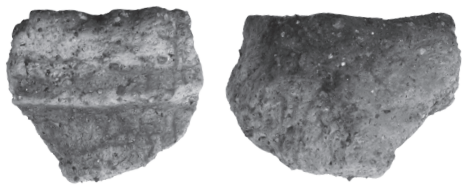
167



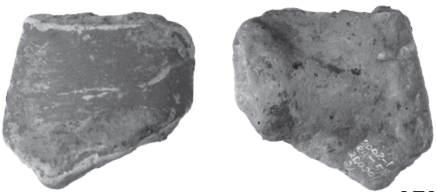
168



169



170



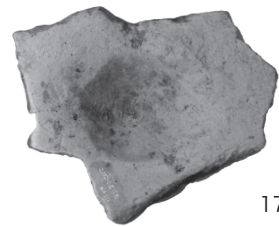
171



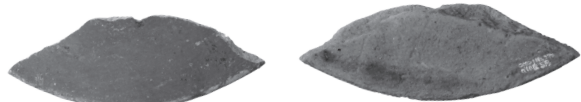
175



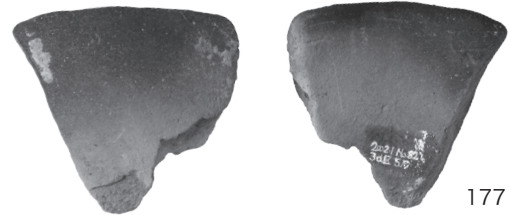
173



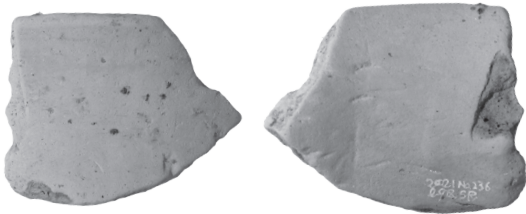
172



174



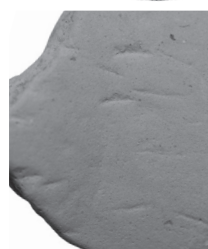
177



176



178

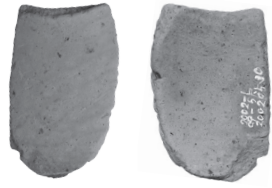


調整痕拡大

PL 24 5層出土遺物(5)



調整痕拡大



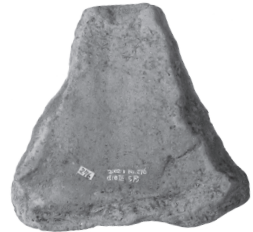
179



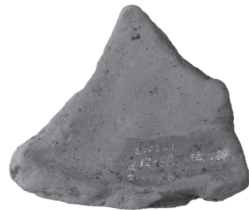
180



181



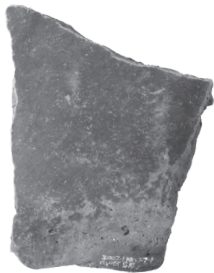
182



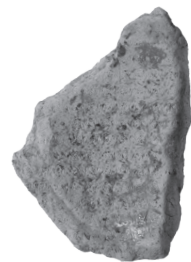
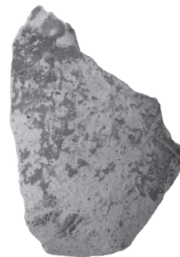
183



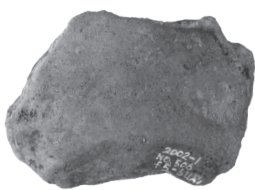
184



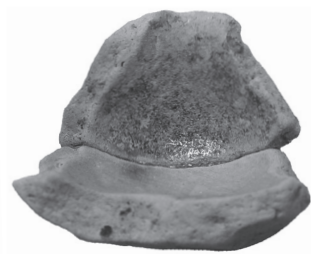
185



186



187

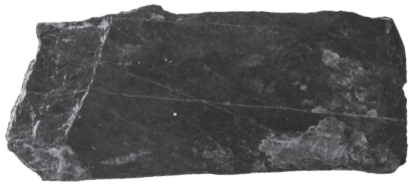


188



189

PL 25 5層出土遺物(6)



190



191



194



192



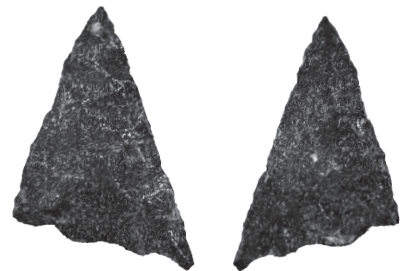
193



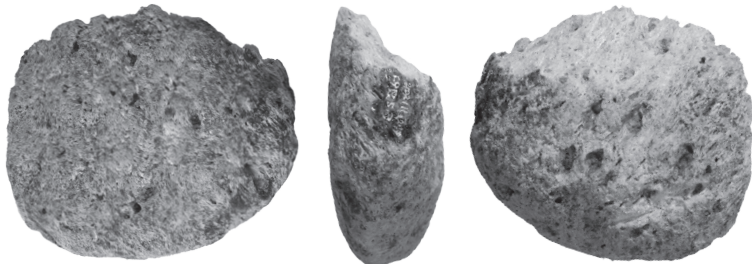
195



196



198



197

PL 26 5層出土遺物(7)

第6節 第II遺構面（6層上面）検出遺構と出土遺物

1 擬似畦畔 (Fig. 26 PL. 27)

発掘調査中には確認できなかったが、調査終了後の写真整理の段階で、6b層上面の全景写真の中に方形状区画が映っている事に気づいた。壁面土層写真の観察の結果、6c層を主体とする土層が高まっている部分があり、層位断面図にもそれが疑われる記載があったため (Fig. 4～10の↓部)、水田の擬似畦畔遺構である可能性が高いと判断した。Fig.26に示した擬似畦畔の位置は、写真等から推定したものである。南区北側部分は方形の区画中央部がT字状となっており、擬似畦畔間は東西方向に約8m、南北方向に4～5mを測る。

2 ピット群とピット出土遺物 (Fig.27～31 PL. 29)

第II遺構面では、調査区北側半分を中心にピット群が129基検出された。大きさは直径が約15～60cm、深さは約2～59cmである。深さが40cmを超えるものもあるが (Fig. 30)、建物跡などの明確な配列は確認できなかった。

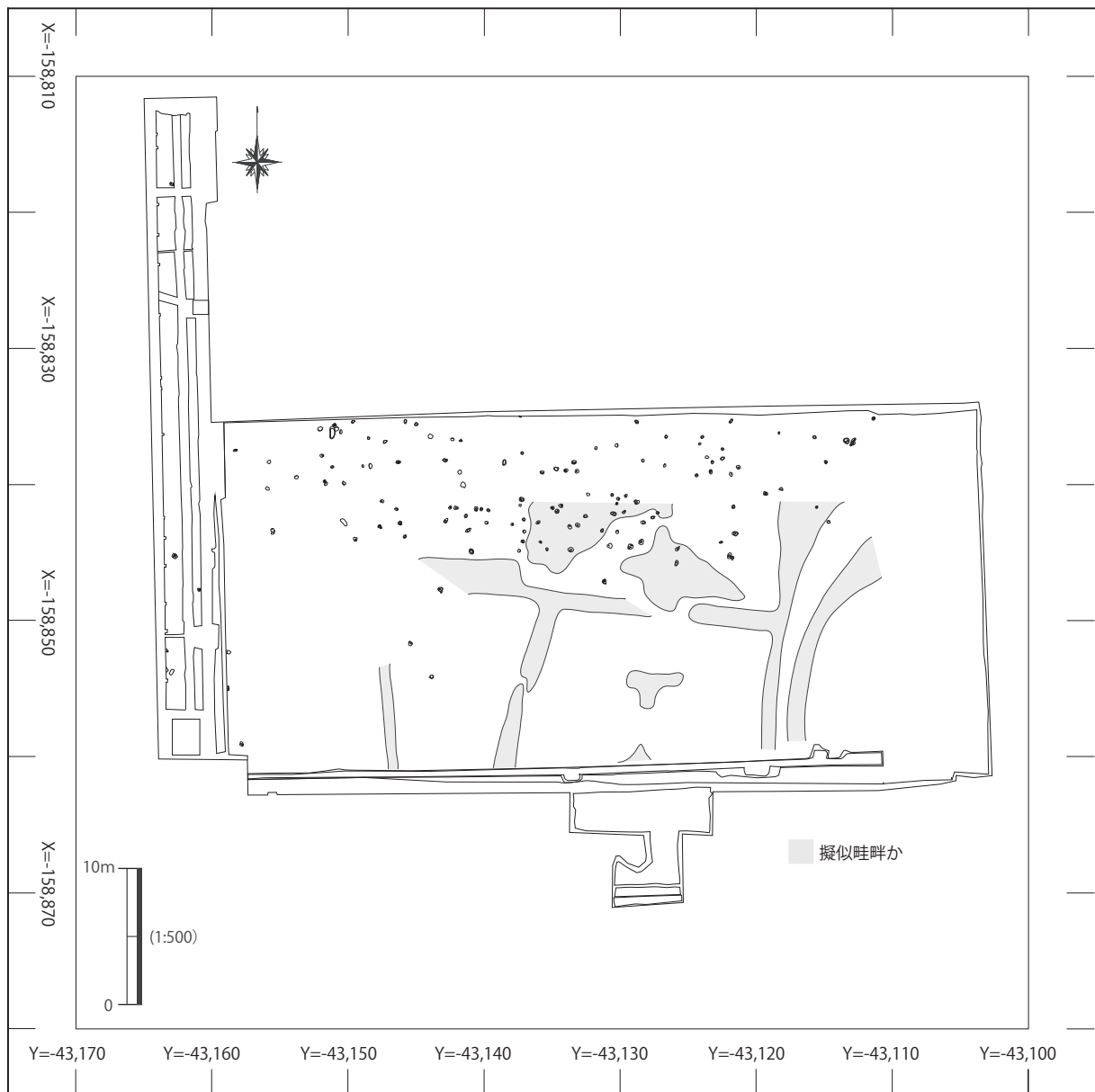


Fig. 26 第II遺構面平面図 S=1/500

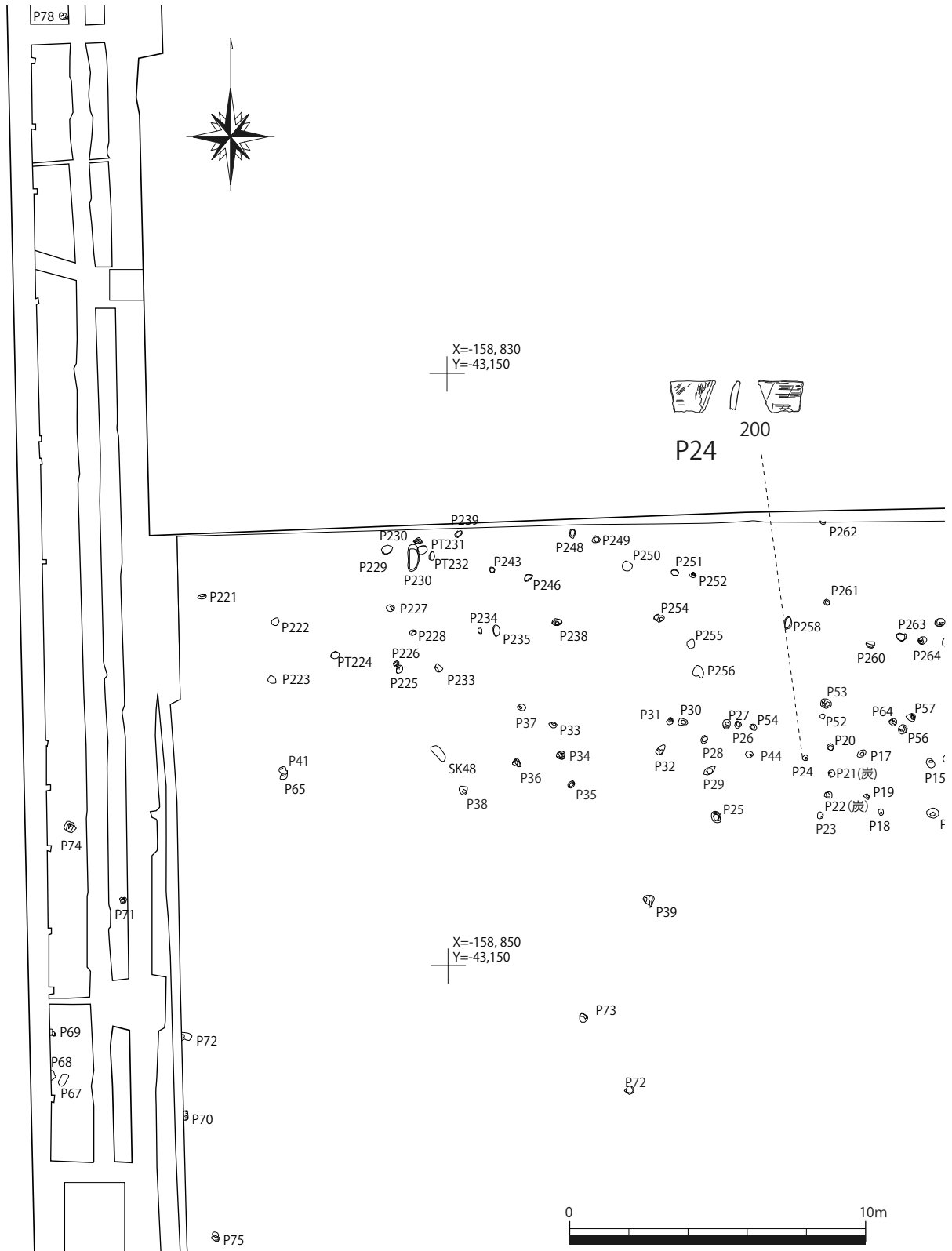


Fig. 27 第Ⅱ遺構面平面図 西側 S=1/200

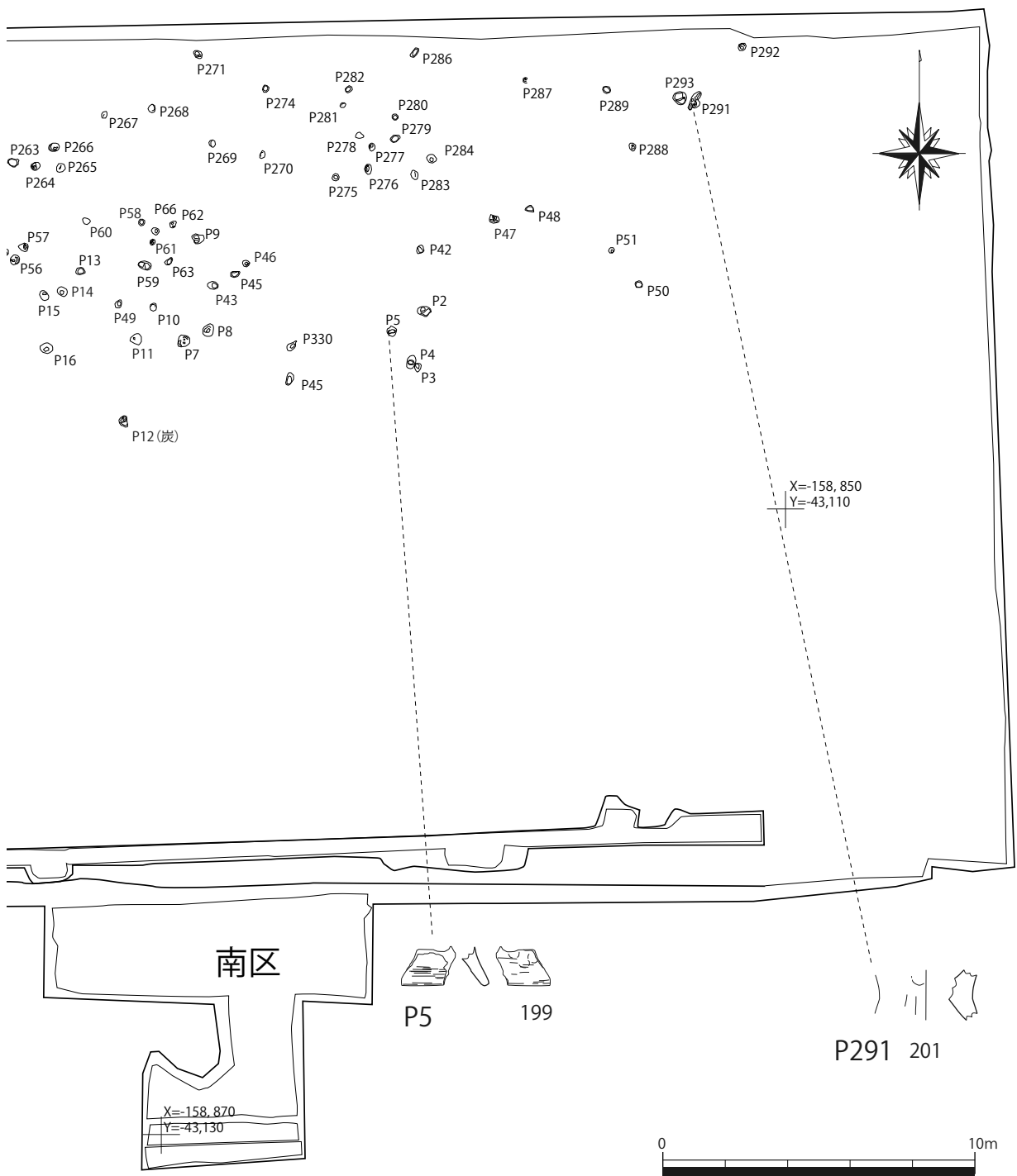


Fig. 28 第II遺構面平面図 東側 S=1/200



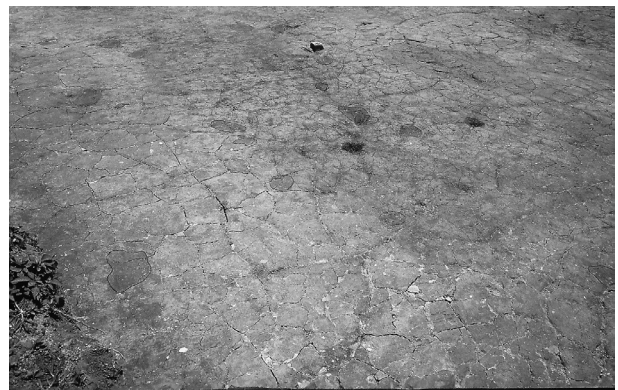
1 6層上面検出状況（西から）



2 6層上面検出ピット完掘状況（西から）



3 6層上面検出状況（南東から）



4 6層上面ピット検出状況

PL 27 第II遺構面

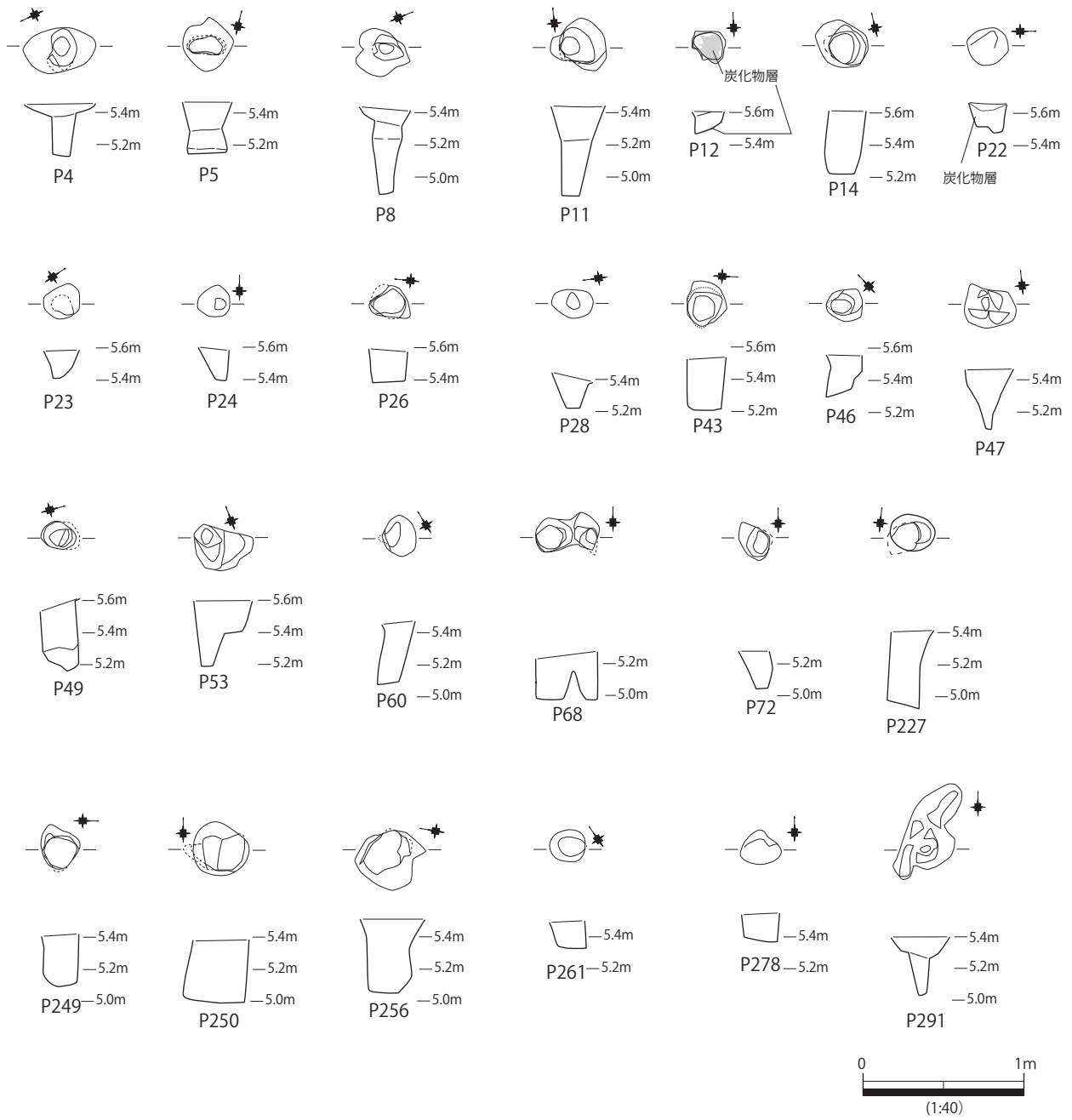


Fig. 29 第II遺構面検出ピット S=1/40

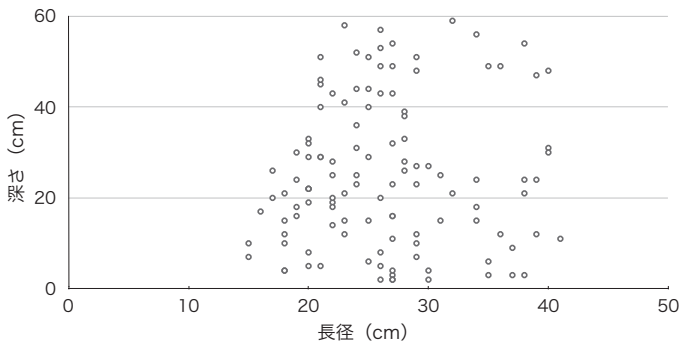


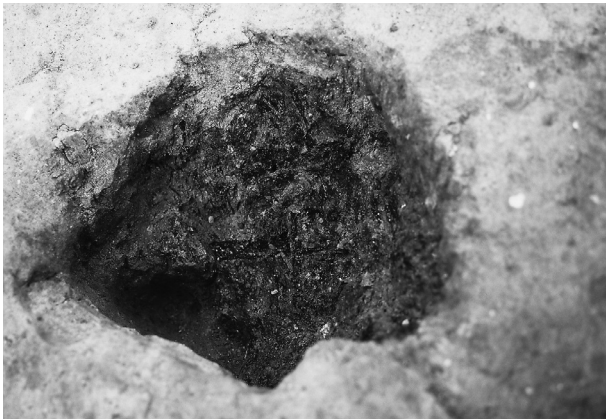
Fig. 30 第II遺構面検出ピットの径と深さ



1 P4 埋土



2 P8 埋土



3 P12 埋土



4 P12 埋土中炭化物



5 P13 埋土



6 P49 埋土



7 P60 埋土



8 P72 埋土

PL 28 第II遺構面検出ピット

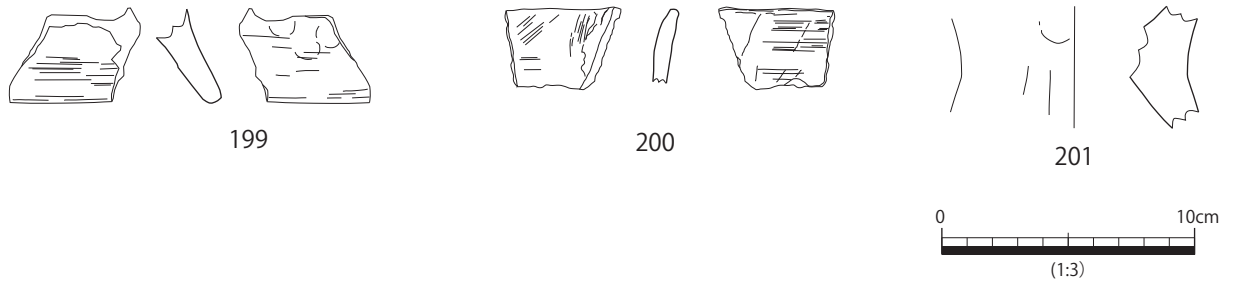
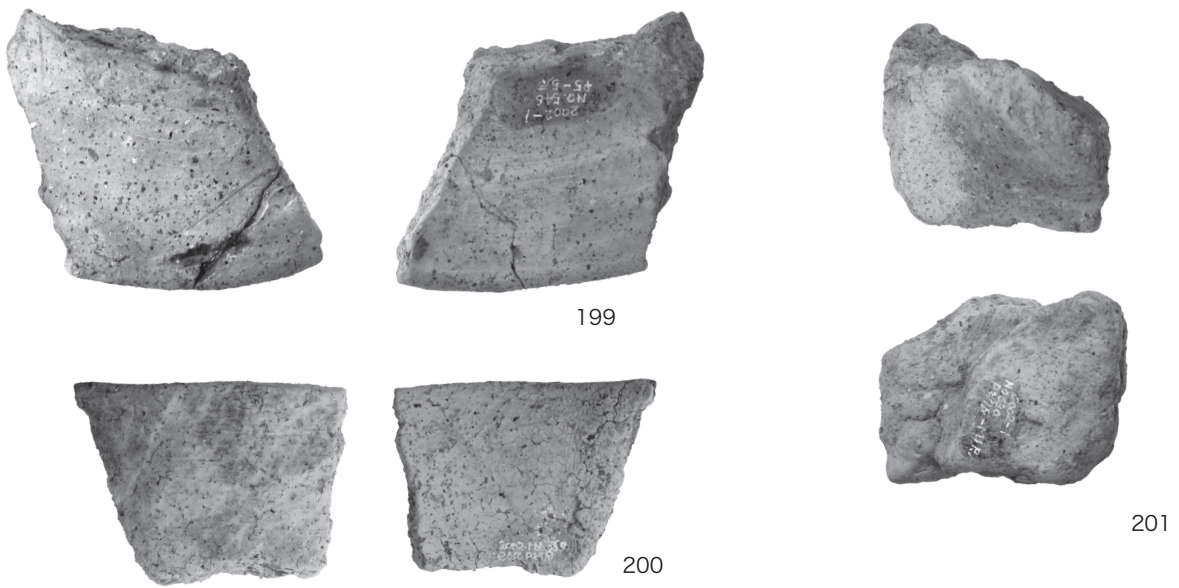


Fig.31 第II遺構面検出遺構出土遺物 S=1/3



PL 29 第II遺構面検出遺構出土遺物

P12・P21・P22の埋土中には、炭化物が認められた(PL. 28)。特にP12で検出された炭化物は薄く細い繊維が認められ、ピット内部を覆うような状態で検出された。他の炭化物も断片的だが検出状況が同様である。これらのピットは比較的近い位置にありまた、ピットがある程度埋まった後、ワラ状のもので覆われた後、焼成されたもので、3つのピットはほぼ同時期に埋没したと推定できる。ピット群の埋土は、5層土を基調とした黒褐色を呈するものが多い。

出土遺物 (Fig.31)

ピット内からは3点出土した。199は成川式の甕脚部である。P5より出土した。比較的短い脚台で、体部との接合部で欠損している。200はP24より出土した成川式の甕口縁部である。ほぼ直立し、端部はユビオサエにより上端部がゆがんでいる。201はP291から出土した成川式甕の体部と脚台部の接合付近である。

第7節 6層出土遺物 (Fig. 32～34・PL.30～33)

202は突帯文土器の浅鉢である。口縁端部が内面に短く屈曲し、外面屈曲部付近に一条刻み目突帯が施されている。刻み目は浅く間隔も狭い。203は高橋式の甕口縁部である。小さな突帯を口縁部に貼り付け、細い刻み目が狭い間隔で施されている。204は入来I式甕口縁部である。断面三角形の突帯を口縁部に貼り付け、外面には細かいハケメが施されている。205～206は入来II式の甕口縁部である。口縁部は外側に肥厚し、端部は横ナゲによってM字状を呈する。205は一状突帯を外面に施されている。206はやや内傾する器形である。207は入来II式の壺口縁部である。上面に円形の刺突文が3列施されている。208は口縁部端部のみの破片だが、その形状から入来II式であると推定される。209は口縁部端部が細くすばまり、上面は平坦で外側に傾き、内側に少し張り出しを持つ形態を呈する。肥後系黒髪式に類似するが、上面が平坦面を持つなど、在地化したものであると考えられる。210～213は弥生時代の壺である。210は直立しながら端部が外に開く形態を呈する。摩滅している。211は、肩部で二条の突帯が施されている。212は胴部に2条の並行沈線文が施されている。213は肩部に二条の並行沈線文が施されている。214～219は弥生土器壺の底部である。平底で立ち上がりはほぼ直立し、緩やかに外に開く。220・221は弥生時代中期甕の脚部である。端部は丸く外に張り出す。内部は粘土を充填しており、221は断面に粘土の接合痕が認められる。222～226は壺の胴部突帯である。222～224は多条突帯である。226は多条突帯で、上方の突帯に細い刻み目が認められる。225は一条突帯である。外面に細かいハケメが顕著である。

227～230は成川式の甕である。227は外反する口縁部で、成川式前半期に当たる。228～230は脚台部で、端部が丸い。231・232は甕の一条刻み目突帯である。231は刻み目を施した工具痕が刻み目上下にもつき、長い工具であることがわかる。233は高杯の口縁部である。椀型を呈し、外面には赤色顔料が塗布されている。234は小型丸底壺か埴の口縁部である。内湾する器形で、胎土は精製されている。

235は硬質安山岩の剥片を素材とする。刃部に二次加工が施され、表面刃部付近の高所部を中心に部分的に強い光沢が認められ、イネ科草本類に対しての作業が行われた可能性がある。236は安山岩の磨石敲石の小片であるが、周縁の敲打痕と平坦面の磨面が明瞭に観察される。一部黒色化しており被熱している可能性がある。

237～239は軽石加工品である。237は欠損品の可能性があるが、抉りが施されている。238は径7, 8mm程度の小凹穴が表裏面に施され、側面に抉り加工が認められる。239は表裏面に緩い凹面が認められるが、表面は特に加工痕が明瞭であるため硬質な対象物による加工と思われる。

240は磨製石鏃である。先端と基部の一部が欠損している。厚さは薄く、表面には成形時の擦過痕が残っている。241・242は打製石鏃である。241は先端近くの片側側面が欠損している。両側面と基部に浅い抉りが入る形状を呈する。242は先端と基部が欠損し、全形は不明である。

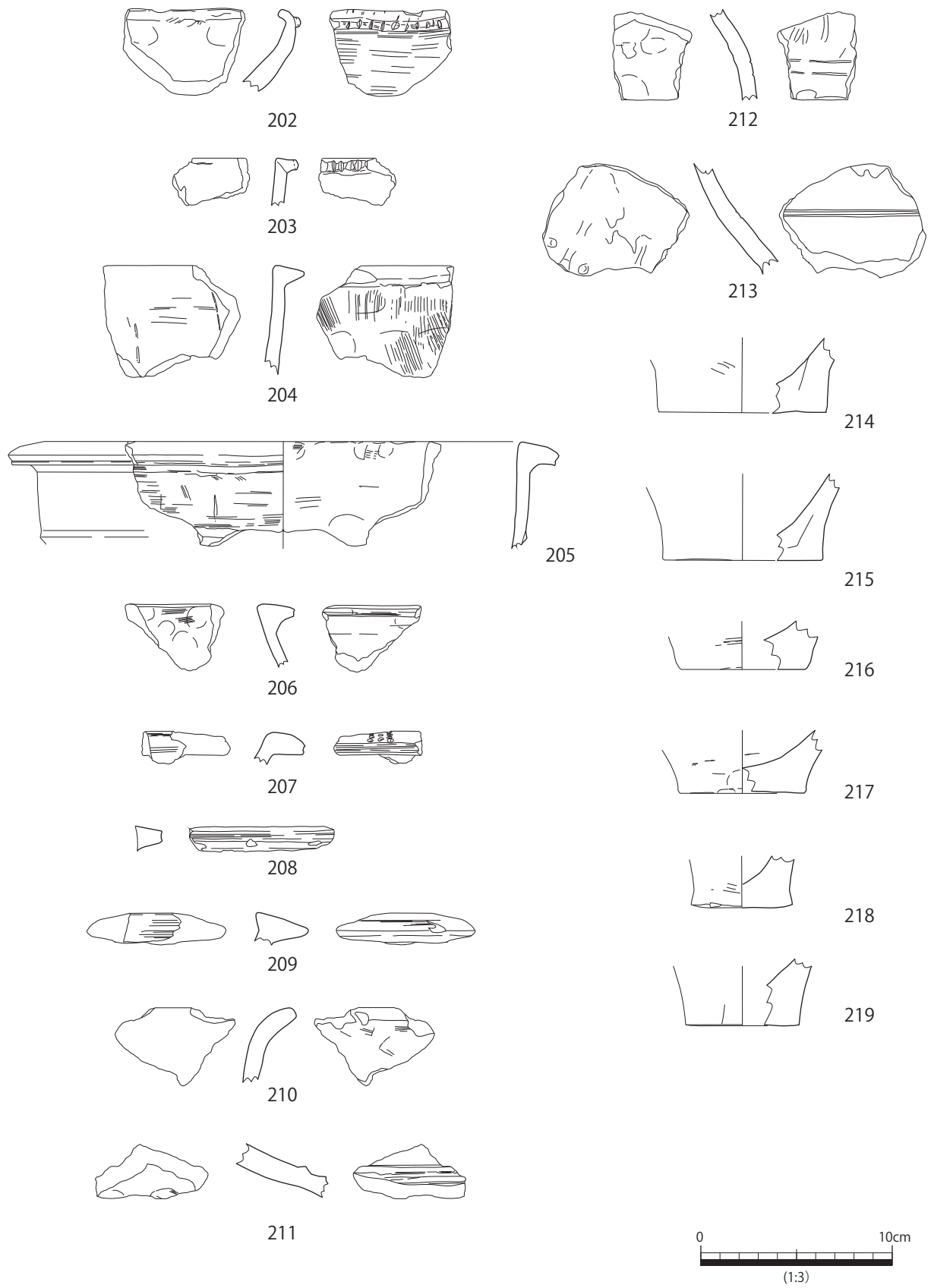


Fig. 32 6層出土遺物(1) S=1/3

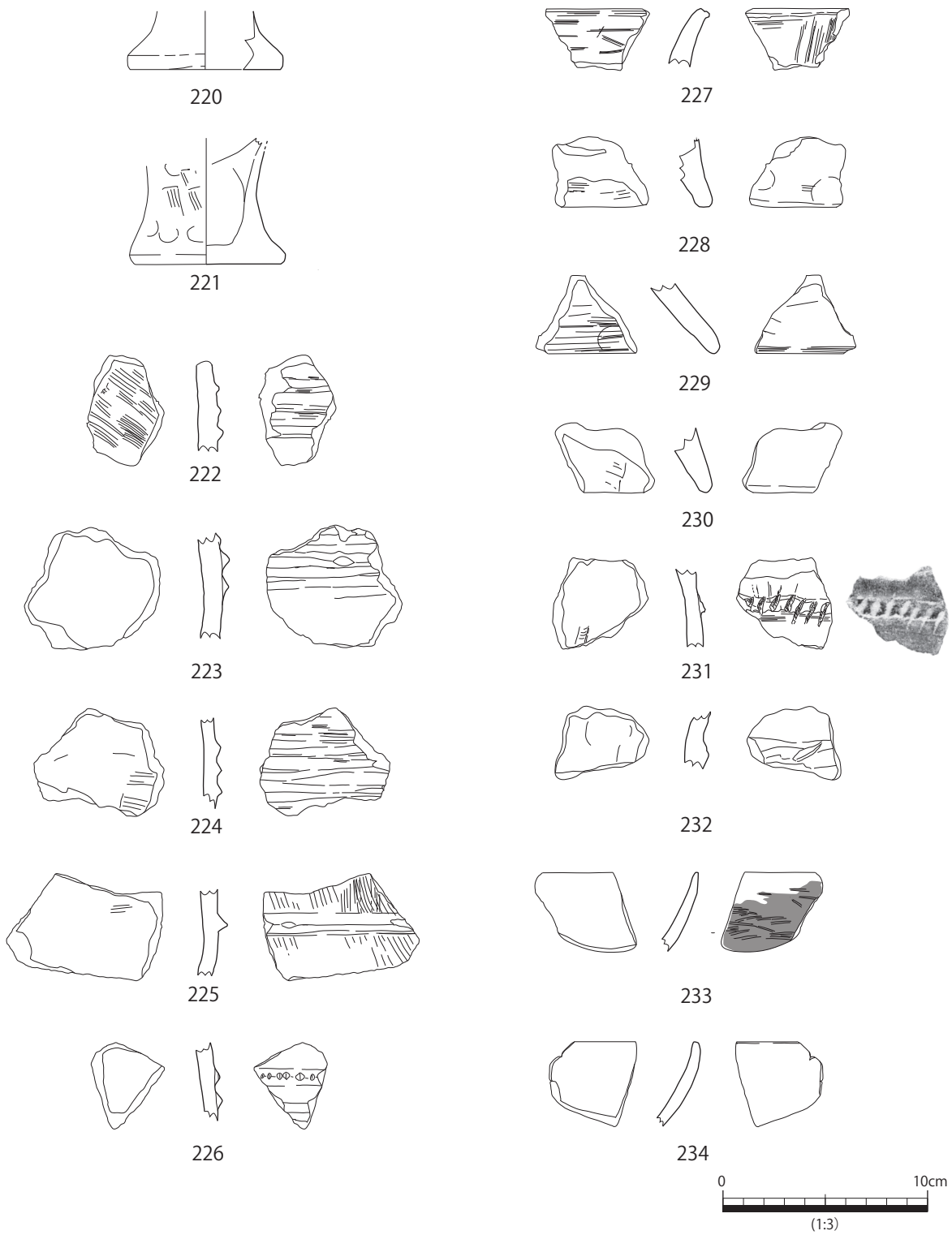


Fig.33 6層出土遺物(2) S=1/3

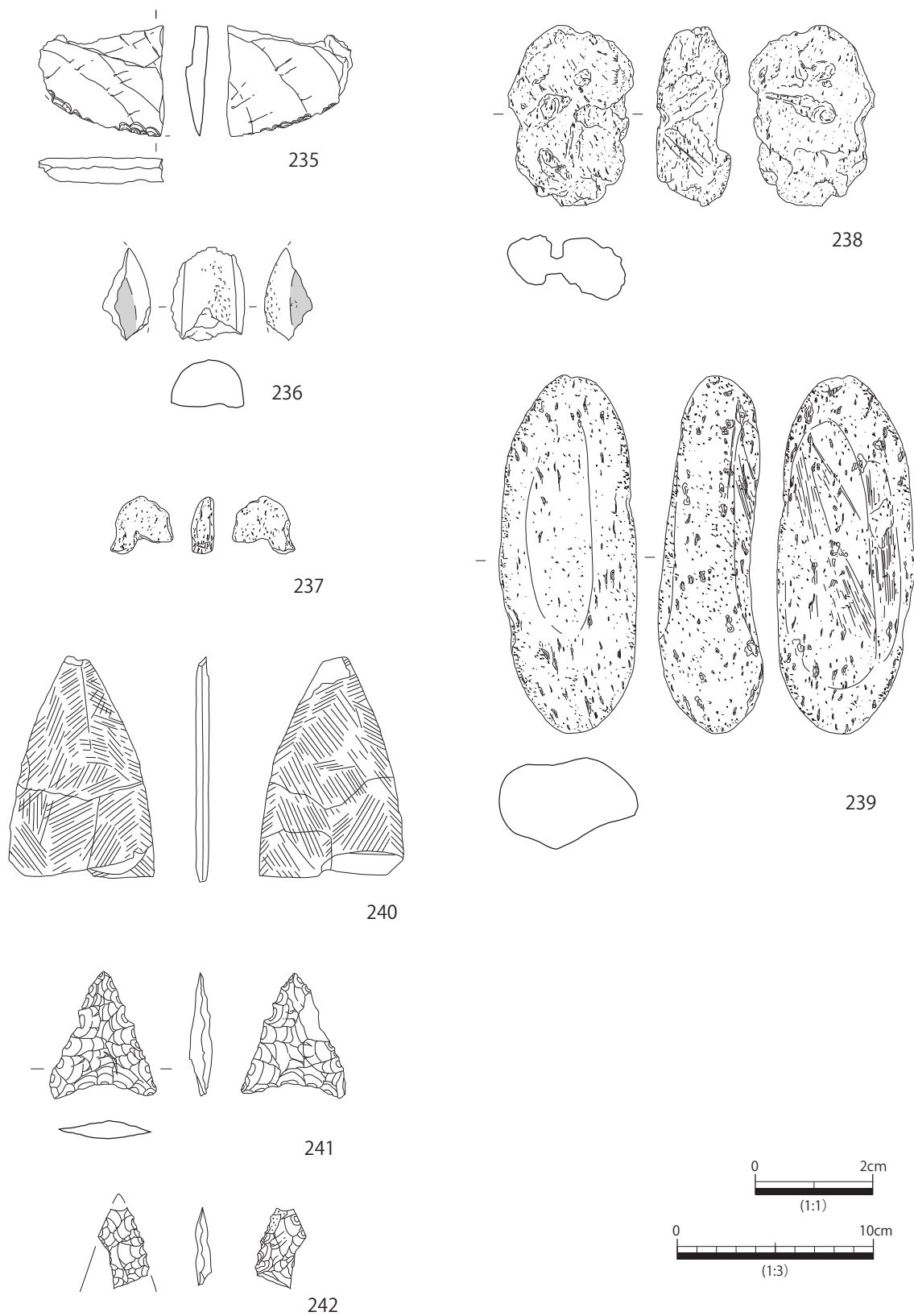
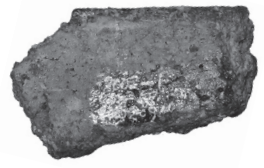
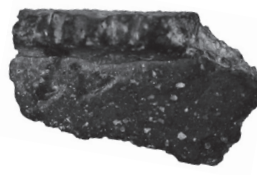


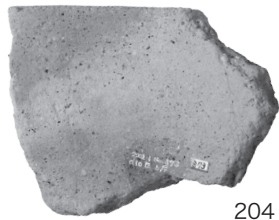
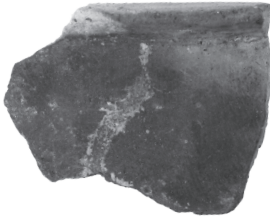
Fig. 34 6層出土遺物(3) 235～239: S=1/3 240～242: S=1/1



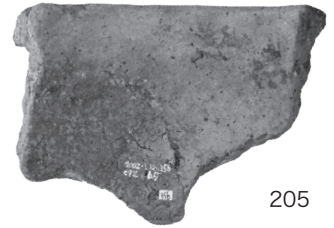
202



203



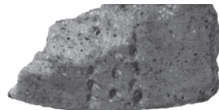
204



205



206



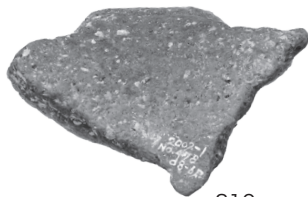
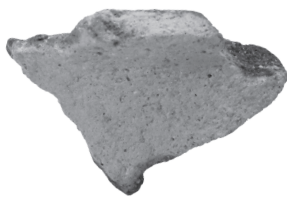
207



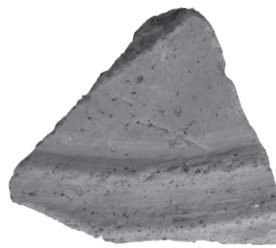
208



209



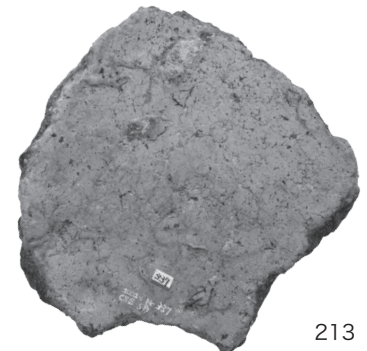
210



211

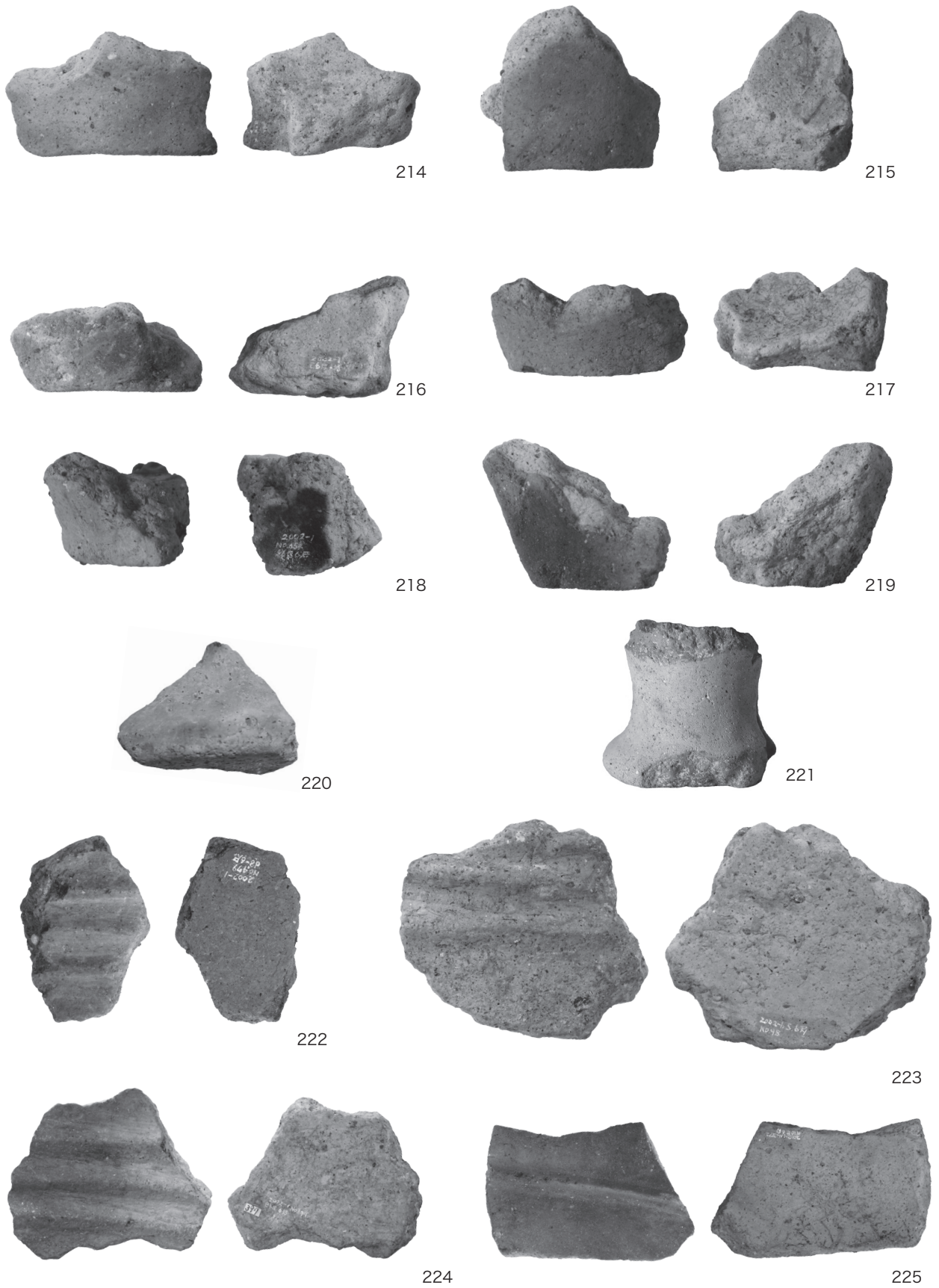


212



213

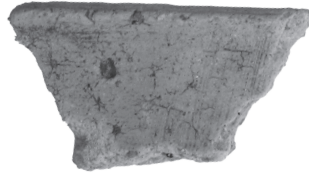
PL 30 6層出土遺物(1)



PL 31 6層出土遺物(2)



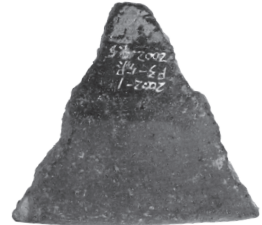
226



227



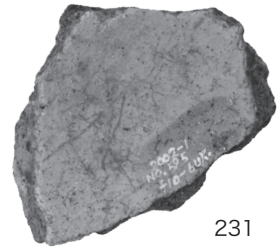
228



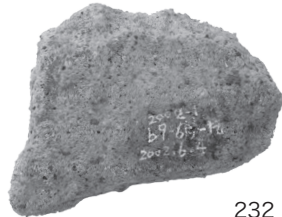
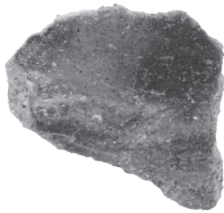
229



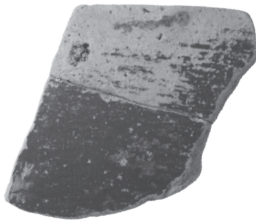
230



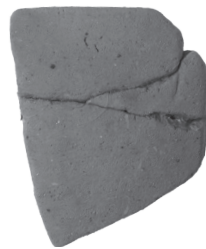
231



232

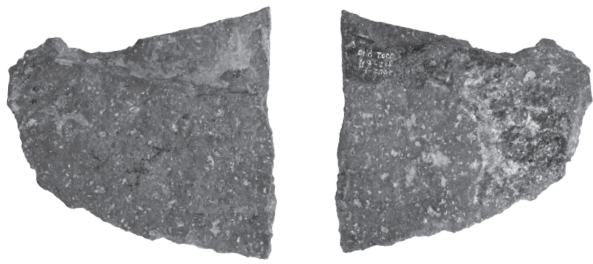


233



234

PL 32 6層出土遺物 (3)



235



236



237



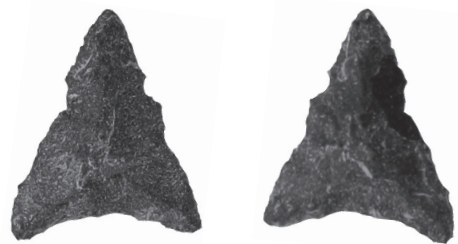
238



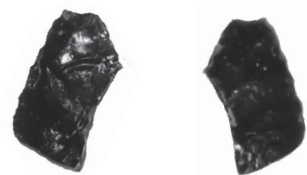
240



239



241



242

PL 33 6層出土遺物(4)

第8節 第Ⅲ遺構面（7層・8層上面）検出遺構 (Fig. 35～39・PL. 34～38)

第Ⅲ遺構面は基本的に7層上面であるが、7層土の堆積がなく、8層上面が露出している部分もあった (Fig.35～37の網かけ部)。第Ⅲ遺構面では、溝状遺構が7条、ピットが180基検出されている。Fig.35の等高線図にある通り、調査区北東隅が最も高く、南西方向に傾斜している。また、その傾斜方向に平行に7条の溝状遺構が位置する。

ピットは全面で認められるが、7層がなく8層土が露出している場所では少ない。第Ⅲ遺構面で検出されているピットが浅いものが多いことや、ピットの埋土が6層土に類似することから、6層時期の耕作による攪拌が深く、消失した可能性もある。

1 SD 1・SD 2および周辺ピット・土壙群 (Fig. 38・39, PL. 36・37)

SD 1は調査区中央を南西―北東方向に走り、長さ20.5m、幅約150cmを測る。SD 1の南側の底面は、幅20～30cmの細長い窪みが認められ、東西2列に並んでいる。北側は幅30cmほどに細くなり、西側に同様な幅の細長いピット群が平行して並ぶ。南側の西側にも同様なピットや土壙群が平行しており、もともと幅30cmほどの細い溝状遺構が繰り返し作り変えられたものと考えられる。溝やピットの深さが20cm以下で浅いことから、溝上部は削平されているものと考えられる。

SD 2は調査区北側に位置するが、SD 1北側のSK40などの並びの延長上にあることから、これらと同一の溝であると推定される。SD 2の南側は西側に伸びてL字状を呈している。埋土はSD 1と同様で、7・8層土が混ざったものである。

2 SD4～8 (Fig.36)

SD 4～8は調査区北東側に位置し、SD 1・2と平行である。SD 4は最も東側に位置しており、調査区外に伸びていると予想される。幅25cm、深さ4cmと浅い。2か所が一部西方向に伸びており、その飛び出しの間隔は約7mである。SD 5～7はいずれも幅約50cm、深さ3～7cmと浅く、平行して位置する。各溝間の距離が50cmしかなく、繰り返し作り変えられた結果であると考えられる。SD 8はSD2の3m西側に平行して位置する。幅55cmだが、浅く、底面のみが検出された。

3 ピット群 (Fig.41)

第Ⅲ遺構面からは、ピットが180基検出されている。大きさは直径10～60cm、深さは1～37cmを測る。第Ⅱ遺構面のピット群とは異なり浅いものが多い。また、底面が平坦面を持たず、埋土断面が三角形や浅いくぼみ状を呈するものが多い。埋土は6層土に類似するものが多くまた、7・8層土をブロックで含むものもあり、柱穴ではなく6層堆積の時期の耕作痕が多いと考えられる。

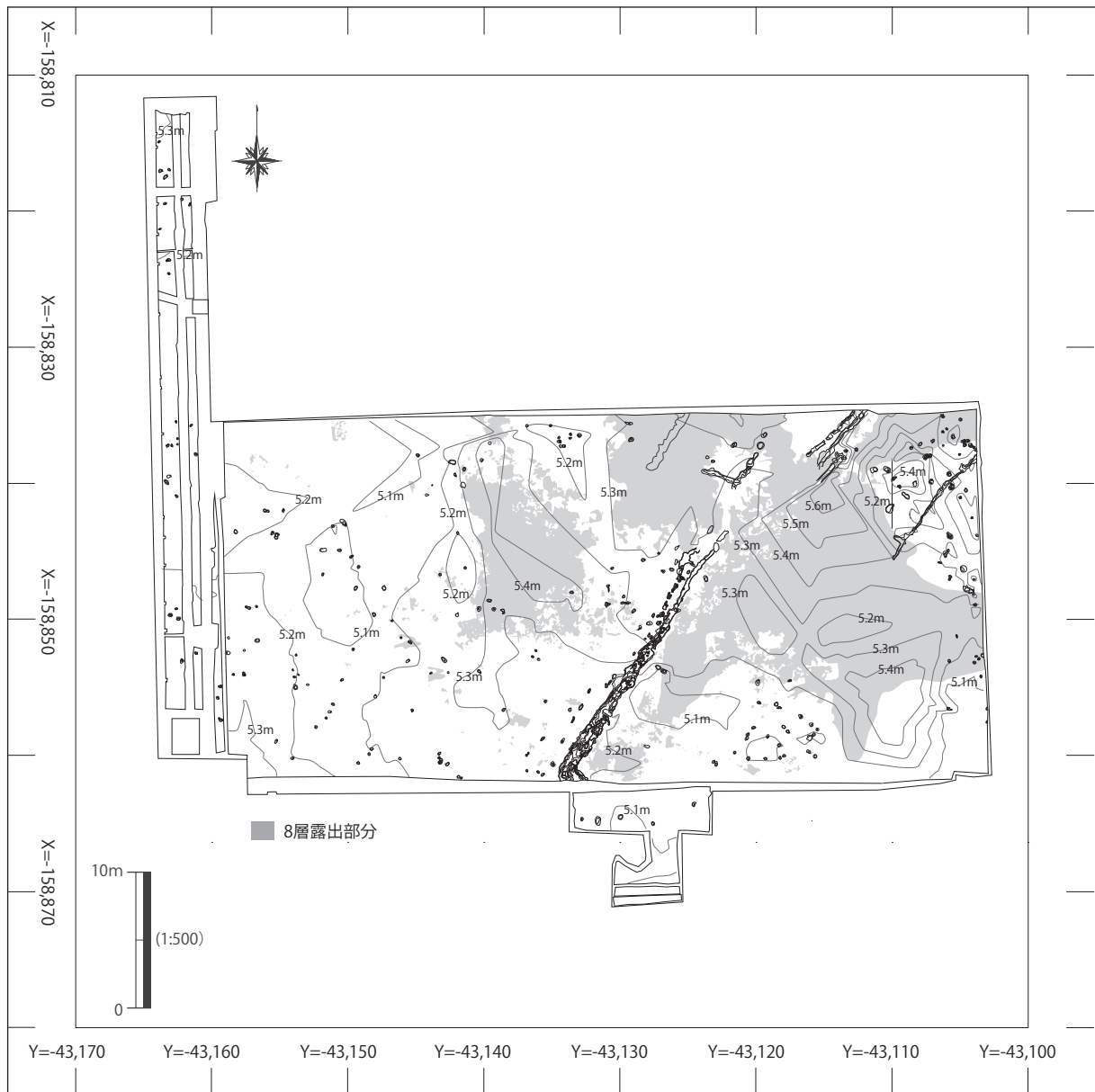


Fig. 35 第三遺構面平面図 S=1/500



1 7層・8層上面全景 (西から)



2 7層・8層上面全景 (東から)

PL 34 第三遺構面 (1)

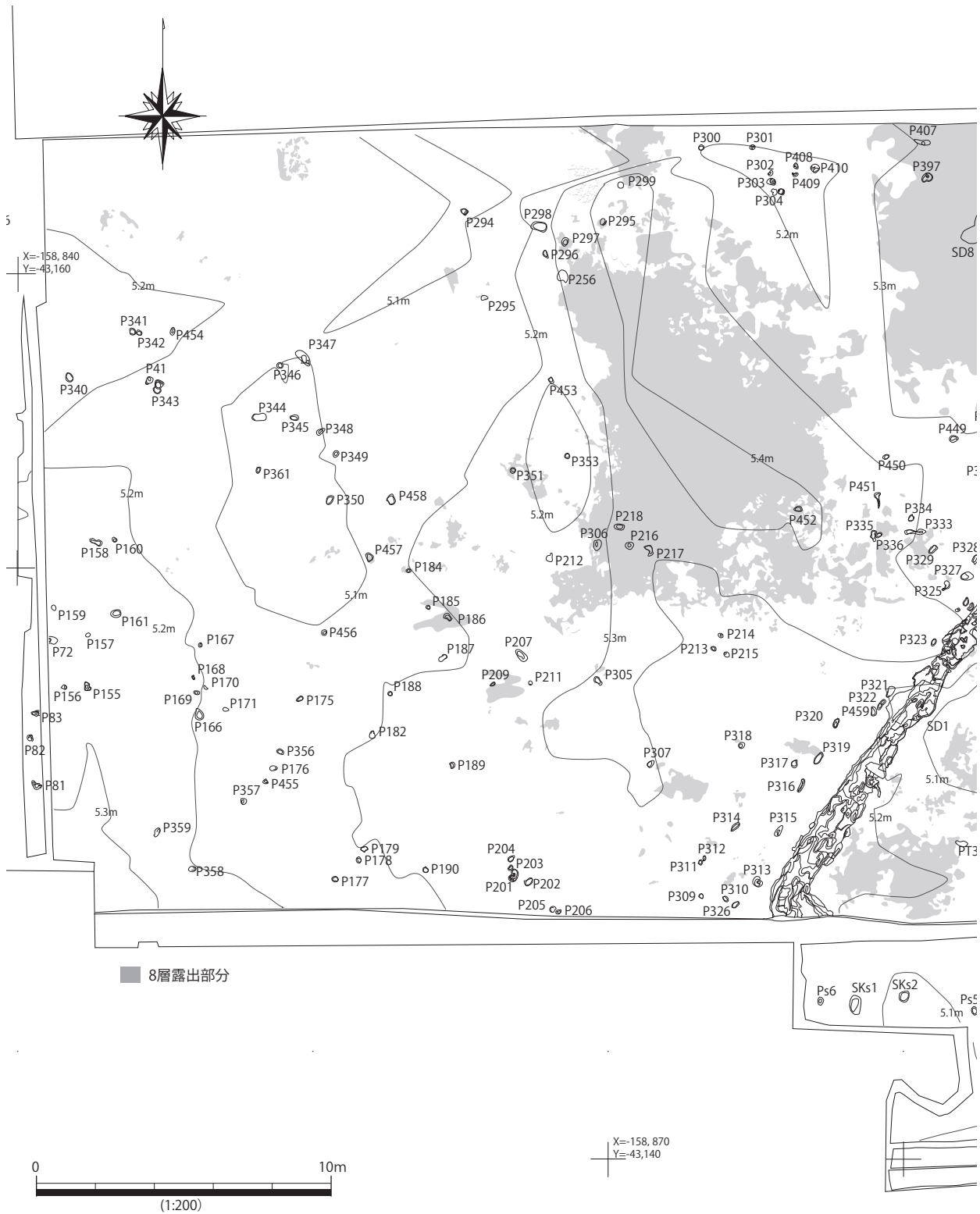


Fig. 36 第三遺構面平面図 西側 S=1/200

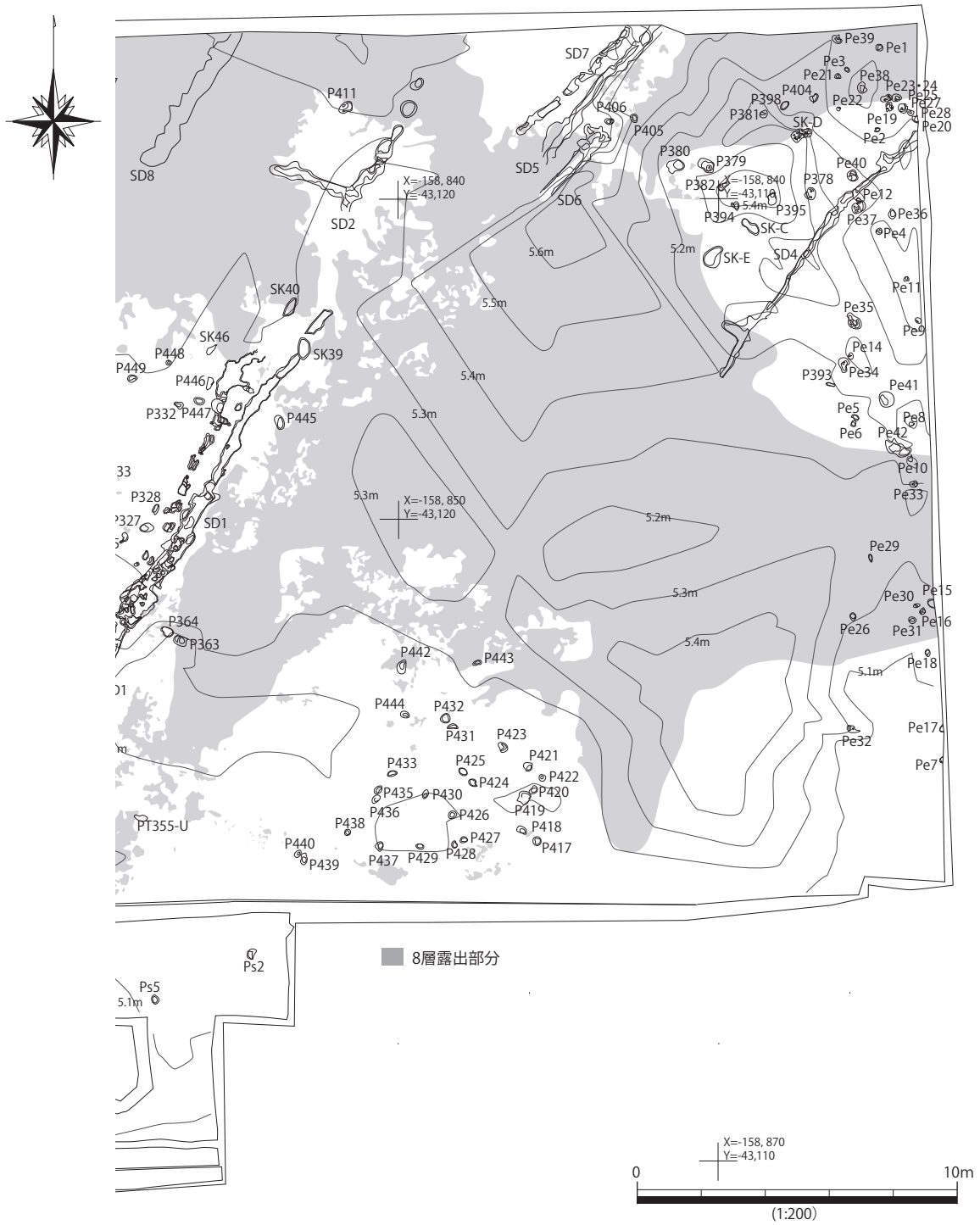


Fig. 37 第三遺構面平面図 東側 S=1/200

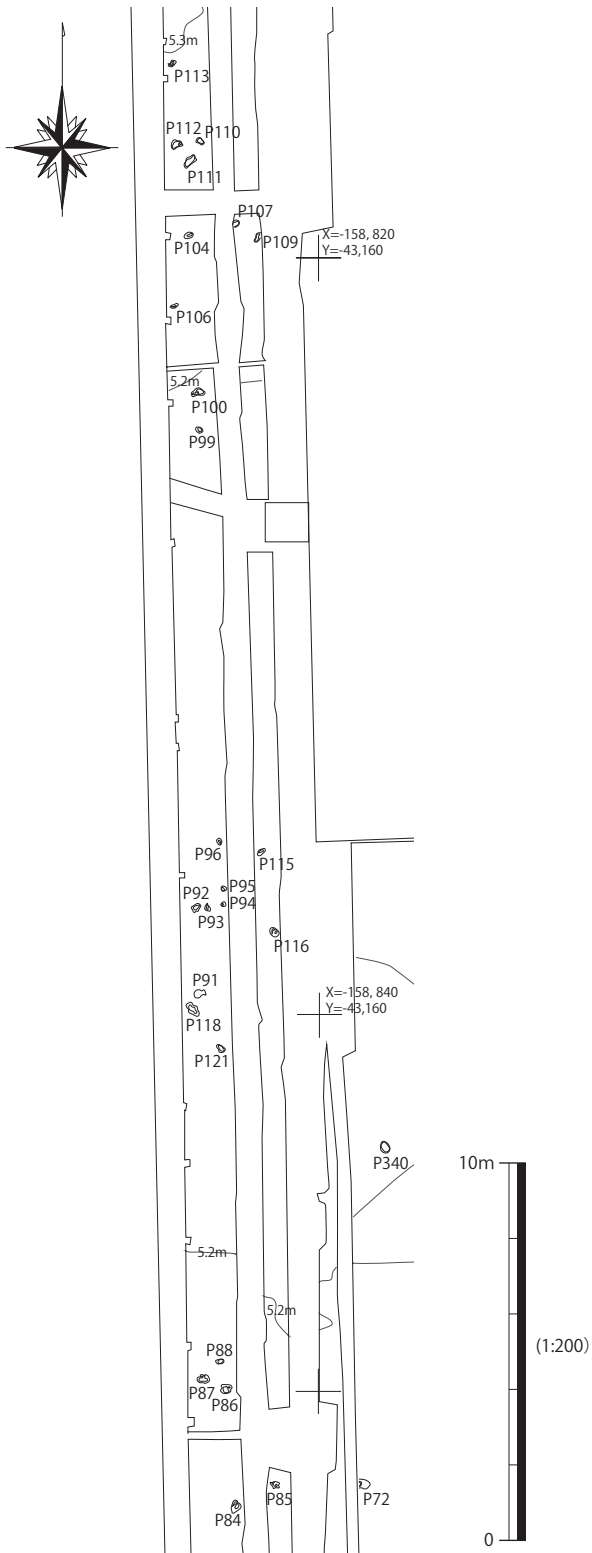


Fig. 38 第三遺構面平面図 (イ) 部 S=1/200



1 共同溝部南側



2 共同溝部北側



3 共同溝部全景 (北から)

PL 35 第三遺構面 (2)

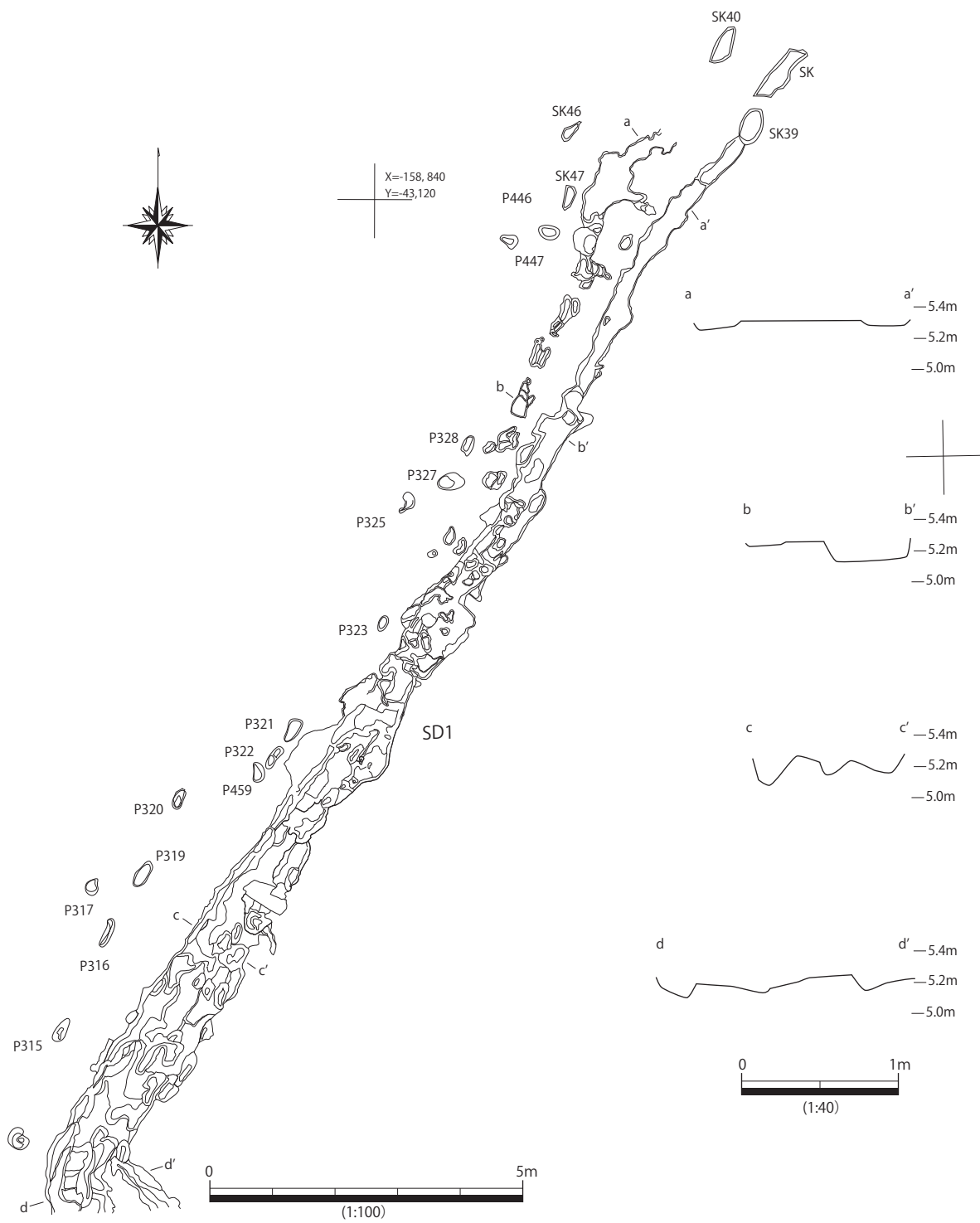


Fig. 39 SD1 および関連遺構 平面 S=1/100 断面 S=1/40

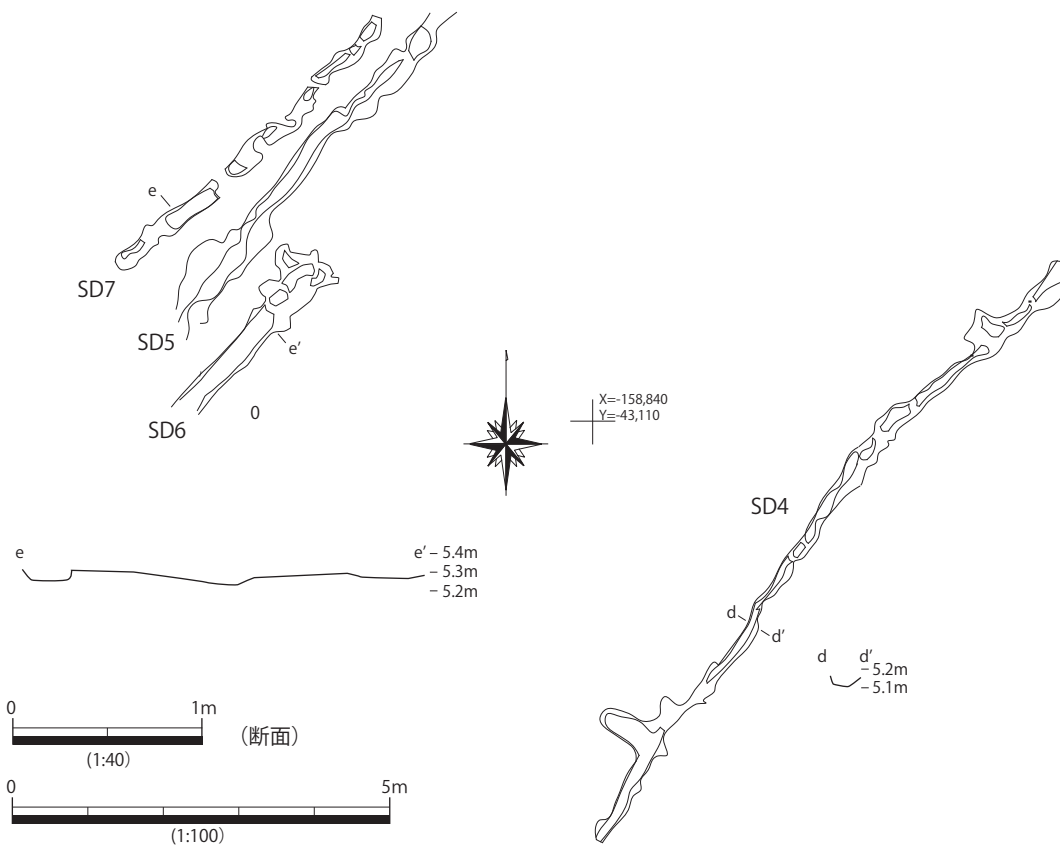
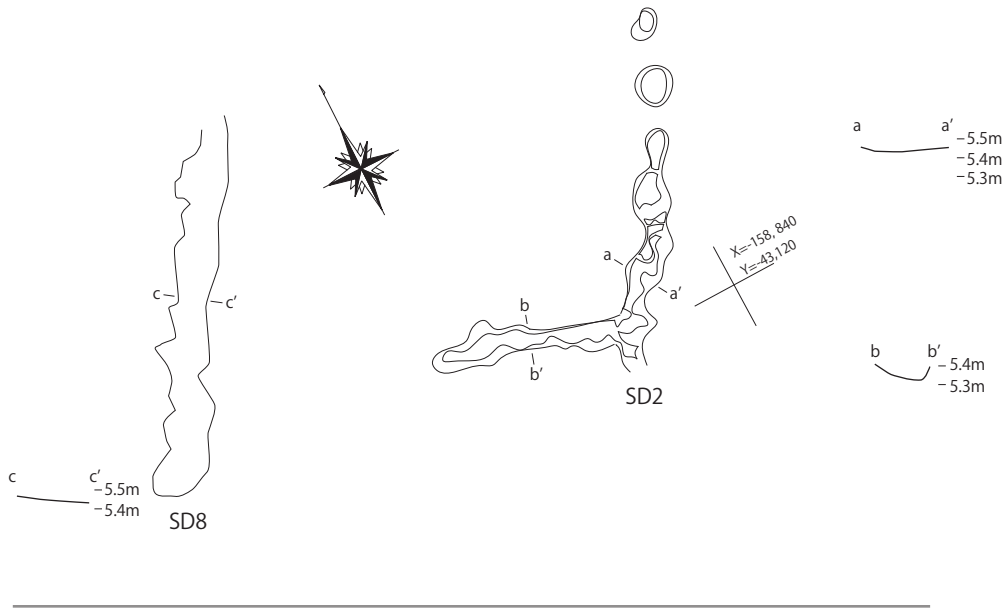
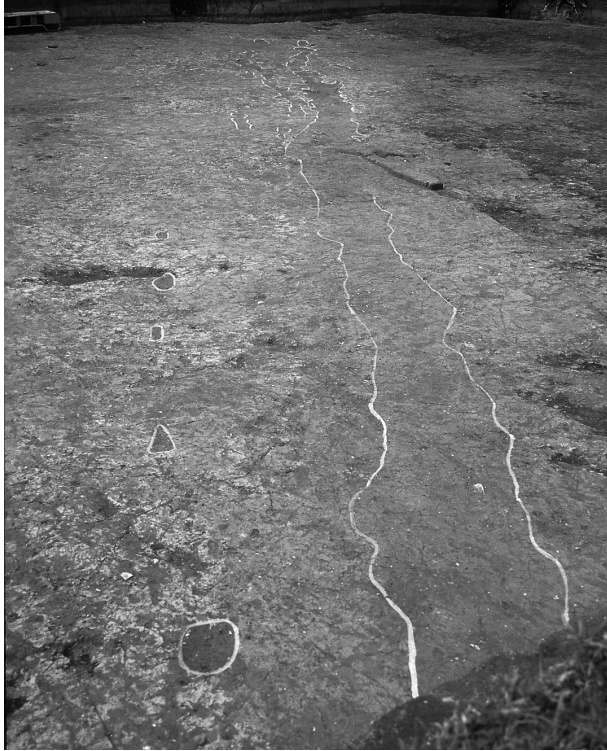


Fig. 40 SD2 · 4 ~ 8 平面 S = 1/100 断面 S=1/40



1 SD 2 検出状況 (南から)



3 SD2 検出状況 (北から)



4 SD 2 完掘状況 (南から)



2 SD4 検出状況 (北から)



5 SD 4 完掘状況 (北東から)

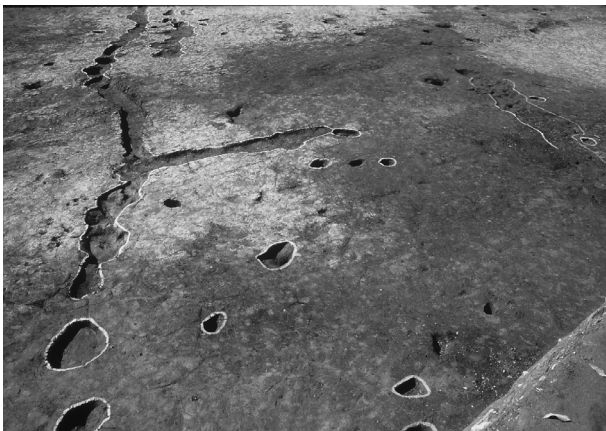


6 SD5～7 完掘状況 (北東から)

PL 36 第Ⅲ遺構面 (3)



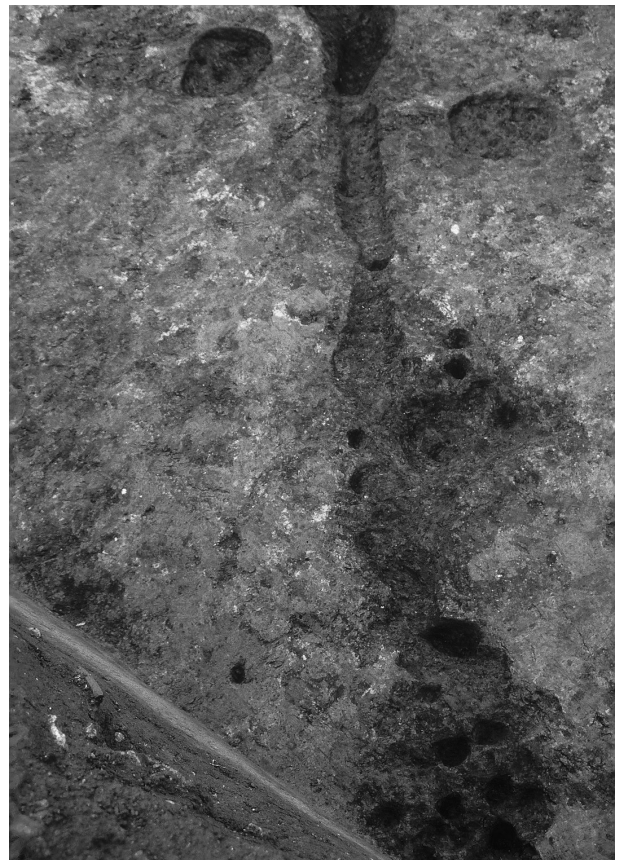
1 7層上面遺構完掘状況（西から）



2 SD2 北側完掘状況（北から）

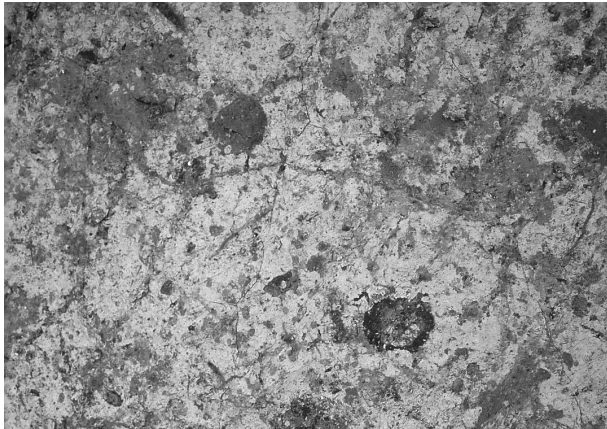


3 SD4 埋土



5 SD4 東側完掘状況（北東から）

PL 37 第三遺構面（4）



1 7層上面検出小ピット



2 7層上面検出小ピット断面

PL 38 第Ⅲ遺構面 (5)

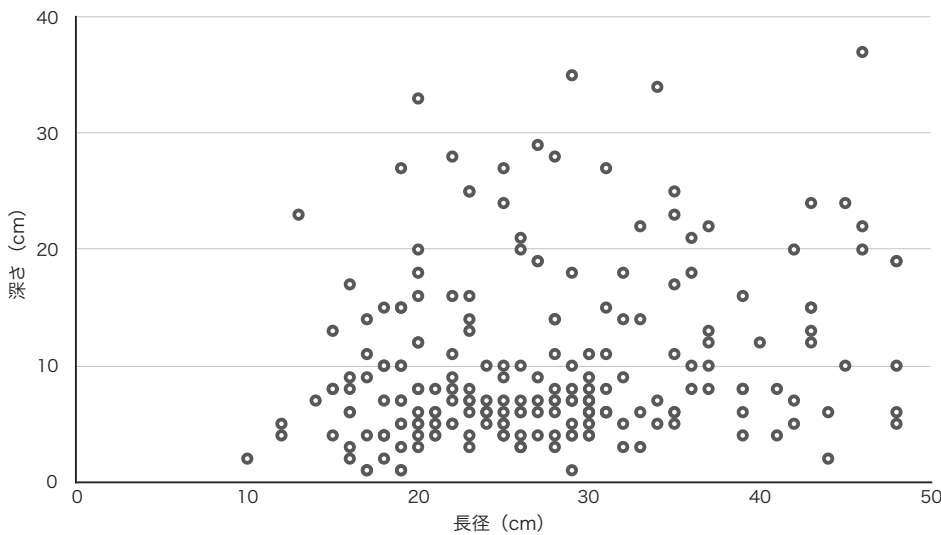


Fig 41 第Ⅲ遺構面検出ピットの大きさや深さ

第9節 第Ⅳ遺構面 (8層上面) 検出遺構 (Fig. 42 ~ 46 PL. 40・41)

7層土を除去したところ、全面に8層が確認でき、この上面で遺構が検出されたため、第Ⅳ遺構面とする。遺構は、擬似畦畔が3条検出された。なお、東側は人為的な地形の改変が考えられたため等高線図を作成した (Fig. 42・43)。

1 AZ1 ~ 3 (Fig. 43 ~ 46)。

調査区北東部から南西方向の傾斜が認められるが、約10m間隔で北西-南東方向に走る畦状の高まりがあり、その間は11に分かれる窪地が形成されていた (Fig.42 ~ 44 RF 1 ~ 11)。一番北側の直線上に伸びる高まりをAZ3とした。長さ22.5m、上面幅1.5m、高さ27cmを測る。

調査区西側には、東側ほど凹凸がないものの、北西-南東方向に走る2条の擬似畦畔が認められた。AZ1は北側に位置する。長さ21.05m、底面幅2.8m、高さ9cmで東端は北壁から伸びる舌状の高まりにぶつかっている。南側に位置するAZ2は長さ約21m、底面幅1.7m、高さ8cmを計り、南区に近い地点で緩やかに収束する。AZ1とAZ2で分けられた東西に長い窪地をRF 9 ~ 11とした。

西側共同溝部分では、擬似畦畔とは認識できなかったものの、AZ1・2の延長上に8層上面のゆるい高まりが認められ (Fig. 42の濃いグレー部)、同一の遺構であると考えられる。

2 水田面

第IV遺構面では、擬似畦畔とした直線的な高まりの他、不定形な高まりが認められ、これらに挟まれた窪地状の落ち込みが西側で11か所確認できた (RF1～11)。窪地の輪郭が比較的明瞭なもの広さを挙げると、RF2は長さ5m・幅6m、RF3は長さ8m、幅6m、RF6は長さ8m、幅6m、RF7は長さ・幅8mで、1面が30～64m²となる。

西側のAZ1・2に区切られている範囲は、平坦な面である。調査区外に広がっているため正確な広さはわからないが、AZ1とAZ2の間が8～10mで、西側の南北方向の擬似畦畔の間隔と同じである。東側は緩傾斜地であるため、比較的大きな畦畔が必要だったのに対し、西側は平坦な地形で大畦としてAZ1・2が残ったものの、その内側をさらに小畔で区切っていたものと推定される。RF10の西側には南北方向の高まりが認められる。調査区南西隅の共同溝部分で8層上面に密集した足跡状遺構が検出された (Fig.43 薄いグレー部)。密集した足跡状遺構は、西隣にある工学部校舎建設に伴う発掘調査 (97-1) において同一層上面でも検出されている⁵⁾。

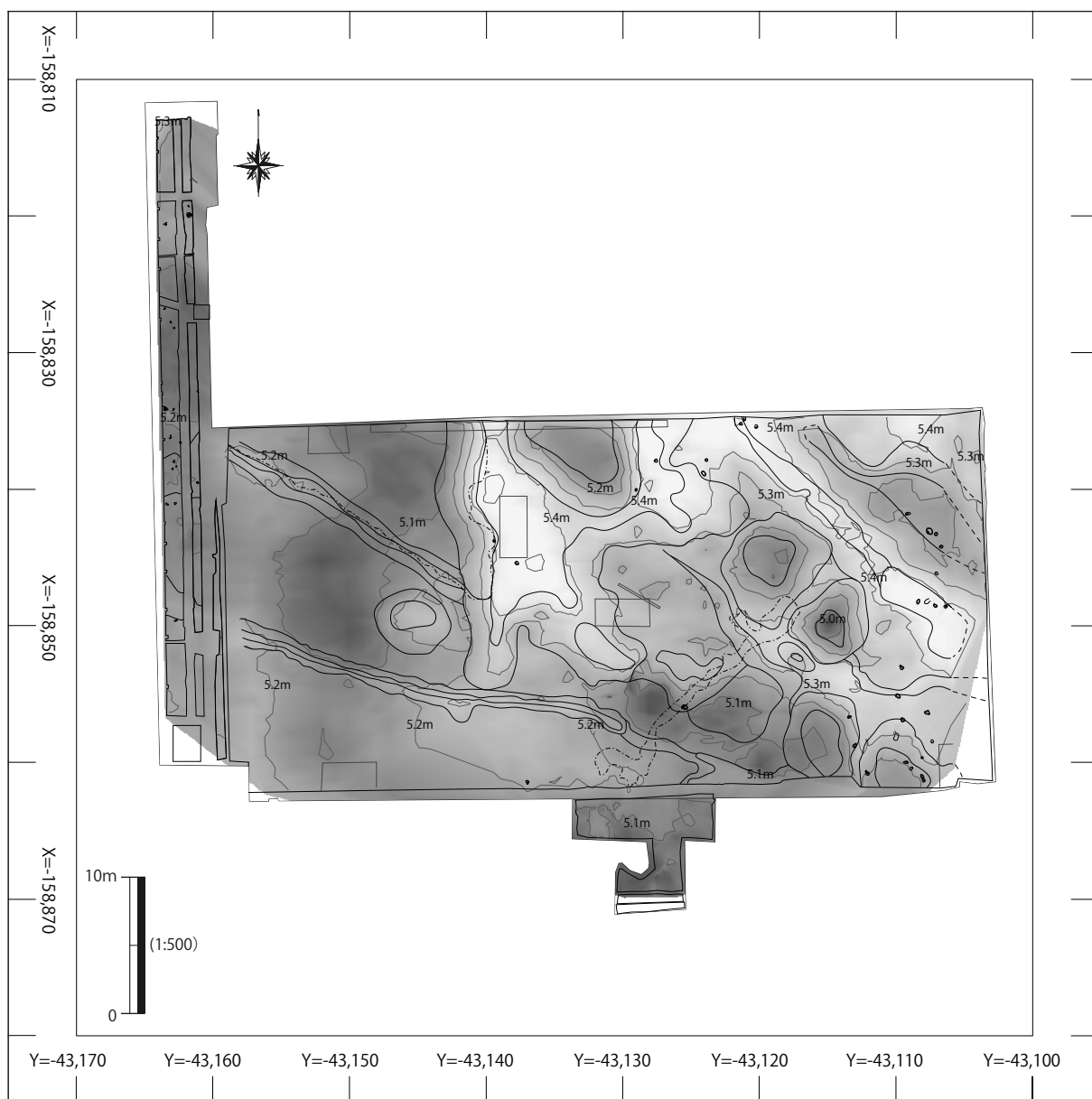


Fig. 42 第IV遺構面平面図 (1) S=1/500

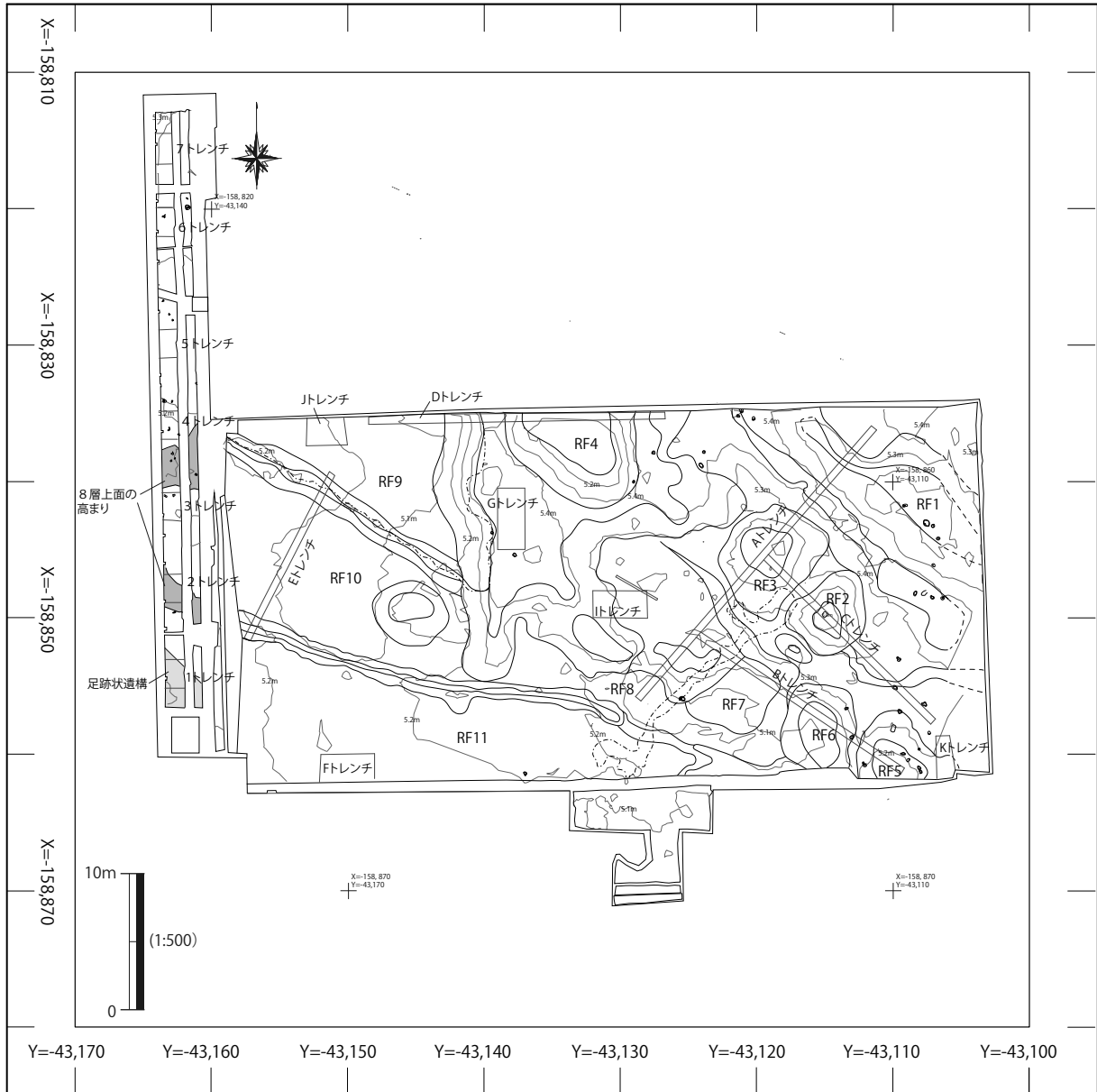


Fig. 43 第IV遺構面平面図（2） S=1/500

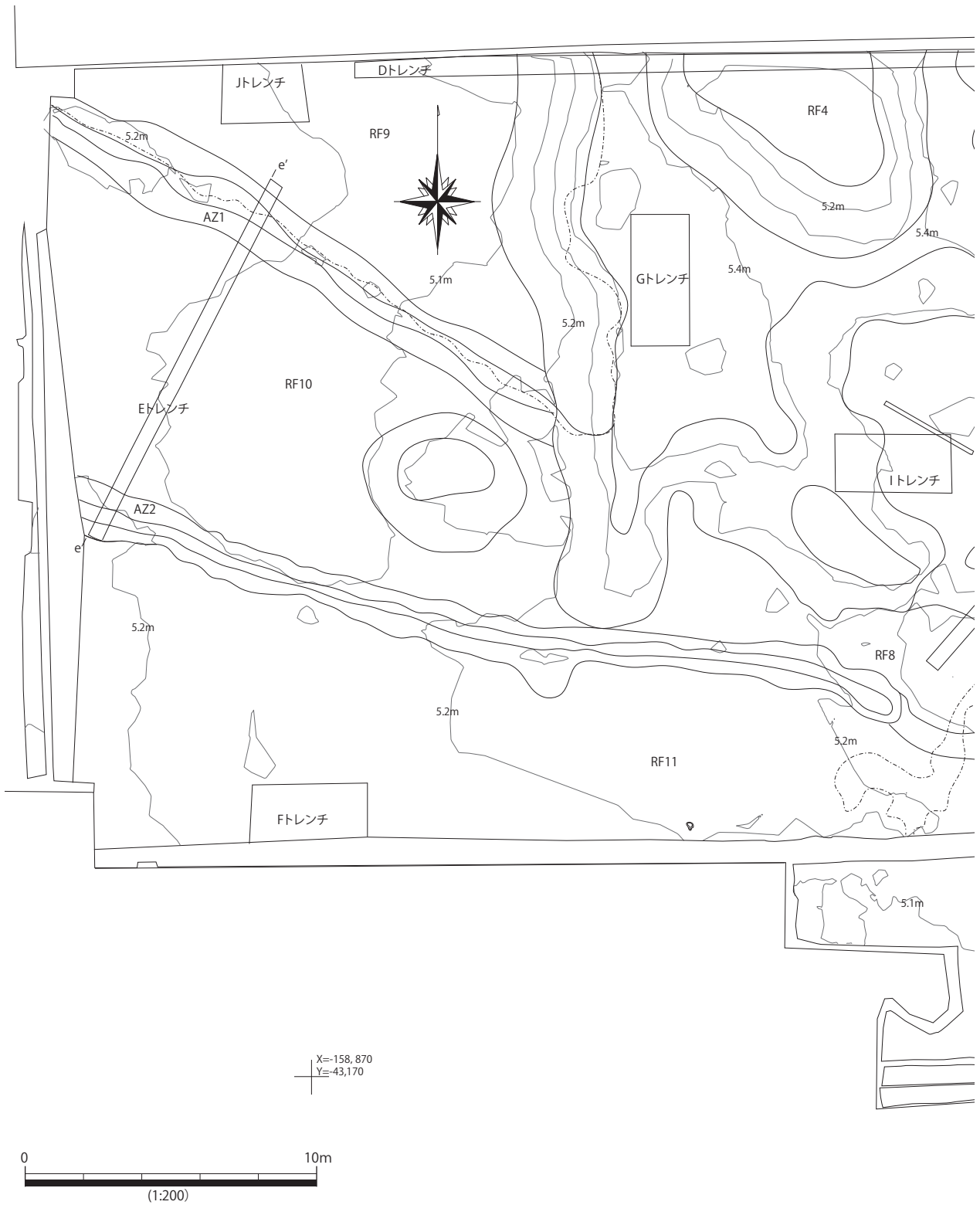


Fig. 44 第IV遺構面平面図 西側 S=1/200

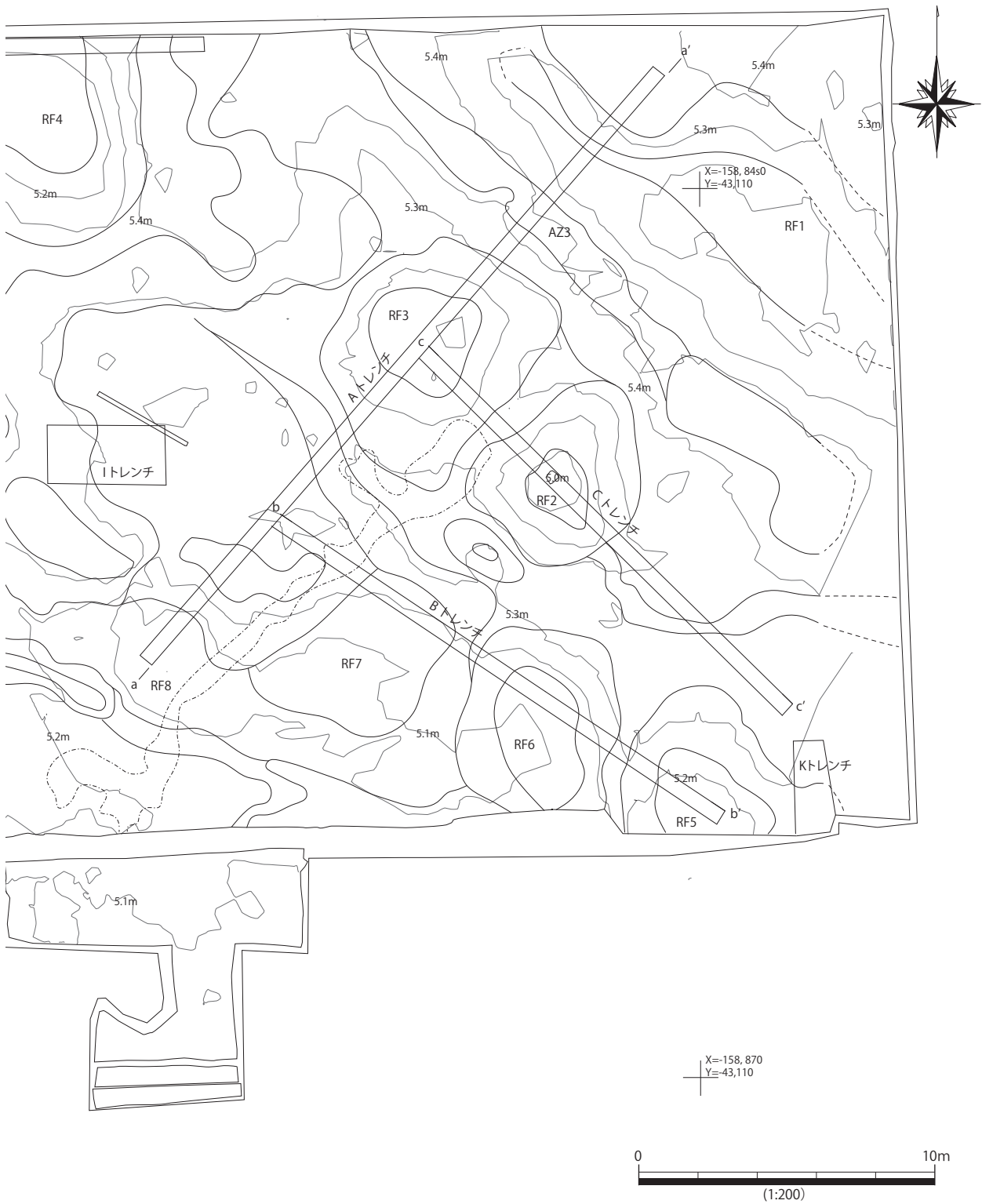


Fig. 45 第IV遺構面平面図 東側 S=1/200

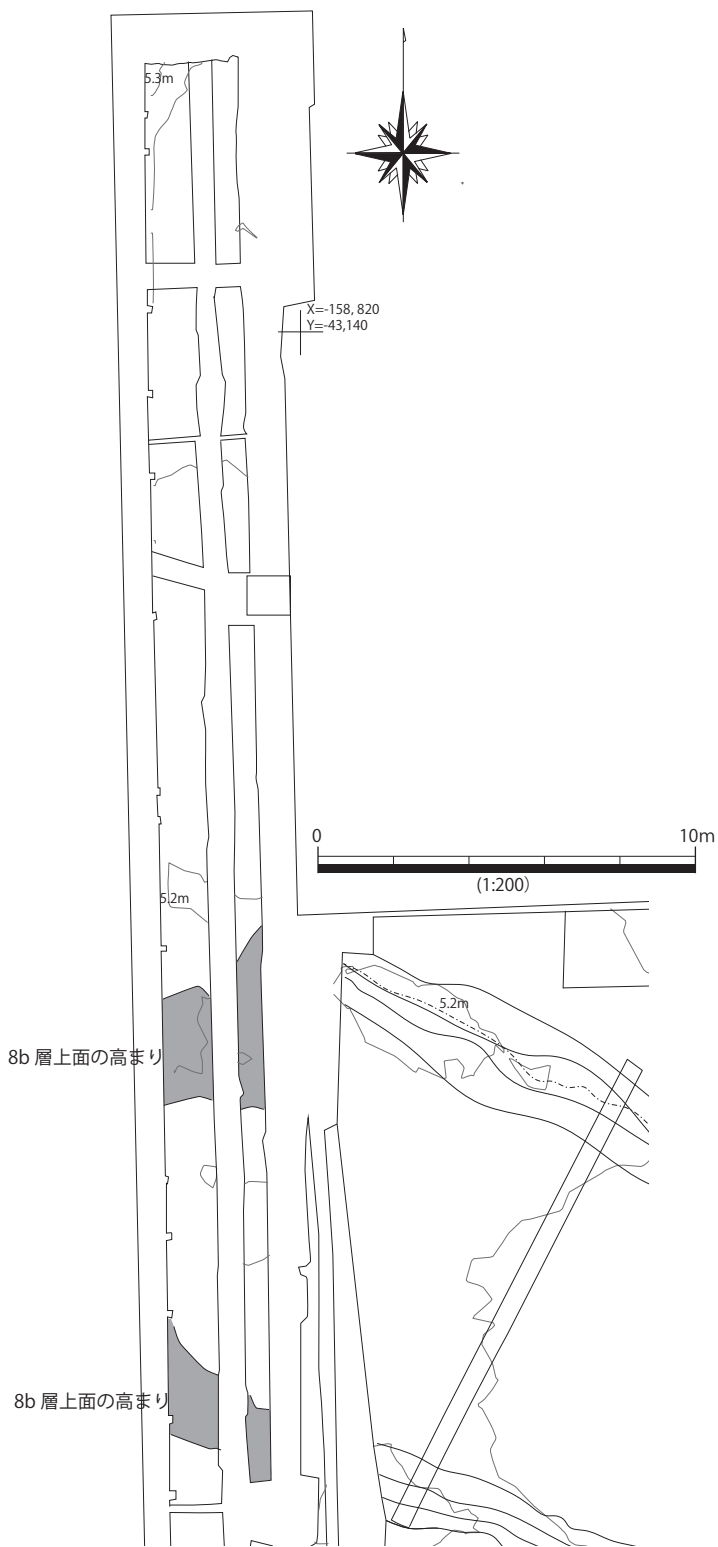


Fig. 46 第IV遺構面平面図 (イ)部 S=1/200



1 足跡状遺構 (南から)



2 足跡状遺構 (西から)



3 足跡状遺構完掘 (西から)

PL 39 第IV遺構面 (イ)部

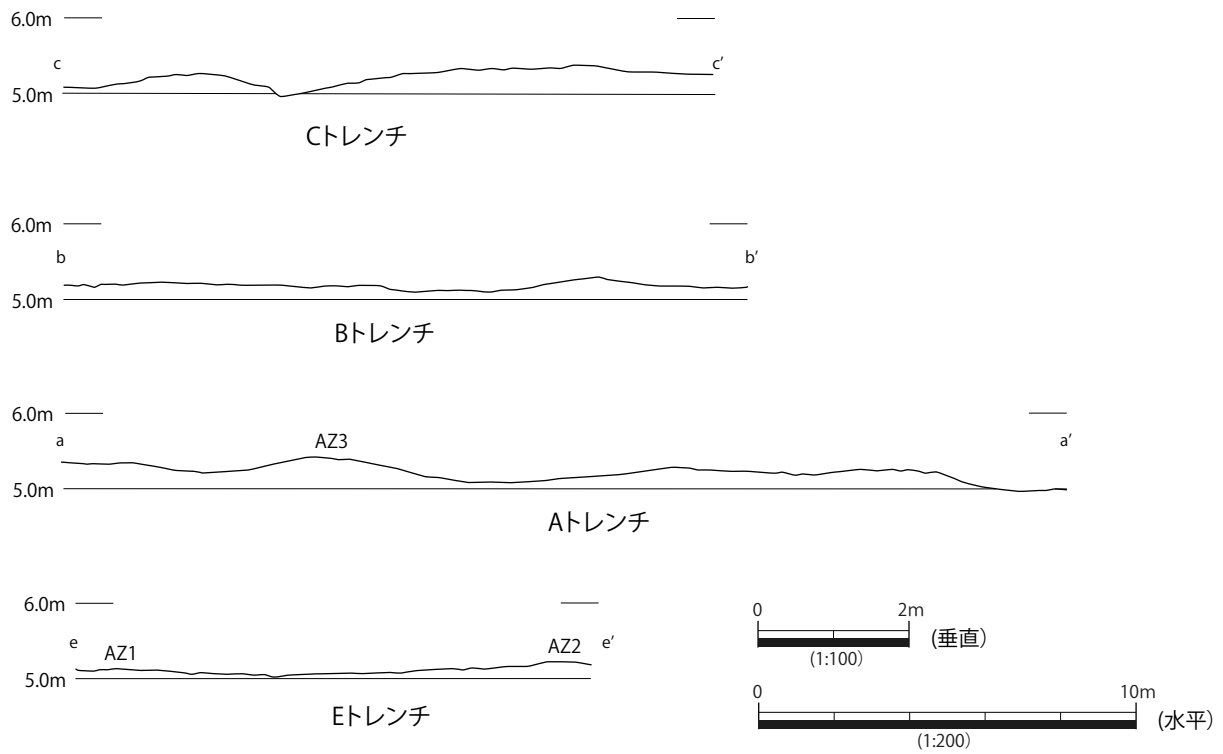


Fig. 47 第IV遺構面断面図 水平方向 S=1/200 垂直方向 S=1/100



1 8層上面検出状況 (西から)

PL 40 第IV遺構面 (1)



2 8層上面検出状況 東側 (西から)



3 8層上面検出状況 西側 (南東から)



1 8層上面完掘状況（西から）



2 8層上面完掘状況（南西から）

PL 41 第IV遺構面（2）

Tab. 4 遺構リスト (1)

遺構名	検出遺構面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
SD1	Ⅲ	2050	150	17	7・8層土の混土	
SD2	Ⅲ	SW-NE 478, SE- NW 250	54	8	7・8層土の混土	
SD3	I	530	40	3	10YR6/2 粗砂を基調とする	波板状遺構の一部
SD4	Ⅲ	NE-SW 622, SE- NW 72	25	4	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
SD5	Ⅲ	532	50	5	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
SD6	Ⅲ	276	54	3	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
SD7	Ⅲ	478	20	7	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
SD8	Ⅲ	485	55	-	10YR6/1 褐灰色 シルト	6c層下部の土が薄く埋土として残っている
SDs1	I	93	922	17	10YR5/2 灰黄褐色 シルト質砂	波板状遺構関連か
AZ	検出遺構面	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	埋土	備考
AZ1	IV	2105	208	9		
AZ2	IV	2098	174	8		
AZ3	IV	2250	150	27		
SK	検出遺構面	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
SK 1	I	48	45	11	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK 2	I	50	42	18	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK 3	I	60	35	4	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK 4	I	50	51	10	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK 5	I	185	81	9	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK 6	I	43	30	4	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK 7	I	13	44	9	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK 8	I	54	30	6	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK 9	I	74	28	7	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK10	I	70	36	5	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK11	I	27	33	9	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK12	I	47	40	5	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK13	I	35	28	5	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK14	I	36	28	4	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK15	I	36	22	5	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK16	I	40	66	4	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK17	I	31	22	10	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK18	I	30	40	7	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK19	I	29	22	3	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK20	I	69	30	9	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK21	I	59	47	6	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK22	I	52	27	14	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK23	I	49	38	5	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK24	I	40	32	5	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK25	I	40	27	2	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK26	I	110	42	4	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK27	I	44	23	3	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK28	I	47	32	2	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK29	I	44	51	3	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK30	I	43	24	4	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK31	I	20	31	1	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK32	I	17	20	3	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK33	I	50	24	6	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部

Tab. 5 遺構リスト (2)

遺構名	検出遺構面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
SK34	I	31	68	4	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK35	I	23	40	3	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	窪地、自然地形か
SK36	I	16	49	1	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK37	I	16	49	2	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	波板状遺構の一部
SK38	I	552	365	12	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	窪地か
SK39	III	66	45	13	7・8層土の混土	SD 1・2 関連
SK40	III	68	30	3	7・8層土の混土	SD 1・2 関連
SK46	III	40	20	5	7・8層土の混土	SD 1・2 関連
SK47	III	40	20	6	7・8層土の混土	
SK61	III	64	29	6	10YR4/2 灰黄褐色, シルト	
SK62	III	68	26	20	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
SK63	III	76	54	22	10YR4/2 灰黄褐色, シルト	
SKs1	III	61	36	13	10YR6/1 褐灰色 シルト	
SKs2	III	35	32	10	10YR6/1 褐灰色 シルト	
PIT	検出遺構面	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	埋土
P2	II	41	30	11	7.5YR5/2 灰褐色シルト 2 ミリ大白色パミス 1 衾 5 mm 大以下炭 2 %	
P3	II	24	18	23	7.5YR5/2 灰褐色シルト 2 ミリ大白色パミス 1 衾 5 mm 大以下炭 2 %	
P4	II	40	25	31	10YR5/2 灰褐色シルト 2 ミリ大白色パミス 1 衾 5 mm 大以下炭 2 %	
P5	II	26	24		10YR5/2 灰褐色シルト 2 ミリ大白色パミス 1 衾 5 mm 大以下炭 2 %	
P7	II	40	35	30	10YR3/ 2 黒褐色シルト ,0.2cm 大の炭 1 %	
P8	II	30	28		① 10YR3/2 シルト② 10YR ? /2 にぶい黄橙色シルト③?	断ち割り
P9	II	38	30	24	10YR5/2 灰褐色シルト 5 mm 大パミス 2 %	
P10	II	21	20	5	10YR5/2 灰褐色シルト	浅い
P11	II	34	30	56	10YR4/2 灰黄褐色シルト少し粘質	実測
P12	II				10YR3/2 黒褐色, シルト (粘性か), 炭 1% 以下含む, 炭化物層あり 軽石 2% (0.5cm 以下) 1.7cm 大軽石含む, 鉄分浸透炭, やや広がる面あり	
P13	II	23	21	21	10YR3/2 黒褐色, シルト (粘性か), 炭 1% 以下含む, 軽石 2% (0.5cm 以下) 1.8cm 大軽石含む, 鉄分浸透炭, やや広がる面あり	
P14	II	26	31	43	10YR3/2 黒褐色, シルト (粘性か), 炭 1% 以下含む, 軽石 2% (0.5cm 以下) 1.9cm 大軽石含む, 鉄分浸透炭, やや広がる面あり	実測
P15	II	32	17	59	10YR3/2 黒褐色, シルト (粘性か), 炭 1% 以下含む, 軽石 2% (0.5cm 以下) 1.10cm 大軽石含む, 鉄分浸透炭, やや広がる面あり	
P16	II	38	29	54	10YR3/2 黒褐色, シルト (粘性か), 炭 1% 以下含む, 軽石 2% (0.5cm 以下) 1.11cm 大軽石含む, 鉄分浸透炭, やや広がる面あり	
P17	II	30	19	27	10YR3/2 黒褐色, シルト (粘性か), 炭 1% 以下含む, 軽石 2% (0.5cm 以下) 1.12cm 大軽石含む, 鉄分浸透炭, やや広がる面あり	
P18	II	21	15	40	10YR3/2 黒褐色, シルト (粘性か), 炭 1% 以下含む, 軽石 2% (0.5cm 以下) 1.13cm 大軽石含む, 鉄分浸透炭, やや広がる面あり	
P19	II	19	13	30	10YR3/2 黒褐色, シルト (粘性か), 炭 1% 以下含む, 軽石 2% (0.5cm 以下) 1.14cm 大軽石含む, 鉄分浸透炭, やや広がる面あり	
P20	II	20	18	19	10YR3/2 黒褐色, シルト (粘性か), 炭 1% 以下含む, 軽石 2% (0.5cm 以下) 1.15cm 大軽石含む, 鉄分浸透炭, やや広がる面あり	
P21	II	19	18	24	7.5YR5/1 シルト 埋土中に薄い炭化物層あり シロ状	ム

Tab. 6 遺構リスト (3)

遺構名	検出遺構面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
P22	II	25	20	29	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 炭ブロック状に含む	
P23	II	20	17	19	7.5YR5/1 シルト 埋土中に薄い炭化物層あり	
P24	II	17	17	20	10YR5/2 灰黄褐色, シルト (浅い)	
P25	II	35	30	49	7.5YR5/1 褐灰色, シルト, 0.5cm 大, 1cm 長の細長い炭ブロックで含む	
P26	II	20	19	33	7.5YR5/3 にぶい褐色, 1cm 長の細長い炭 5% 含む, 0.2 ~ 0.3cm パミス 3% 含む	
P27	II	28	23	39	7.5YR5/2 灰褐色, シルト, 2cm 大のパミス含む, 炭 1% 含む	
P28	II	26	18	53	7.5YR4/1 褐灰色, シルト, 0.5cm 大のパミス 2% 含む	
P29	II	40	22	48	7.5YR4/1 褐灰色, シルト, 2cm 長の細長い炭ブロックで含む	
P30	II	29	19	51	7.5YR5/1 褐灰色, シルト, 炭ブロックで含む	
P31	II	23	19	58	5・6・7・8 層土の 2 ~ 3cm のブロックによる混土	
P32	II	38	20	21	7.5YR4/1 褐灰色, シルト, 0.5cm 大炭 1% 含む	
P33	II	25	17	51	10YR4/1 褐灰色, シルト, 0.2 ~ 0.3cm 大パミス 3% 含む	
P34	II	25	25	44	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 0.2cm 大パミス 1% 少し粘性あり	
P35	II	24	17	44	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 0.5 ~ 1cm 大パミス 1% 含む, 1cm 大パミス 2% 含む	
P36	II	26	23	49	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 0.1cm 大炭 2% 含む	
P37	II	23	17	41	10YR4/1 褐灰色, シルト, 0.1cm 大炭 1% 含む, 0.1cm 以下パミス 3% 含む	
P38	II	27	24	43	10YR5/1 褐灰色, シルト	
P39	II	39	33	12	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 0.5cm 大パミス 2% 含む, 浅いピットではない	
P41	II	27	22	49	10YR4/1 褐灰色, シルト, 0.2cm 大炭 3% 含む	
P42	II	27	21	23	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 0.2cm 大パミス 2% 含む, 固くしまる	
P43	II	29	20	27	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7 層上 0.5cm 大のブロックで含む (下部)	
P44	II	22	18	43	7.5YR5/1 褐灰色, シルト, 0.1 ~ 0.2cm 大炭 2% 含む, 0.2 ~ 0.3cm 大パミス 2% 含む	
P45	II	27	16	16	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 0.1 ~ 0.2cm 長の細長い炭 5% 含む	
P46	II	20	18	22	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 0.2cm 大パミス 2% 含む, 固くしまる	
P47	II	28	23	38	① 10YR5/1 褐灰色, シルト, 1 層 0.5cm 大炭含む, ② 7.5YR5/1 褐灰色, シルト, 6 b 層 5cm 大のブロックを 1 つ含む	
P48	II	25	17	15	5YR4/1 褐灰色, シルト, 0.1 ~ 0.5cm 大の炭 1% 以下含む	
P49	II	26	18	57	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 0.5cm 以下の炭 3% 含む, 0.2cm 大パミス 2% 含む	
P50	II	21	18	51	2.5YR4/1 黄灰色, シルト, あまり粘性はない, 鉄分 (点状) 周りの土も同じ 0.2cm 大のパミス (白) 含む 1% 含む	
P51	II	16	15	17	2.5YR4/1 黄灰色, シルト, あまり粘性はない, 鉄分 (点状) 周りの土も同じ 0.2cm 大のパミス (白) 含む 1% 含む, 少し砂っぽい	
P52	II	17	17	26	10YR5/1 褐灰色, シルト, 6 層上 1cm ブロック含む	
P53	II	36	33	49	10YR5/1 褐灰色, シルト, 6 層上 1cm ブロック含む	
P54	II	21	17	29	7.5YR5/2 灰褐色, シルト, 0.2cm 大パミス炭各 1% 含む	
P56	II	27	27	54	10YR5/1 褐灰色, 炭 3% 含む	
P57	II	27	24	54	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 1cm 以下軽石 3% 含む	

Tab. 7 遺構リスト (4)

遺構名	検出遺構面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
P58	II	20	18	29	10YR5/1 褐灰色, シルト, 7層上ブロックで含む	
P59	II	39	25	47	10YR4/1 褐灰色, シルト	
P60	II	24	20	-	10YR3/2 黒褐色, シルト	
P61	II	21	21	45	"10YR3/2 黒褐色, シルト, (埋土 1) 炭ごく少量混じる	
P62	II	22	17	19	10YR3/2 黒褐色, シルト, 炭 1% 含む, 6層土 5cm 大ブロック含む (下方) → 2cm 大 7層土ブロック含む	
P63	II	28	27	26	① 10YR4/1 褐灰色, シルト, ② 10YR4/1 褐灰色, シルト, 6層土が含む	
P64	II	22	22	14	10YR3/2 黒褐色, シルト, 炭ごく少量含む	
P66	II	18	14	12	10YR3/2 黒褐色, シルト, 6層がブロック状に含む	
P67	II	39	22	24	10YR3/2 黒褐色, シルト, 0.5cm 大バミス 10% 含む	
P68	II	35	-	-	10YR3/1 黒褐色, シルト, 7・8層土 2～3cm 大ブロック含む	
P69	II	22	-	28	10YR3/2 黒褐色, シルト, 0.5cm 大バミス 10% 含む	
P70	II	27	-	32	10YR3/2 黒褐色, シルト, 0.5cm 大バミス含む 10% 含む, M1:10YR4/1 褐灰色, シルト, 鉄分浸透, 7層土含む, M2	
P71	II	21	21	46	10YR3/2 黒褐色, シルト	
P72	II	24	39+ α	31	10YR3/2 黒褐色, シルト	
P74	III	36	35	21	10YR3/2 黒褐色, シルト	
P75	II	19	14	-	10YR3/2 黒褐色, シルト	
P78	II	29	19	23	10YR3/2 黒褐色, シルト	
P81	II	35	24	6	10YR5/3 にぶい黄褐色, シルト, 7層土 1cm 大ブロックで含む	
P82	III	24	10	10	7.5YR6/2 灰褐色, シルト,	
P83	III	25+	20	14	7.5YR6/2 灰褐色, シルト	
P84	III	27	31	9	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P85	III	27	20	29	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7層土・8層土を 1cm 大のブロックで含む	
P86	III	26	23	6	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 7層土 (黄白色) を少しブロックで含む	
P87	III	34	22	7	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 7・8層土をブロックで一部含む	
P88	III	23	12	4	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 0.5×1cm ほどの薄い細い炭化物含む	
P91	III	29	19	-	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7・8層土をブロックで含む	
P92	III	25	17	4	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 7層土との混土 (マ-ブル状)	
P93	III	19	15	5	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 灰黄褐色 鉄分浸透あり	
P94	III	12	13	5	10YR3/2 黒褐色, シルトと 7層土の混土	
P95	III	15	13	8	2.5YR3/3 暗赤褐色, シルト, 少し 5層土含む	
P96	III	17	12	4	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P99	III	20	15	8	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 炭 1% 以下含む	
P100	III	37	19	13	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 炭 1% 含む	
P104	III	25	15	7	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7層炭化物含む	
P106	III	22	10	9	7.5YR5/1 褐灰色, シルト, 細長く薄く炭化物含む	
P107	III	18	-	7	7.5YR5/1 褐灰色, シルト, 7層・8層 (はごく少し) 含む	
P109	III	28	13	14	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 炭少量含む	
P110	III	22	14	8	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 炭 1% 含む	
P111	III	39	19	8	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7・8層混土を含む	

Tab. 8 遺構リスト (5)

遺構名	検出遺構面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
P112	Ⅲ	30	21	7	10YR3/2 黒褐色, シルト, ピット?	
P113	Ⅲ	19	12	15	10YR3/1 黒褐色, シルト, 質砂	
P115	Ⅲ	25	12	6	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 8層含む	
P116	Ⅲ	27	18	19	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 7・8層土混土1cm大 ～ブロック含む	
P118	Ⅲ	43	26	12	"10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 上下2つに分層 M1 上 下2つに分層	
P155	Ⅲ	30	23	9	2.5Y6/1 黄灰色, シルト	
P156	Ⅲ	19	16	5	2.5 Y 6/1 黄灰色, シルト	
P157	Ⅲ	17	13	1	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7層土ブロック含む	
P158	Ⅲ	42	17	7	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P159	Ⅲ	19	15	1	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P160	Ⅲ	16	14	8	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 7層土ブロック含む	
P161	Ⅲ	35	21	23	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 7層土ブロック含む	
P166	Ⅲ	37	29	12	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 7層土ブロック含む	
P167	Ⅲ	14	13	7	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 7・8層土ブロック含む	
P168	Ⅲ	15	6	8	2.5Y5/1 黄灰色, シルト	
P169	Ⅲ	20	11	12	2.5Y5/1 黄灰色, シルト	
P170	Ⅲ	16	8	2	2.5Y5/1 黄灰色, シルト	
P175	Ⅲ	25	13	5	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 7層土ブロック含む	
P176	Ⅲ	26	14	6	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P177	Ⅲ	23	19	6	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P179	Ⅲ	20	17	4	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P179	Ⅲ	24	19	7	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P182	Ⅲ	26	16	3	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 7層土ブロック含む	
P184	Ⅲ	16	14	3	10YR6/1 褐色, シルト, 7層土との混土	
P185	Ⅲ	15	13	4	10YR6/1 褐色, シルト, 7層土との混土	
P186	Ⅲ	31	28	8	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 炭含む, 7層土ブロッ ク含む	
P187	Ⅲ	30	16	6	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 炭含む, 7層土ブロッ ク含む	
P188	Ⅲ	16	15	6	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P189	Ⅲ	21	18	6	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P190	Ⅲ	20	18	5	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P201		43	26	15	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P202	Ⅲ	30	18	11	10YR4/2 灰黄褐色, シルト	
P203	Ⅲ	19	14	7	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7層土との混土	
P204	Ⅲ	24	15	5	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 7層土ブロックで少し 含む	
P205	Ⅲ	20	15	3	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7層土ブロックで少し 含む	
P206	Ⅲ	20	14	6	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7層土ブロックで少し 含む	
P207	Ⅲ	48	23	10	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7層土との混土	
P209	Ⅲ	19	13	7	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 径0.5cm以下軽石1% 含む	
P210	Ⅲ	31	12	6	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 径0.5cm以下軽石1% 含む, 7層土ブロック少し含む	
P211	Ⅲ	12	12	4	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P212	Ⅲ	29	25	1	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7層土ブロック含む	
P213	Ⅲ	19	15	10	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P214	Ⅲ	18	14	10	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P215	Ⅲ	28	17	7	10YR4/2 灰黄褐色, シルト	
P216	Ⅲ	28	23	7	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 8層土ブロック含む	
P217	Ⅲ	35	20	6	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 8層土ブロック含む	

Tab. 9 遺構リスト (6)

遺構名	検出遺構面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
P218	Ⅲ	33	19	14	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 7層土との混土	
P221	Ⅲ	29	16	35	10YR3/3 暗褐色, シルト	
P222	Ⅱ	25	21	40	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 黄色土のブロック 5% 含む	
P223	Ⅱ	26	20	2	10YR3/2 黒褐色, シルト, 軽石含む	
P224	Ⅱ	27	23	3	10YR4/2 灰黄褐色, シルト	
P225	Ⅱ	27	20	4	10YR4/3 にぶい黄褐色, シルト	
P226	Ⅱ	18	15	4	10YR4/3 にぶい黄褐色, シルト	
P227	Ⅱ	26	21	8	10YR3/2 黒褐色, シルト	
P228	Ⅱ	20	15	32	10YR3/2 黒褐色, 灰色土も含む	
P229	Ⅱ	37	27	9	10YR4/3 にぶい黄褐色, 黄色土のブロック 2% 含む	
P230	Ⅱ	29	20	48	10YR4/3 にぶい黄褐色, 砂粒 1% 含む	
P231	Ⅱ	36	28	12	10YR5/3 にぶい黄褐色, 黄色土のブロック含む	
P232	Ⅱ	29	16	12	10YR4/2 灰黄褐色	
P233	Ⅱ	27	16	2	10YR4/2 灰黄褐色, 径 1.5 cm の黒色土ブロック含む	
P234	Ⅱ	20	11	5	10YR4/2 灰黄褐色	
P235	Ⅱ	37	19	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	
P238	Ⅱ	32	22	21	10YR3/3 暗褐色	
P239	Ⅱ	26	18	8	10YR4/3 にぶい黄褐色, 灰色土のブロック 5% 含む	
P243	Ⅱ	28	19	28	10YR4/2 灰黄褐色	
P246	Ⅱ	30	22	4	10YR4/2 灰黄褐色	
P248	Ⅱ	29	18	10	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 炭 1% 含む	
P249	Ⅱ	24	22	52	10YR3/2 黒褐色, シルト	
P250	Ⅱ	30	29	2	10YR3/2 黒褐色, シルト	
P251	Ⅱ	26	15	5	10YR4/3 にぶい黄褐色, シルト	
P252	Ⅱ	21	17	29	10YR4/2 灰黄褐色, 黒色土ブロック 1% 含む	
P253	Ⅱ	20	15	-	10 Y R 4/3 にぶい黄褐色	
P254	Ⅱ	27	24	11	10YR3/3 暗褐色	
P255	Ⅱ	27	24	2	10YR3/3 暗褐色, シルト, 径 0.4 cm の軽石含む	
P256	Ⅱ	35	32	3	10YR4/3 にぶい黄褐色, シルト, 径 0.5 cm の軽石含む	
P258	Ⅱ	38	22	3	10YR5/2 灰黄褐色, 砂質, 径 0.1 cm 以下の軽石含む	
P260	Ⅱ	29	21	7	10YR3/3 暗褐色	
P261	Ⅱ	18	16	21	10YR3/3 暗褐色, 径 0.2 cm 以下の軽石含む	
P262	Ⅱ	22	-	18	10YR3/2 黒褐色, シルト, 径 0.4 cm 軽石含む	
P263	Ⅱ	31	25	15	10YR3/4 暗褐色	
P264	Ⅱ	28	23	33	10YR3/4 暗褐色	
P265	Ⅱ	26	24	20	10YR4/3 にぶい黄褐色	
P266	Ⅱ	31	25	25	10YR3/2 黒褐色	
P267	Ⅱ	15	13	10	10YR4/3 にぶい黄褐色, シルト, 径 0.5 cm の軽石含む	
P268	Ⅱ	22	16	20	10YR3/2 黒褐色, 径 0.5 cm の軽石含む, 径 0.5 cm の炭含む	
P269	Ⅱ	20	14	22	10YR3/2 黒褐色, 径 0.4 ~ 0.5 cm の軽石含む, 黒色土ブロック含む	
P270	Ⅱ	20	12	8	10YR4/3 にぶい黄褐色, シルト, 径 0.5 cm 以下の軽石 1% 含む	
P271	Ⅱ	24	17	25	10YR2/2 黒褐色	
P274	Ⅱ	18	15	10	10YR3/2 黒褐色, シルト, 径 1 cm 以下の軽石 1% 含む	
P275	Ⅱ	18	17	4	10YR3/3 暗褐色, 砂質	
P276	Ⅱ	34	14	24	10YR4/2 灰褐色, 径 0.5 cm 以下の軽石 1% 含む, 黒色土ブロック含む	

Tab. 10 遺構リスト (7)

遺構名	検出遺構面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
P277	II	19	16	18	10YR4/3 にぶい黄褐色, 砂質シルト, 径 0.2 cm の軽石含む	
P278	II	22	14	-	10YR3/2 黒褐色, 砂質シルト	
P279	II	27	16	16	10YR3/3 暗褐色, 砂質シルト	
P280	II	19	15	16	10YR4/2 灰黄褐色, 砂質シルト	
P281	II	16	10	-	10YR4/3 にぶい黄褐色, 砂質シルト	
P282	II	15	13	7	10YR4/3 にぶい黄褐色, 砂質シルト	
P283	II	23	14	15	10YR4/2 灰黄褐色, 砂質シルト, 径 1.8 cm 以下の軽石 1% 含む	
P284	II	24	21	36	10YR4/2 灰黄褐色, 砂質シルト	
P286	II	34	14	18	10YR4/3 にぶい黄褐色, 砂質, 黒い土含む	
P287	II	18	11	15	10YR4/3 にぶい黄褐色, 砂質シルト, 径 0.5cm 以下の軽石 1% 含む	
P288	II	20	15	22	10YR4/3 にぶい黄褐色, 砂質シルト	
P289	II	23	17	12	10YR4/2 灰黄褐色, 砂質シルト, 径 0.2 cm の軽石含む	
P291	II	62	27	38	10YR3/2 黒褐色, シルト, 軽石含む	
P292	II	22	21	25	10YR3/2 にぶい黄褐色, シルト, 径 0.6 cm 以下の軽石 1% 含む	
P293	II	34	33	15	10YR3/2 黒褐色, 砂質シルト, 径 0.4 cm 以下パミス 1% 含む	
P294	II	25	18	6	10YR6/2 灰黄褐色, シルト, 細長い炭化物含む	
P295	III	23	16	13	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P296	III	28	14	4	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P297	III	30	22	4	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P298	III	53	27	7	10YR6/1 褐灰色, シルト	
P299	III	10	7	2	10YR6/1 褐灰色, シルト	
P300	III	18	18	4	10YR6/1 褐灰色, シルト	
P301	III	19	15	3	10YR6/1 褐灰色, シルト	
P302	III	19	14	1	10YR6/1 褐灰色, シルト	
P304	III	23	21	7	10YR6/1 褐灰色, シルト	
P305	III	33	21	22	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P306	III	37	26	8	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P307	III	28	12	7	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P308	III	27	19	4	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P309	III	17	12	1	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P310	III	22	11	7	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P311	III	26	16	3	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P312	III	18	10	4	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P313	III	17	13	14	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P314	III	39	15	4	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P315	III	41	18	4	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P316	III	48	13	6	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P317	III	27	20	7	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P318	III	23	16	8	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P319	III	45	23	10	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P320	III	30	14	7	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P321	III	39	20	6	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P322	III	39	13	8	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P323	III	26	16	21	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P324	III	13	10	23	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P325	III	35	18	5	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P326	III	28	16	3	7.5YR5/2 灰褐色・シルト	
P327	III	42	26	5	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	

Tab. 11 遺構リスト (8)

遺構名	検出遺構面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
P328	Ⅲ	33	16	6	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P329	Ⅲ	35	18	17	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P331	Ⅲ	43	33	13	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P332	Ⅳ	28	20	9	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P333	Ⅲ	70	18	7	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P334	Ⅲ	26	24	20	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P335	Ⅲ	39	18	16	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P336	Ⅲ	22	19	16	7.5YR5/2 灰褐色, シルト	
P337	Ⅲ	36	16	18	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P340	Ⅲ	32	25	5	7・6層混土, 炭化物含む	
P341	Ⅲ	23	19	25	7・6層混土	
P342	Ⅲ	19	17	27	7・6層混土	
P343	Ⅲ	45	27	24	7・6層混土, 炭化物含む	
P344	Ⅲ	48	25	5	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P345	Ⅲ	29	18	5	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P346	Ⅲ	21	19	6	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P347	Ⅲ	64	30	14	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P348	Ⅲ	31	16	6	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P349	Ⅲ	24	19	6	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P350	Ⅲ	31	21	6	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P351	Ⅲ	20	19	20	10YR4/2 灰黄褐色, シルト	
P353	Ⅳ	19	17	17	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 炭含む	
P355	Ⅲ	44	20	2	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P356	Ⅲ	25	16	4	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P357	Ⅲ	21	20	4	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P358	Ⅲ	26	16	3	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P359	Ⅲ	33	14	3	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P361	Ⅲ	27	14	6	7.5YR6/1 褐灰色・シルト	
P363	Ⅲ	42	27	20	上部: 10YR6/2 灰黄褐色, シルト 下部: 8層土との混土	
P364	Ⅲ	40	28	12	10YR7/2 にぶい黄橙色, シルト	
P365	Ⅲ	37	16	10	10YR6/2 灰黄褐色, シルト	
P366	Ⅳ	52	27	3	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P379	Ⅲ	55	38	16	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 下部に7層土, 1cm大ブロック含む	
P380	Ⅲ	54	36	13	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 下部に7層土, 1cm大ブロック含む	
P381	Ⅲ	25	29	24	10YR5/2 灰黄褐色, シルト, 砂質シルト	
P382	Ⅲ	46	20	37	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P383	Ⅲ	35	27	6	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P394	Ⅲ	28	27	28	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P395	Ⅲ	35	32	25	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P397	Ⅲ	37	30	22	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P398	Ⅲ	32	20	14	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P405	Ⅲ	28	21	8	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P406	Ⅲ	28	19	8	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P407	Ⅲ	58	21	19	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P408	Ⅲ	28	15	11	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P409	Ⅲ	19	8	10	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P410	Ⅲ	29	30	7	10YR5/2 灰黄褐色, シルト	
P411	Ⅲ	48	36	19	10YR4/2 灰黄褐色, シルト, 7・8層土の混土, 少し砂っぽい	
P417	Ⅲ	28	22	6	7・6層混土	

Tab. 12 遺構リスト (9)

遺構名	検出遺構面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
P418	Ⅲ	31	19	6	7・6層混土	
P419	Ⅲ	44	37	6	7・6層混土	
P420	Ⅲ	29	22	4	7・6層混土	
P421	Ⅲ	29	28	7	7・6層混土	
P422	Ⅲ	21	21	5	7・6層混土	
P423	Ⅲ	34	26	5	7・6層混土	
P424	Ⅲ	29	20	7	7・6層混土	
P425	Ⅲ	30	20	6	7・6層混土	
P426	Ⅲ	25	23	4	7・6層混土	
P427	Ⅲ	23	17	3	7・6層混土	
P428	Ⅲ	22	17	5	7・6層混土	
P429	Ⅲ	25	18	5	7・6層混土	
P430	Ⅲ	29	18	8	7・6層混土	
P431	Ⅲ	32	15	3	7・6層混土	
P432	Ⅲ	30	25	7	7・6層混土	
P433	Ⅲ	31	17	6	7・6層混土	
P434	Ⅲ	30	17	5	7・6層混土	
P435	Ⅲ	30	18	7	7・6層混土	
P436	Ⅲ	30	15	8	7・6層混土	
P437	Ⅲ	30	26	8	7・6層混土	
P438	Ⅲ	20	18	8	7・6層混土	
P439	Ⅲ	36	19	8	7・6層混土	
P440	Ⅲ	26	17	7	7・6層混土	
P442	Ⅲ	46	26	20	7・6層混土	
P443	Ⅲ	28	15	14	7・6層混土	
P444	Ⅲ	29	18	4	7・6層混土	
P445	Ⅲ	43	25	24	7・6層混土	
P447	Ⅲ	32	22	9	7・6層混土	
P448	Ⅲ	16	16	9	7・6層混土	
P449	Ⅲ	30	23	6	7・6層混土	
P450	Ⅲ	23	14	7	7・6層混土	
P451	Ⅲ	58	20	8	7・6層混土	
P452	Ⅲ	29	19	10	7・6層混土	
P453	Ⅲ	22	14	5	7・6層混土	
P454	Ⅲ	26	15	4	7・6層混土	
P455	Ⅲ	16	19	6	7・6層混土	
P456	Ⅲ	18	20	2	7・6層混土	
P457	Ⅲ	30	27	4	7・6層混土	
P458	Ⅲ	35	29	11	7・6層混土	
P459	Ⅲ	31	17	11	7・6層混土	
Ps2	Ⅲ	21	30	4	10YR6/1 褐灰色	シルト
Ps5	Ⅲ	21	25	8	10YR6/1 褐灰色	シルト
Ps6	Ⅲ	17	28	11	10YR6/1 褐灰色	シルト
Pe1	Ⅲ	23	23	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
Pe2	Ⅲ	18	13	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト
Pe4	Ⅲ	20	19	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト
Pe5	Ⅲ	24	17	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
Pe6	Ⅲ	18	19	10	10YR3/3 暗褐色	シルト
Pe7	Ⅲ	19	8+	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト
Pe8	Ⅲ	17	13	9	10YR4/4 褐色	シルト
Pe9	Ⅲ	20	16	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト
Pe10	Ⅲ	22	15	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト

Tab. 13 遺構リスト (10)

遺構名	検出遺構面	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
Pe11	Ⅲ	16	17	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
Pe12	Ⅲ	18	13	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
Pe13	Ⅲ	19	13	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト
Pe14	Ⅲ	20	20	33	10YR3/3 暗褐色	シルト
Pe15	Ⅲ	27	19+	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
Pe16	Ⅲ	20	22	18	10YR4/2 灰黄褐色	シルト
Pe17	Ⅲ	24	9+	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
Pe18	Ⅲ	23	15	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト
Pe19	Ⅲ	25	35	27	10YR3/3 暗褐色	シルト
Pe20	Ⅲ	17+	23	18	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
Pe21	Ⅲ	18	17	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
Pe22	Ⅲ	15	12	13	10YR4/2 灰黄褐色	シルト
Pe23	Ⅲ	34	17	34	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
Pe25	Ⅲ	29	25	18	10YR4/2 灰黄褐色	シルト
Pe26	Ⅲ	25	18	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
Pe27	Ⅲ	31	29	27	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
Pe28	Ⅲ	22	15	28	10YR4/2 灰黄褐色	シルト
Pe29	Ⅲ	25	10	9	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト
Pe30	Ⅲ	20	11	16	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト
Pe31	Ⅲ	23	19	25	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト
Pe32	Ⅲ	41	21	8	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト
Pe33	Ⅲ	26	17	10	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト
Pe34	Ⅲ	46	30	22	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト
Pe35	Ⅲ	55	37	19	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト
Pe36	Ⅲ	31	23	15	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト
Pe37	Ⅲ	43	31	15	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト
Pe38	Ⅲ	32	26	18	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト
Pe39	Ⅲ	43	32	15	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト
Pe40	Ⅲ	36	28	10	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト 1~5センチ大の7層土のブロックを含む
Pe41	Ⅲ	48	48	19	10YR5/2 灰黄褐色,	砂混じりシルト 鉄分浸透 1cm大の軽石を含む
Pe42	Ⅲ	83	44	16	10YR5/2 灰黄褐色,	シルト

Tab. 14 遺物観察表(1) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考	
									混和材の大きさ	混入具合		
									混和材の種類	きめ		
1	1		弥生 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	上面：にぶい黄橙色 10YR6/3. 外：灰黄褐色 10YR4/2. 内：にぶい黄褐 色 10YR5/4	外・上面：ヨコナデ. 内： ユビオサエ・ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白色粒, 軽石, 石英	15%	入来Ⅱ式	
2	1		弥生 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR7/4 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	ヨコナデ	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 石英, 雲母	15%	入来Ⅱ式	
3	1		弥生 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外：橙色 5YR6/6. 内：橙 色 5YR6/6	外：縦方向のハケ後口 唇部と突帯上部はヨコ ナデ. 内：ヨコ方向の ハケ後ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 軽石 (4mm 大), 石英	15%		
4			弥生 土器	壺	底部	1/5		外：ナデ. 内：摩滅の ため不明.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 黒色粒, 軽石, 角閃石, 石 英	25%		
5	1		古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR6/4. 内：にぶい橙色 7.5YR7/4		礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 軽石, 角閃石, 石英	25%		
6	1		古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外：浅黄橙色 10YR8/4. 灰白色 10YR8/2. 内：灰 白色 10YR8/2. 浅黄橙色 7.5YR8/4	外：縦方向の太めのハ ケ後ナデ. 刻み目：布 目圧痕. 内：ヨコ方向 の太めのハケ後ナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白色粒, 角閃石, 石英	25%		
7	1		古墳 土器	甕	口縁 部付 近	1/6 以下	外：にぶい褐色 7.5YR5/4. 内：にぶい橙色 7.5YR7/3	外：ハケ後ナデ. 突帯： ユビツマミ. 内：ヨコ 方向のハケ後ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	30%		
8	1		古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR7/3. 内：にぶい褐色 7.5YR5/4. 器肉：灰色 5Y4/1	ナデ?	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白色粒, 軽石, 石英	20%	摩滅して いる.	
9	1		古墳 土器	壺	底部	1/4	外：橙色 7.5YR6/6. 内： 橙色 7.5YR6/6. 器肉：灰 色 5Y5/1	ナデ?	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白色粒, 軽石, 角閃石, 石英	10%	摩滅して いる.	
10	1		古墳 土器	高杯	脚部	1	外顔料：褐色 7.5YR4/4. 外： にぶい黄橙色 10YR7/3 内： にぶい黄橙色 10YR7/2	外：赤色顔料塗布後ミ ガキ? 杯部内：ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒, 微砂粒 赤・白・黒色粒	7%	摩滅して いる.	
11	1		古墳 土器	高杯	脚部	1/6 以下	外：赤褐色 2.5YR4/6. 内： 灰黄色 2.5Y6/2. 器肉外側： 黄灰色 2.5Y6/1	外：赤色顔料塗布後ミ ガキ? 脚部内：ナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・黒色粒, 石英	7%	摩滅して いる.	
12	1		須恵 器	甕	口縁 部	1/6 以下	外：黄灰色 2.5Y6/1. 内： 黄灰色 2.5Y6/1	外：ヨコハケ. 口縁部・ 内：回転ナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒, 微 砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	3%	きめ細かい	
13	1		須恵 器	高杯	脚部	1	外：灰白色 5Y7/1. にぶい 黄褐色 10YR4/3. 内：黄 灰色 2.5Y6/1	回転ナデ.	砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 角閃石	1%		
14	1		土師 器	椀	口縁 部	1/6 以下	外上部：黒褐色 2.5Y3/1. 外下部：灰白色 10YR8/2. 内：黒褐色 2.5Y3/1	外：丁寧なナデ. 内： ミガキ.	細砂粒, 微砂粒 赤・白色粒	2%	きめ細かい	
15	1		土師 器	椀	底部	1/2	外：浅黄橙色 10YR8/4. 内： 浅黄橙色 10YR8/3	外：回転ナデ. 高台部 接合痕明瞭. 全体に摩 滅.	砂粒, 細砂粒, 微砂粒 赤・黒色粒	3%	きめ細かい	
16	1		土師 器	椀	底部	3/5	外：にぶい橙色 7.5YR7/4. 内：浅黄橙色 10YR8/3	回転ナデ.	砂粒, 細砂粒, 微砂粒 赤・白・黒色粒	3%	摩滅して いる. きめ細かい	
17	1		土師 器	椀	底部	1/3	外：にぶい橙色 7.5YR7/4. 内：浅黄橙色 7.5YR8/4	回転ナデ?	砂粒, 細砂粒, 微砂粒 赤・白・黒色粒	3%	摩滅して いる. きめ細かい	
18	1		土師 器	椀	底部	1/2	外：浅黄橙色 10YR8/3. 内： 浅黄橙色 10YR8/3	高台内：回転ナデ. 全 体に摩滅.	砂粒, 細砂粒, 微砂粒 赤・白・黒色粒, 軽石	3%	きめ細かい	
19	1		土師 器	杯	底部	1	外：にぶい黄橙色 10YR7/2. 内：浅黄橙色 10YR8/3. 底：にぶい黄褐 色 10YR5/4	底面：回転へう割り. 全体に摩滅.	砂粒, 細砂粒, 微砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	3%	きめ細かい	
20	1		土師 器	杯	底部	1/2	外：浅黄橙色 10YR8/3. 内： 灰白色 2.5Y8/2	ナデ?	細砂粒, 微砂粒 赤・白・黒色粒	3%	摩滅して いる. きめ細かい	

Tab. 15 遺物観察表 (2) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考		
									混和材の大きさ	混入具合			
									混和材の種類	きめ			
21	1		土師器	杯	底部	3/5	外：淡黄色 2.5Y8/3. 底：10YR4/4 褐色. 内：淡黄色 2.5Y8/3	底面：回転ヘラ削り. 全体に摩滅.	細砂粒, 微砂粒	1%	赤・白色粒, 軽石	きめ細かい	
22	1		磁器	貯金箱	口縁部	1/4	外：灰白色 10YR8/2. 内：黄褐色 10YR5/8 (釉)	回転ナデ.	細砂粒, 微砂粒	1%	白色粒	きめ細かい	
23	1		磁器	貯金箱	底部	1/2	外：灰白色 2.5Y8/2. 内：浅黄橙色 10YR8/4	回転ナデ. 底面：回転糸切り.	礫, 細砂粒, 微砂粒	1%	白・黒色粒	きめ細かい	
24	1		土師器	杯	底部	1	外：にぶい黄橙色 10YR7/3. 内：にぶい黄橙色 10YR7/4	外・内：回転ナデ. 底面：回転糸切り.	細砂粒, 微砂粒	1%	黒色粒		
25	1		瓦器	火鉢	口縁部	1/6以下	外：赤褐色 2.5YR4/6. 内：にぶい褐色 5/4	回転ナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	5%	赤・白・黒色粒		
26	1		陶器	鉢	口縁部	1/6以下	外：灰白色 10YR8/1 (釉). 内：暗褐色 10YR3/4 (釉). 器肉：にぶい赤褐色 2.5YR4/4	回転ナデ. 外・内：施釉. 口縁部上面：釉ふきとり	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	5%	白・黒色粒		
27	1		陶器	挿鉢	口縁部	1/6以下	上面：赤褐色 2.5YR4/6. 外：赤灰色 2.5YR4/1 (釉). 器肉：赤灰色 2.5YR4/1 (釉). 器肉：明赤褐色 2.5YR5/8	回転ナデ. 外・内：施釉. 口縁部上面：釉ふきとり	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	7%	白・黒色粒, 軽石		
28	1		陶器	鉢	口縁部	1/6以下	外：褐色 7.5YR4/3 (釉). 内：褐色 7.5YR4/3 (釉)	施釉	細砂粒, 微砂粒	7%	白色粒	きめ細かい	
29	1		陶器?	碗		1/3	外：暗オリーブ 5Y4/4 (釉). 内：灰オリーブ 5Y6/2 (釉). 器肉：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：施釉. 内：蛇の目釉ハギ. 高台畳付け部～内面：無釉. 回転ナデ.	細砂粒, 微砂粒	1%	白・黒色粒, 石英	きめ細かい	青磁? 中国?
30	1		陶器	皿	底部	1/2	外：灰オリーブ 5Y5/2 (釉). 内：灰オリーブ 5Y5/2 (釉). 器肉：にぶい橙色 7.5YR7/4	外：施釉. 高台より上～高台内面：無釉. 回転ナデ. 内面：施釉. 回転ナデ.	礫, 砂粒, 細砂粒	1%	黒色粒, 礫		肥前焼.
31	1		陶器	鉢		1/4	外：暗オリーブ 5Y4/3 (釉). 内：黒褐色 7.5YR3/2 (釉). 器肉：にぶい黄褐色 10YR5/3	施釉	細砂粒, 微砂粒	1%	白色粒, 石英	きめ細かい	
32	1		陶器			1/6以下	外：暗褐色 10YR3/3 (釉). 内：暗赤褐色 2.5YR3/6 (釉). 器肉：にぶい赤褐色 2.5YR5/4	回転ナデ. 外・内：施釉. 口縁部内面：釉ふきとり	微砂粒	3%	白色粒	きめ細かい	
33	1		陶器	貯金箱			外：灰白色 10YR8/2. 内：浅黄橙色 10YR8/4 (釉)	回転ナデ. 外：無釉. 内：施釉.	微砂粒	3%	白色粒	きめ細かい	
34	1		陶器	土瓶		1/3	外：暗褐色 2.5YR3/3. 黒褐色 10YR2/2 (釉). 内：暗褐色 10YR3/3 (釉). 器肉：赤褐色 2.5YR4/6	回転ナデ. 外上部：施釉. 外下部：無釉. 内：施釉.	細砂粒, 微砂粒	7%	白色粒	きめ細かい	
35	1		陶器	小壺		1/6	外：極暗赤褐色 5YR2/4 (釉). 灰褐色 4/2. 内：にぶい赤褐色 5YR4/4	回転ナデ. 外上部：施釉. 外下部：無釉. 内：施釉.	細砂粒, 微砂粒	7%	白・黒色粒	きめ細かい	
36	1		陶器	土鍋		1/3	外：赤褐色 5YR4/6. 内：暗赤褐色 3/4 (釉)	回転ナデ. 外上部：施釉. 外下部：無釉. 内：無釉.	微砂粒	1%	白色粒	きめ細かい	
37	1		陶器	硫酸瓶蓋		1/3	上面：黒褐色 10YR3/2 (釉). 外：浅黄橙色 10YR8/3. 器肉：にぶい赤褐色 2.5YR5/4	上面：施釉. 他：無釉. 型作り.	微砂粒	2%	白・黒色粒	きめ細かい	
38	1		磁器	皿	口縁部～胴部		外：呉須による施文. 内：白	施釉.	微砂粒	1%	白色粒	きめ細かい	
39	1		磁器	小碗	口縁部～胴部	1/6	外：呉須による施文. 内：呉須による施文	施釉.	微砂粒	1%	白・黒色粒	きめ細かい	

Tab. 16 遺物観察表 (3) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考
									混和材の大きさ	混入具合	
									混和材の種類	きめ	
40	1		磁器	小碗	胴部 ～底部	1	外：呉須による施文。内： 白	施釉。 畳付け部のみ無 釉。	微砂粒 白・黒色粒	1% きめ細かい	
41	1		磁器	小碗	底部	1/2	外：呉須による施文。内： 白	施釉。 畳付け部のみ無 釉。	微砂粒 黒色粒	1% きめ細かい	
42	1		磁器	コー ヒー カップ	完形	1/2	外：白。内：白	施釉。 畳付け部のみ無 釉。	微砂粒 黒色粒	1% きめ細かい	
43	1		土製 品	土鉢	完形	1	外：赤褐色 5YR4/8	ナデ。	粗砂粒，砂粒，細砂粒 白・黒色粒	15%	
44	1		土製 品	土鉢	完形	1	外：灰褐色 5/2	ナデ	砂粒，細砂粒 白・黒色粒	10%	
45	1		土製 品	人形	頭部	1	外：橙色 5YR7/6。内：橙 色 5YR7/6。ほほ：明赤褐 色 2.5YR5/6	型作り	微砂粒 赤・黒色粒	1% きめ細かい	
46	1		土製 品	人形	頭部	1/2	外：灰白色 10YR8/1。内： 白色 10YR8/1	外：型押し後ナデ。内： ユビオサエ。	微砂粒	0% きめ細かい	
47	1		ガラ ス	薬瓶	完形	1	青色 7.5PB 4/26 類似。透 明。	—			
48	1		ガラ ス	薬瓶	完形	1	青色 7.5PB4/13 類似。透 明。	—			
49	1		ガラ ス	化粧 瓶	完形	1	白色。不透明。	—			
50	1		ブラ ス チック	椀	口縁 部～ 胴部		外：灰白色 5Y8/2。内：灰 白色 5Y8/2				
51	3		弥生 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外：にぶい黄橙色 10YR6/4。内：黄褐色 10YR5/6。器肉：灰オリ ーブ色 7.5Y4/2	外：ヨコナデ。上面・内： 摩滅のため不明。	粗砂粒，砂粒，細砂粒 白・黒色粒，軽石，石英	15%	入来Ⅱ式
52	3	1	弥生 土器	甕	脚部	1	外：橙色 5YR6/6。底：橙 色 5YR6/6。内：オリ ーブ黒色 7.5Y3/1	外・内：ナデ？ 底面： 回転ナデ。	粗砂粒，砂粒，細砂粒 白・黒色粒，石英	20%	
53	3		古墳 土器	甕	底部 付近	1/3	外：明褐色 7.5YR5/8。底： 橙色 7.5YR6/6。内：にぶ い黄褐色 10YR4/3	ナデ？	粗砂粒，砂粒，細砂粒 赤，白，黒色粒，石英	20%	摩滅して いる。
54	3	4	古墳 土器	高杯	杯部	1/6 以下	外顔料：赤褐色 5YR4/8。外： 橙色 5YR6/6。内：浅黄橙 色 10YR8/3。器肉：暗灰 色 N3/0	外：赤色顔料塗布後ヨ コ方向のミガキ。内： ナデ。	粗砂粒，細砂粒 黒色粒	5%	
55	3		土師 器	杯	口縁 部	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR7/4。 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	回転ナデ。	微砂粒 白・黒色粒，石英	10% きめ細かい	
56	3		土師 器	椀	底部 付近	1/3	外：にぶい黄橙色 10YR7/4。内：にぶい黄橙 色 10YR7/4	回転ナデ。	砂粒，細砂粒，微砂粒 白・黒色粒，石英	7% きめ細かい	
57	3		土師 器	椀	高台	1/6 以下	外：褐色 10YR4/4。内：に ぶい黄褐色 10YR7/3	回転ナデ。	砂粒，細砂粒 赤・白・黒色粒		
58	3	9	素焼 土器	鉢？	口縁 部	1/6 以下	外：淡黄色 2.5Y8/3。内： 淡黄色 2.5Y8/3	外：ヨコ方向のナデ。 口唇部：ヨコナデ。内： 剥落。	礫，細砂粒，微砂粒 赤・白・黒色粒，石英	7% きめ細かい	
59	3	8	須恵 器	杯？	口縁 部	1/6 以下	外：灰色 5Y6/1。内：灰 色 5Y6/1	回転ナデ。	細砂粒，微砂粒 白・黒色粒，石英	5% きめ細かい	
60	3		青磁	碗	胴部	1/6 以下	外：灰オリーブ色 7.5Y6/2 (釉)。内：灰オリーブ色 7.5Y6/2 (釉)。器肉：灰色 7.5Y6/1	施釉	細砂粒，微砂粒 白・黒色粒	3% きめ細かい	

Tab. 17 遺物観察表(4) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考
									混和材の大きさ	混入具合	
									混和材の種類	きめ	
61	3		磁器	皿?	底部	1/3	外:灰白色 7.5Y7/1, 高台: 回転ナデ, 外:施釉, 黄褐色 10YR5/8, 内:に 高台置付け部~内:無 ぶい黄色 2.5Y6/3, 器肉: 釉, 内上部:施釉, 灰白色 2.5Y7/1		細砂粒, 微砂粒 白・黒色粒	3% きめ細かい	
62	3	6	瓦器	搦鉢	胴部	1/6 以下	外:灰色 N4/0, 内:灰 色 N4/0, 器肉:灰黄色 2.5Y7/2		砂粒, 細砂粒, 微砂粒 赤・白・黒色粒	3% きめ細かい	
64	4	47	弥生 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:明褐色 7.5YR5/6, 内:ヨコナデ, 明褐色 7.5YR5/6		礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 角閃石, 石英	10%	
65	4		弥生 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:浅黄橙色 10YR8/3, 内:ナデ? 浅黄橙色 10YR8/3, 器肉: オリーブ黒 5Y3/1		礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 角閃石, 石英, 長石	25%	摩滅して いる。
66	4	67	弥生 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:浅黄橙色 10YR8/3, 内:外:ヨコナデ, 内:ナデ, 浅黄橙色 10YR8/3		礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	15%	
67	4	52	弥生 土器	壺	口縁 部	1/6 以下	外:にぶい橙色 7.5YR6/4, ヨコナデ, 内:にぶい橙色 7.5YR7/3 黒斑あり		粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	10%	
68	5		古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:にぶい黄褐色 10YR5/4, 内:灰白色 7.5YR8/2	外・内:ナデ, 口唇部: ヨコナデ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・黒色粒, 角閃石, 石英	30%	
69	4		古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:にぶい黄褐色 10YR6/3, 内:外:にぶい 黄褐色 10YR7/4	外:ヨコナデ, 内:ヨ コ方向のハケ,	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 石英	10%	
70	4		古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:灰黄褐色 10YR6/2, 内:ナデ, 浅黄褐色 YR8/3		礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 軽石, 石 英	10%	
71	4		古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:灰黄褐色 10YR5/2, 内:ナデ, 浅黄褐色 10YR8/3		礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 軽石, 石英	10%	
72	4	37	古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:灰黄褐色 10YR5/2, 内:外:ナデ, 内:ハケ後 橙色 7.5YR6/6, 器肉:灰 色 5 Y 5/1	ナデ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 角閃石, 石英	15%	
73	4	58	古墳 土器	甕	口縁 部付 近	1/6 以下	外:にぶい黄褐色 10YR7/2, 内:褐灰色 10YR6/1	外:ヨコナデ, 内:ヨ コ方向のハケ後ナデ,	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 石英	15%	
74	4		古墳 土器	甕	口縁 部付 近	1/6 以下	外:にぶい橙色 7.5YR6/4, 内:浅黄褐色 10YR8/3	外:ヨコナデ, 内:ナデ,	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	15%	
75	4		古墳 土器	甕	口縁 部付 近	1/6 以下	外:にぶい橙色 7.5YR6/4, 内:にぶい橙色 5YR6/4	外:縦方向のハケ後ナ デ, 内:ナデ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒・軽石・角閃石・ 石英	15%	
76	4		古墳 土器	甕	口縁 部付 近	1/6 以下	外:にぶい橙色 10YR6/4, 内:灰白色 10YR8/2, 器肉: 灰白色 .5Y7/1	ナデ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	15%	
77	4		古墳 土器	甕	口縁 部付 近	1/6 以下	外:灰黄褐色 10YR5/2, 内:にぶい橙色 7.5YR7/3	外:ヨコ方向のナデ, 内:ナデ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 軽石, 石 英	15%	
78	4		古墳 土器	甕	底部 付近	1	外:灰白色 2.5Y8/2, 内: 灰白色 2.5Y8/2, 器肉:灰 色 .5Y5/1	外:縦方向の 1cm 幅 の鋭利なケズリ痕後ナ デ, 内:脚台内面:放 射状方向の 1.5cm 幅 の鋭利なケズリ痕後ナ デ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 角閃石, 石英	20%	
79	4		古墳 土器	甕	脚部	1/6 以下	外:灰白色 10YR8/2, 内: にぶい橙色 7.5YR7/4	ナデ,	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 角閃石, 石英	15%	
80	4		古墳 土器	甕	脚部	1/6 以下	外:灰白色 10YR8/1, 内: 灰白色 10YR8/2	外:ハケ後ナデ, 内: ナデ,	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	20%	

Tab. 18 遺物観察表 (5) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考	
									混和材の大きさ	混入具合		
									混和材の種類	きめ		
81	4	512	古墳 土器	甕か 鉢	口縁 部	1/6 以下	外：灰色 5Y5/1. 内：外： にぶい黄橙色 10YR7/2	ヨコハケ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%	白・黒色粒, 石英	
82	4		古墳 土器	甕か 鉢	脚部	1/6 以下	外：浅黄橙色 10YR8/3. 内： にぶい黄橙色 10YR7/2	ヨコ方向のナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%	白・黒色粒, 石英	
83	4		弥生 土器	壺	肩部	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR6/4. 内：にぶい褐色 7.5YR5/4	外：ヨコナデ. 内：ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%	赤・白・黒色粒, 石英	
84	4		弥生 土器	壺	胴部	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR7/4. 内：橙色 7.5YR6/6	外：ヨコナデ. 内：摩 滅のため不明.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%	赤・白・黒色粒, 角閃石, 石英	
85	4		古墳 土器?	壺	胴部	1/6 以下	外：褐灰色 10YR4/1. 内： にぶい黄橙色 10YR7/3. 器 肉：灰色 .5Y5/1	外：ナデ. 刻み目：へ ラ状工具. 内：ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	5%	赤・白・黒色粒, 角閃石, 石英	
86	4		古墳 土器?	壺	胴部	1/6 以下	外：褐灰色 10YR4/1. 内： にぶい黄橙色 10YR7/2. 器 肉：灰色 .5Y5/1	外：ヨコナデ. 内：ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%	赤・白・黒色粒, 軽石, 石 英	
87	4		古墳 土器	壺	胴部	1/6 以下	外：明褐色 7.5YR5/6. 内： にぶい黄橙色 10YR6/4	外：ナデ. 内：摩滅の ため不明.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%	赤・白・黒色粒, 石英	
88	4		古墳 土器	壺	底部	1/6 以下	外：灰白色 10YR8/2. 内： 灰白色 10YR8/2. 器肉：灰 色 5Y6/1	ナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%	赤・白・黒色粒, 角閃石, 石英	
89	4	55	古墳 土器	高杯	口縁 部	1/6 以下	外：浅黄橙色 10YR8/3. 内： 灰白色 10YR8/2	ヨコ方向のハケ後ナ デ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒, 微 砂粒	15%	赤・白・黒色粒, 石英	きめ細かい
90	4	62	古墳 土器	高杯	口縁 部	1/6 以下	外：浅黄橙色 7.5YR8/4. 内： 灰白色 10YR8/1. 赤色顔 料：赤褐色 2.5YR4/6	外・内：赤色顔料塗布 後ミガキ.	砂粒, 細砂粒, 微砂粒	5%	赤・黒色粒	きめ細かい
91	4		古墳 土器	高杯	杯部	1/6 以下	外：浅黄橙色 7.5YR8/4. 内： 灰白色 10YR8/1. 赤色顔 料：赤褐色 2.5YR4/6. 器肉： 黄灰色 . 2.5Y6/1	外：赤色顔料塗布後ミ ガキ. 内：ナデ.	砂粒, 細砂粒, 微砂粒	1%	黒色粒	きめ細かい
92	4		古墳 土器	高杯	杯部	1/4	外：にぶい黄橙色 10YR7/4. 内：灰白色 10YR8/2. 赤色顔料：赤褐 色 2.5YR4/6. 器肉：黄灰 色 . 2.5Y6/1	外：赤色顔料塗布後ミ ガキ. 内：ナデ.	細砂粒, 微砂粒	5%	白・黒色粒, 石英	きめ細かい
93	4	5	古墳 土器	高杯	脚部	1/4	外：にぶい黄橙色 7.5YR7/4. 内：灰白色 10YR8/1. 赤色顔料：にぶ い赤褐色 5YR5/4. 器肉： 黄灰色 . 2.5Y6/1	外：赤色顔料塗布後ミ ガキ. 内：ナデ, 絞り 痕有り.	細砂粒, 微砂粒	1%	黒色粒	きめ細かい
94	4	63	古墳 土器	高杯	脚部	1/6 以下	外：にぶい黄橙色 7.5YR7/4. 内：にぶい橙色 7.5YR7/4. 赤色顔料：明赤 褐色 2.5YR5/6. 器肉：黄 灰色 . 2.5Y6/1	外：赤色顔料塗布後ミ ガキ. 内：ナデ.	砂粒, 細砂粒, 微砂粒	1%	白・黒色粒, 石英	きめ細かい
95	4		古墳 土器	高杯	脚部	1/6 以下	外：浅黄橙色 7.5YR8/3. 内： 黄灰色 2.5Y5/1. 赤色顔料： 赤褐色 2.5YR4/6. 器肉： 黄灰色 . 2.5Y5/1	外：赤色顔料塗布後ミ ガキ. 内：ナデ.	細砂粒, 微砂粒	1%	白・黒色粒, 石英	きめ細かい
96	4		古墳 土器	埴	底部	1/3	外：灰白色 10YR8/2. 内： 灰白色 10YR8/2	摩滅しているため不明 だが、外面に赤色顔料 残存.	細砂粒, 微砂粒	3%	赤・黒色粒	きめ細かい
97	4	28	古墳 土器	埴	肩部	1/6 以下	外：灰白色 10YR8/2. 内： 灰白色 10YR7/1. 赤色顔 料：赤褐色 2.5YR4/6	外：赤色顔料塗布後ミ ガキ? 内：ナデ.	砂粒, 細砂粒, 微砂粒	3%	白・黒色粒	きめ細かい
98	4	61	古墳 土器	埴	頸部	1/4	外：灰白色 10YR8/2. 内： 灰白色 10YR7/1. 赤色顔 料：赤褐色 2.5YR4/6	外：赤色顔料塗布後ミ ガキ? 内：ナデ.	砂粒, 細砂粒, 微砂粒	3%	赤・白・黒色粒	きめ細かい

Tab. 19 遺物観察表 (6) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考
									混和材の大きさ	混入具合	
									混和材の種類	きめ	
99	4	64	古墳 土器	埴	底部	1/4	外：褐灰色 10YR5/1, 内： 褐灰色 10YR4/1, 赤色顔 料：にぶい赤褐色 2.5YR4/3	外：赤色顔料塗布後ミ ガキ? 内・底面：ナ デ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 軽石, 石英	3% きめ細かい	
100	4	524	古墳 土器	埴	底部	1/4	外：にぶい黄褐色 10YR7/3, 内：にぶい黄橙 色 10YR6/3, 赤色顔料：に ぶい赤褐色 5YR4/4, 底面： 黄灰色, 2.5Y4/1	外：赤色顔料塗布後ミ ガキ? 内・底面：ナ デ,	礫, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 軽石, 石英	5%	
101	4	513	土師 器	杯	底部	1/2	外：灰白色 10YR8/2, 内： 灰白色 10YR8/2	外・内：回転ナデ, 底 面：回転ヘラ切り,	礫, 砂粒, 細砂粒, 微砂粒 赤色粒, 石英	3% きめ細かい	
102	4	33	土師 器	杯	底部	1/3	外：浅黄橙色 10YR8/3, 内： 浅黄橙色 10YR8/3	外・内：回転ナデ, 底 面：ヘラ切り,	細砂粒, 微砂粒 赤・白・黒色粒	3% きめ細かい	
103	4		土師 器	杯	底部	1/6	外：浅黄橙色 10YR8/3, 内： 浅黄橙色 10YR8/3	ナデ?	細砂粒, 微砂粒 赤・黒色粒	3% きめ細かい	摩滅して いる。
104	4		土師 器	杯?	口縁 部	1/6 以下	外：浅黄橙色 10YR8/3, 内： 浅黄橙色 10YR8/3	回転ナデ,	細砂粒, 微砂粒 赤・黒色粒	1% きめ細かい	摩滅して いる。
105	4		土師 器	杯?	口縁 部	1/6 以下	外：浅黄橙色 10YR8/3, 内： 浅黄橙色 10YR8/3	回転ナデ,	細砂粒, 微砂粒 赤・黒色粒	1% きめ細かい	摩滅して いる。
106	4	22	土師 器	椀	底部	1	外：橙色 5YR7/6, 内：橙 色 5YR7/6	回転ナデ?	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒, 微 砂粒 白・黒色粒	1% きめ細かい	摩滅して いる。
107	4		土師 器	椀	底部	1/5	外：浅黄橙色 10YR8/4, 内： 黄褐色 10YR5/6	回転ナデ? 外：赤色 顔料塗布	細砂粒, 微砂粒 白・黒色粒	1% きめ細かい	
108	4		土師 器	椀	底部	3/5	外：灰白色 10YR8/2, 高台 端部：にぶい橙色 5YR6/4, 赤色顔料塗布 内：灰白色 10YR8/2, 内 面着色あり 5YR6/4	回転ナデ? 外・内： 赤色顔料塗布	細砂粒, 微砂粒 赤・黒色粒	1% きめ細かい	摩滅して いる。
109	4		土師 器	杯	底部	1/6 以下	外：浅黄橙色 10YR8/3, 内： 浅黄橙色 10YR8/3	ナデ?	細砂粒, 微砂粒 白・黒色粒	1% きめ細かい	摩滅して いる。
110	4		土師 器	蓋	端部		外：浅黄橙色 10YR8/3, 内： 浅黄橙色 10YR8/3	回転ナデ?	細砂粒, 微砂粒 赤・黒色粒	1% きめ細かい	摩滅して いる。
111	4		磁器		高台	1/6 以下	外：灰白色 7.5Y8/1 (釉), 内：灰白色 7.5Y8/1 (釉), 器肉：灰白色 2.5Y8/2	外・内：施釉 高台内 面・畳付け部：無釉	細砂粒, 微砂粒 白色粒	1% きめ細かい	
115	7u		古墳 土器	甕	口縁 部		外：明褐色 7.5YR5/8, 内： 橙色 7.5YR6/6	ナデ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 角閃石, 石英	15%	
116	7u		古墳 土器	甕	口縁 部付 近		外：にぶい黄褐色 10YR5/4, 内：橙色 7.5YR6/6	ナデ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白色粒, 角閃石, 石英, 雲母	10%	
117	7u		古墳 土器	埴?	口縁 部		外：橙色 5YR6/8, 内：橙 色 7.5YR7/6	ナデ,	砂粒, 細砂粒, 微砂粒 赤・白色粒	5% きめ細かい	
118	5u	507	弥生 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外：にぶい黄褐色 10YR6/4, 内：にぶい黄橙 色 10YR6/4	外：ヨコナデ, 内：ナデ,	砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 角閃石, 石英, 雲母	15%	
119	5	219	弥生 土器	台付 鉢	脚部	1/6 以下	外：にぶい黄褐色 10YR7/3, 内：にぶい橙 色 7.5YR7/4, 器肉：にぶい橙 色 5YR6/4	ヨコナデ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	15%	
120	5	414	弥生 土器	壺	口縁 部	1/3	外：橙色 5YR6/6, 内：に ぶい橙色 7.5YR7/3	外：ヨコ方向のナデ, 脚端部～内：ヨコナデ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	15%	
121	5	131	弥生 土器	壺	口縁 部	1/6 以下	外：橙色 5YR6/6, 内：に ぶい黄褐色 7.5YR6/6, 器 肉：灰色 N4/0	外：縦方向のナデ後ナ デ, 口唇部：ヨコナデ, 内：ナデ,	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英, 雲 母	15%	
122	5	105	古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外：にぶい黄褐色 10YR4/3, 内：にぶい橙 色 7.5YR7/4	外～脚端部：ヨコナデ, 内：ナデ,	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 雲母	20%	

Tab. 20 遺物観察表 (7) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考
									混和材の大きさ	混入具合	
									混和材の種類	きめ	
123	5	57	古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外：にぶい褐色 7.5YR5/4, 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	端部：ヨコナデ。外・内： ナデ。	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 石英	10%	
123	5	38	古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外：浅黄橙色 10YR8/3, 内： 灰白色 10YR8/2	ヨコ方向のナデ。口唇 部：ユビオサエ。	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・黒色粒, 角閃石, 石英	20%	
125	5	242	古墳 土器	甕	底部 付近	1/2	外：にぶい橙色 7.5YR7/4, 内：にぶい褐色 7.5YR6/3, 底面：にぶい褐色 7.5YR6/3	外：ヨコ方向のハケ後 ナデ。内：ナデ。脚台 内面：ナデ。	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒	20%	
126	5	218	古墳 土器	甕	底部 付近	2/3	外：にぶい黄橙色 10YR6/4, 内：黒褐色 10YR2/2, 底面：5YR6/6	外：ナデ。内：ハケ。 脚台天井部：ユビオサ エ。	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	20%	
127	5u	504	古墳 土器	甕	脚台	1/4	外：にぶい黄橙色 10YR7/2, 内：橙色 5YR6/6, 底面：黄灰色 2.5Y4/1	外～脚部内面：ヨコ ナデ。脚台天井部：ナ デ。	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 石英	20%	
128	5	295	古墳 土器	甕	脚台	1/6	外：浅黄橙色 10YR8/3, 内： にぶい橙色 7.5YR7/3	ナデ。	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒, 微 砂粒 白・黒色粒, 石英	15%	きめ細かい
129	5	161	古墳 土器	甕	脚台	1/5	外：にぶい橙色 7.5YR7/4, 内：にぶい黄褐色 10YR5/3	外・内：ヨコハケ。脚 端部：ヨコナデ。	砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	15%	
130	5	544・ 159	古墳 土器	甕	脚台	1/2	外：灰白色 10YR8/2, 内： にぶい黄褐色 10YR7/3	外：ヨコ方向のナデ。 内：ヨコ方向のハケ。 脚端部：ヨコナデ。	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 石英	10%	
131	5	170	古墳 土器	甕	脚台	1/4	外：浅黄橙色 10YR8/3, 内： にぶい黄褐色 10YR7/2	外：ヨコ方向のハケ後 ナデ。内：ナデ。	砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	15%	
132	5u	533	古墳 土器	壺	底部	1/4	外：にぶい黄褐色 10YR7/3, 内：灰白色 10YR8/2, 器肉：褐灰色 10YR6/1	ナデ。	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	20%	
133	5u	41	古墳 土器	壺	胴部 突帯		外：橙色 2.5YR6/6, 内： にぶい黄褐色 10YR7/3	ナデ。	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	15%	
134	5	94	古墳 土器	壺	胴部	1/6 以下	外：灰黄褐色 10YR6/2, 内： 浅黄褐色 10YR8/3, 器肉： 褐灰色 10YR6/1	外：ナデ。内：剥落。	砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	15%	
135	5u	18	古墳 土器	壺	胴部	1/6 以下	外：にぶい褐色 7.5YR5/3, 内：にぶい黄褐色 10YR5/4	外：ナデ。内：ハケ。	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒	10%	
136	5	71	古墳 土器	壺	胴部	1/6 以下	外上部：灰褐色 7.5YR5/2, 外下部：黒褐色 7.5YR3/1, 内：にぶい褐色 7.5YR7/4	ナデ。	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 角閃石, 石英	25%	
137	5u	505	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：黄灰色 2.5Y5/1, 内： 灰黄色 2.5Y6/2	ハケ後ナデ。	礫, 砂粒, 細砂粒, 微砂粒 赤・黒色粒, 石英	5%	
138	5u		古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外上部：暗灰黄色 2.5Y5/2, 外下部：黒褐色 2.5Y3/1, 内：黒褐色 2.5Y4/1	外：ヨコナデ。刻み目： ヘラ状工具。内：ナデ。	細砂粒, 微砂粒 白・黒色粒, 石英	5%	
139	5	301	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：浅黄褐色 10YR8/3, 内： にぶい黄褐色 10YR7/4, 器 肉：灰色 N4/0	外：縦方向のハケ後ナ デ。内：ナデ。	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・黒色粒, 角閃石, 石英	20%	
140	5	104	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい褐色 10YR6/3, 内：浅黄褐色 10YR8/3	ナデ。	砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 雲母	15%	
141	5	156	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい黄褐色 7.5YR7/4, 内：にぶい黄橙 色 10YR7/4, 器肉：灰色 5Y5/1	ハケ後ナデ。刻み目： ハケ工具	粗砂粒, 砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	20%	
142	5		古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：灰黄褐色 10YR5/2, 内： にぶい褐色 7.5YR7/3, 器 肉：灰色 5Y6/1	外：ハケ後ナデ。内： ナデ。	砂粒, 細砂粒, 微細粒 白・黒色粒	7%	
143	5	434	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下		外：ハケ。内：ハケ後 ナデ。刻み目：ハケ状 工具による。	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	15%	

Tab. 21 遺物観察表 (8) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考
									混和材の大きさ	混入具合	
									混和材の種類	きめ	
144	5	411	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：暗灰色 N3/0、にぶい 黄橙色 10YR7/2、内：浅 黄橙色 10YR8/3	外：ヨコ方向のナデ。 内：ナデ。刻み目：小 巻貝による？	粗砂粒，砂粒，細砂粒 赤・黒色粒，石英	15%	
145	5		古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：灰黄色 2.5YR7/2、内： 黄灰色 2.5Y4/1、器肉：灰 色 5Y6/1	外：ナデ。刻み目：へ ら状工具。内：摩滅の ため不明。	礫 赤・白色粒	10%	
146	5u		古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい褐色 7.5YR5/3、 内：にぶい黄橙色 10YR7/3	外：ハケ後ナデ。内： ナデ。	粗砂粒 白・黒色粒，角閃石，石英	15%	
147	5	210	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい橙色 10YR6/3、 内：にぶい黄橙色 10YR7/4、器肉：灰色 5Y6/1	外・内：ナデ。刻み目： へら状工具による。	粗砂粒，砂粒，細砂粒 赤・白・黒色粒，角閃石， 石英	20%	
148	5	128	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外上部：黒褐色 10YR3/2、 外下部：にぶい黄橙色 10YR7/2、内：にぶい黄橙 色 10YR7/2	外面：鋭利なへら状工 具による調整。突帯部： ヨコナデ。刻み目：布 目圧痕。内面：ナデ。	粗砂粒，砂粒，細砂粒 赤・黒色粒，角閃石	20%	
149	5	103	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：橙色 7.5YR6/6、内： 浅黄橙色 10YR8/3	ナデ	礫，粗砂粒，砂粒，細砂粒 黒色粒，石英	15%	
150	5	65	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：暗褐色 10YR3/3、内： にぶい黄橙色 10YR7/3	外・内：ナデ。突帯部： ヨコナデ。	砂粒，細砂粒 赤・白・黒色粒，石英	10%	
151	5	85	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい黄橙色 10YR6/4、内：にぶい黄橙 色 10YR7/2	ナデ。	礫，砂粒，細砂粒 白・黒色粒	15%	
152	5	92	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR7/4、 内：浅黄橙色 10YR8/3、器 肉：灰色 5Y5/1	外：ハケ後ナデ。内： ナデ。	礫，砂粒，細砂粒 赤・白色粒，石英	7%	
153	5		古墳 土器	甕	胴部 突帯	1/6 以下	外上部：褐灰色 10YR4/1、 外下部：橙色 5YR7/6、内： 黒褐色 2.5Y3/2	ナデ。	礫，砂粒，細砂粒 白・黒色粒，石英	15%	
154	5	74	古墳 土器	甕	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい黄橙色 10YR7/2、内：橙色 7.5YR6/6	ナデ。	粗砂粒，砂粒，細砂粒 黒色粒，石英	15%	
155	5		古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい黄褐色 10YR5/4、内：にぶい橙 色 10YR6/4、器肉：灰色 5Y6/1	外：ヨコナデ。内：ナデ。	礫，粗砂粒，砂粒，細砂粒 赤・白・黒色粒	10%	
156		27	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR6/4、 内：にぶい黄橙色 10YR6/4	ナデ。突帯刻み目：布 目圧痕。	粗砂粒，砂粒，細砂粒 赤・白・黒色粒	20%	
157	5		古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：灰色 5Y5/1、内：灰白 色 10YR8/1	ナデ。突帯刻み目：布 目圧痕。	細砂粒，微砂粒 赤・黒色粒，石英	10%	
158	5		古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：灰黄褐色 10YR6/2、内： 浅黄橙色 10YR8/3、器肉： 灰色 2.5Y6/1	ナデ。突帯刻み目：布 目圧痕。	礫，粗砂粒，砂粒，細砂粒 白・黒色粒，石英	15%	
159	5	586	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR6/4、 内：にぶい黄橙色 10YR6/4、器肉：褐灰色 10YR6/1	ナデ。突帯刻み目：布 目圧痕。	粗砂粒，砂粒，細砂粒 白・黒色粒	20%	
160	5u	34	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外上部：にぶい黄褐色 10YR6/3、外下部：にぶい 黄褐色 10YR7/3、内：に ぶい橙色 7.5YR7/3	ナデ。突帯刻み目：環 状工具。	粗砂粒，砂粒，細砂粒 赤・白・黒色粒，角閃石	15%	
161	5	583	古墳 土器	高杯	口縁 部	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR6/4、 内：にぶい黄褐色 10YR7/4、器肉：灰色 5Y4/1	ナデ。外面屈曲部：ヨ コナデ。	粗砂粒，砂粒，細砂粒 赤・白・黒色粒，角閃石	10%	摩滅して いる。
162	5	142	古墳 土器	高杯	口縁 部	1/6 以下	外：橙色 7.5YR7/6、内： 浅黄褐色 10YR8/3	ナデ？摩滅のため不 明。	細砂粒，微砂粒 赤・白・黒色粒，角閃石	10% きめ細かい	摩滅して いる。
163	5		古墳 土器	高杯	口縁 部	1/6 以下	外：黄褐色 7.5YR7/8、内： 灰白色 2.5Y7/1	摩滅のため不明。	砂粒，細砂粒 赤・白色粒	10%	摩滅して いる。

Tab. 22 遺物観察表 (9) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考	
									混和材の大きさ	混入具合		
									混和材の種類	きめ		
164	5	210	古墳 土器	高杯	口縁 部	1/6 以下	外:浅黄橙色 10YR8/4, 内: 灰白色 10YR8/2, 器肉:灰 色 5Y5/1	外:ミガキ, 摩滅著 しい,	調整	砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒	2%	摩滅して いる。
165	5u	155	古墳 土器	高杯	杯部	1/6 以下	外:橙色 2.5YR6/8, 内: 赤色 10R5/6, 器肉:灰色 5Y4/1	ナデ,		礫 白色粒	3%	きめ細かい
166	5	1	古墳 土器	高杯	杯部	1/4	外:浅黄橙色 10YR8/4, 内: 灰色 N6/0, 赤色顔料:赤 褐色 5YR4/6	外:赤色顔料塗布後ミ ガキ, 内:ナデ?		粗砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 石英	10%	内:摩滅 してい る。
167	5		古墳 土器	高杯	杯部	1/6 以下	外:にぶい橙色 7.5YR7/4, 内:灰色 5Y5/1	外:赤色顔料塗布後ヨ コ方向のミガキ, 内: ナデ?		砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒	15%	内:摩滅 してい る。
168	5	101	古墳 土器	高杯	杯部	1/6 以下	外:にぶい橙色 7.5YR7/4, 内:灰白色 10YR8/2	外:ミガキ? 内:ナ デ,		礫, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒, 石英	25%	
169	5	237	古墳 土器	高杯	脚部	1/6 以下	外:にぶい黄橙色 10YR7/3, 内:明赤褐色 2.5YR5/6, 器肉:灰白色 10YR8/2	ナデ,		礫, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒, 石英	25%	
170	6	342	古墳 土器	高杯	脚部	1/2	外:にぶい黄褐色 10YR5/3, 内:黒色 N2/1, 器肉:灰白色 10YR8/2	外:ヨコ方向のナデ, 内:ナデ,		粗砂粒, 砂粒, 細砂粒 赤・白・黒色粒	25%	
171	5		古墳 土器	高杯	脚部	1/4	外:灰白色 10YR8/2, 赤色 顔料:明赤褐色 2.5YR5/6, 器肉:黄灰色 2.5Y6/1	外:赤色顔料塗布後ヨ コ方向のミガキ,		砂粒, 細砂粒, 微砂粒 白・黒色粒	10%	きめ細かい
172	5	111	古墳 土器	高杯	脚部	1		外:ヨコ方向のハケ後 ナデ, 内:ナデ,		砂粒, 細砂粒 赤・黒色粒	15%	
173	5	623	古墳 土器	高杯	脚部	1/6 以下	外:浅黄橙色 10YR8/3, 内: 浅黄橙色 10YR8/3, 器肉: 灰白色 2.5Y7/1	ヨコナデ,		礫, 砂粒, 細砂粒 白・黒色粒	10%	
174	5	270	古墳 土器	高杯	脚部	1/6 以下	外:浅黄橙色 10YR8/3, 内: 灰黄褐色 10YR6/2, 赤色 顔料:明赤褐色 2.5YR5/6	外:赤色顔料塗布のち ヨコ方向のミガキ, 内: ナデ,		細砂粒, 微砂粒 白・黒色粒, 角閃石	3%	きめ細かい
175	5	109	古墳 土器	小型 丸底 壺	口縁 部	1/6 以下	外:にぶい黄褐色 10YR7/4, 内:にぶい黄橙 色 10YR7/3	ナデ?		礫, 細砂粒, 微砂粒 石英	2%	摩滅のた め不明,
176	5	236	古墳 土器	小型 丸底 壺	口縁 部	1/6 以下	外:灰白色 10YR8/2, 内: 灰白色 10YR8/2	外:ミガキ, 内:鋭利 なへら状工具によるケ ズリ?後丁寧なナデ,		細砂粒, 微砂粒 赤・黒色粒	2%	きめ細かい
177	5	82	古墳 土器	小型 丸底 壺	口縁 部	1/6 以下	外上部:黒色 7.5Y2/1, 外 下部:黄灰色 2.5Y6, 1, 内上部:黒色 7.5Y2/1, 内 下部:黄灰色 2.5Y6, 1	ナデ,		細砂粒, 微砂粒 赤・黒色粒	1%	きめ細かい
178	5		古墳 土器	小型 丸底 壺	口縁 部	1/6 以下	外:浅黄橙色 10YR8/3, 内: にぶい黄褐色 10YR7/3	ナデ,		細砂粒, 微砂粒 赤色粒	3%	摩滅して いる。
179	5		古墳 土器	小型 丸底 壺	肩部	1/6 以下	外:浅黄褐色 10YR8/4, 内: 浅黄褐色 7.5YR8/4	外:ミガキ, 内:ナデ,		細砂粒, 微砂粒 赤・黒色粒	7%	きめ細かい
180	5		古墳 土器	埴	胴部	1/6 以下	外:灰白色 10YR8/2, 内: 灰白色 10YR8/2	摩滅のため不明		細砂粒, 微砂粒 黒色粒	2%	摩滅して いる。
181	5		古墳 土器	埴	胴部	1/6 以下	外:灰白色 10YR8/2, 内: 灰白色 10YR8/2	外:摩滅しているが、 赤色顔料が残る。幅 1cmほどの鋭利な工 具痕残る。内:ナデ,		細砂粒, 微砂粒 赤色粒	3%	きめ細かい
182	5	276	古墳 土器	埴	胴部	1/6 以下	外:灰白色 10YR8/2, 内: にぶい黄褐色 10YR7/2, 赤色顔料:赤褐色 5YR4/8, 器肉:黄灰色 2.5Y6/1	外:ヨコ方向のミガキ, 赤色顔料塗布, 内:ナ デ,		礫 白・黒色粒, 石英	7%	
183	5		古墳 土器	埴	胴部	1/6 以下	外:灰白色 10YR8/2, 内: 灰白色 10YR8/1	外:赤色顔料塗布後ミ ガキ, 内:ナデ,		細砂粒, 微砂粒 赤・白・黒色粒	5%	

Tab. 23 遺物観察表 (10) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考	
									混和材の大きさ	混入具合		
									混和材の種類	きめ		
184	5	113	古墳 土器	埴	胴部	1/6 以下	外:浅黄橙色 10YR8/4. 内: 灰白色 10YR8/2. 赤色顔 料:明赤褐色 2.5YR5/6	外:赤色顔料塗布後ミ ガキ. 内:ナデ.	細砂粒, 微砂粒	5%		
185	5	274	古墳 土器	埴	底部	1/6 以下	外:灰白色 2.5Y7/1. 内: 黄灰色 2.5Y6/1. 赤色顔料: 明赤褐色 2.5YR5/6	外:赤色顔料塗布後ミ ガキ. 内:底面:ナデ.	砂粒, 細砂粒	10%		
186	5	11	古墳 土器	埴	底部	1/6 以下	外:灰白色 10YR8/2. 内: 浅黄橙色 10YR8/3. 赤色 顔料:赤褐色 5YR4/8	外・内:赤色顔料塗布 後ミガキ?	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	7%		摩滅して いる.
187	5u	506	古墳 土器	埴	底部	1/4	外:にぶい黄橙色 10YR6/3. 内:にぶい黄橙 色 10YR7/3. 器肉:褐灰 色 10YR5/1	外:赤色顔料塗布後ミ ガキ?底面:赤色顔料 塗布. 内:ナデ.	細砂粒, 微砂粒	10%		きめ細かい
188	5	106・ 40	古墳 土器	埴	底部	1/2		外:ハケ? 内:ハケ 後ナデ.	礫, 細砂粒, 微砂粒	7%		摩滅して いる.
189	5		素焼 土器	鉢?	口縁 部	1/6 以下	外:明赤褐色 5YR5/6. 内: 明赤褐色 5YR5/6	ヨコナデ.	砂粒, 細砂粒	10%		硬質.
199	5	546	古墳 土器	甕	脚部			ヨコナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%		
200	6u		古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:灰白色 10YR8/1. 内: 灰白色 10YR8/2	外:ヨコナデ. 内:ナデ.	礫, 砂粒, 細砂粒	25%		
201	ml	630	古墳 土器	甕	底部 付近	1/6	外:灰白色 10YR8/2, 褐 灰色 10YR6/1. 内:灰白 色 10YR8/2	ナデ. 摩滅顕著.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	30%		
202	6	635	縄文 晩期 土器	浅鉢	口縁 部	1/6 以下	外:黒色 7.5YR2/1. 内: 灰黄褐色 10YR6/2	外:ヨコ方向のミガキ. 内:ナデ. 刻み:細い へら状工具による.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	10%		
203	6		弥生 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:黒色 N2/0. 内:灰黄 褐色 10YR6/2	ヨコナデ. 刻み目:細 いへら状工具による.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%		
204	6	373・ 375・ 488・ 366・ 368・ 367・ 360	弥生 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:黒褐色 2.5Y3/1. 内: 灰白色 10YR8/2. 内上面: にぶい橙色 7.5YR7/6	外:縦方向のハケ. 口 唇部付近:ヨコナデ. 内:ナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%		
205	6	353・ 356・ 383・ 486・ 633	弥生 土器	甕	口縁 部	1/2	外:にぶい黄橙色 10YR7/2. 内:にぶい黄橙 色 10YR7/4. 上面:にぶ い黄橙色 10YR7/3	ヨコナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%		
206	6	634	弥生 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外:橙色 7.5YR6/6. 内: にぶい橙色 7.5YR7/4	ヨコナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	25%		
207	6	324	弥生 土器	壺	口縁 部	1/6 以下	外:明褐色 7.5YR6/6. 内: 明褐色 7.5YR6/6	ヨコナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%		
208	6	621・ 218	弥生 土器	一	口縁 部	1/6 以下	外:浅黄橙色 10YR8/3. 器 内:灰色 5Y5/1	ヨコナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	10%		
209			弥生 土器	壺	口縁 部	1/6 以下	外:にぶい黄褐色 10YR7/4. 器肉:灰色 N4/0	ヨコナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%		
210	6	478	弥生 土器	壺	口縁 部	1/6 以下	外:灰白色 10YR8/2. 内: 灰色 5Y4/1	摩滅のため不明	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%		
211	6	339	弥生 土器	壺	肩部	1/6 以下	外:灰白色 10YR8/2. 内: にぶい黄褐色 10YR7/2	外:ミガキ. 内:ナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	10%		

Tab. 24 遺物観察表(11) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考	
									混和材の大きさ	混入具合		
									混和材の種類	きめ		
212	6	481	弥生 土器	壺	胴部	1/6 以下	外：にぶい黄橙色 10YR7/4. 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	ミガキ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	7%	赤・白・黒色粒, 軽石, 角閃石, 石英	
213	6	337・ 347・ 476	弥生 土器	壺	肩部	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR7/4. 内：にぶい黄橙色 10YR7/2. 器肉：灰色 N4/0	外：摩滅のため不明. 内：ナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%	白色粒, 軽石, 石英	
214	7u	472	弥生 土器		底部	1/5	外：にぶい橙色 7.5YR6/4. 内：浅黄橙色 10YR8/3	ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%	赤・白・黒色粒, 軽石, 角閃石, 石英	
215	6	473	弥生 土器		底部	1/4	外：浅黄橙色 10YR8/3. 内：ナデ 浅黄橙色 10YR8/3. 底面： 浅黄橙色 10YR8/3		礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%	赤・黒色粒, 軽石, 角閃石, 石英	
216	6		弥生 土器		底部	1/4	外：にぶい橙色 5YR6/4. 内：ナデ 浅黄橙色 10YR8/3. 底面： にぶい橙色 5YR6/4. 器肉： 灰色 5Y5/1		礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%	赤・白・黒色粒, 軽石, 角 閃石	
217	6	396	弥生 土器		底部	1/3	外：にぶい橙色 7.5YR7/4. 内：灰白色 10YR8/2. 底面： にぶい橙色 7.5YR7/4. 器 肉：灰色 7.5Y6/1	ナデ?	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%	赤・白色粒, 軽石, 角閃石, 石英	摩滅して いる
218	6	654	弥生 土器		底部	1/4	外：にぶい橙色 7.5YR7/3. 内：黒褐色 2.5Y3/1. 底面： にぶい橙色 7.5YR7/3	ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	25%	白・黒色粒, 軽石, 角閃石, 石英	
219	6	482	弥生 土器		底部	1/6	外：暗黒色 N3/0. 内：浅 黄橙色 8/3	外：縦方向のハケ後ナ デ. 内・底面：ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%	赤・白・黒色粒, 軽石, 石 英	
220	6	651	弥生 土器	甕	底部	1/6	外：橙色 5YR6/6. 底面： にぶい黄橙色 10YR7/3. 器 肉：橙色 2.5YR6/6	ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	30%	赤・白・黒色粒, 軽石, 石 英	
221	6	336・ 388	弥生 土器	甕	底部	3/5	外：にぶい黄橙色 10YR7/4. 内：明赤褐色 5YR5/6. 底面：にぶい黄 橙色 10YR7/4	ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	30%	白・黒色粒, 軽石, 角閃石, 石英	
222	6	479	弥生 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR6/4. 内：にぶい褐色 7.5YR5/4	外：ヨコナデ. 内：ハ ケ後ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%	赤・白・黒色粒, 石英	
223	6	98	弥生 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい黄橙色 10YR7/3. 内：浅黄橙色 10YR8/3. 器肉：暗灰色 N3/0	ナデ?	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%	赤・白・黒色粒, 石英	摩滅して いる
224	6	397	弥生 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：浅黄橙色 10YR8/3. 灰色 N4/0. 内：浅黄橙色 10YR8/4	外：ヨコナデ. 内：ハ ケ後ナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%	赤・白・黒色粒, 石英	
225	6	372	弥生 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：灰黄褐色 10YR5/2. 内： にぶい黄褐色 10YR7/3	外：縦方向のハケ後ナ デ. 突帯部：ヨコナデ. 内：ナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	15%	赤・白・黒色粒, 石英	
226	6	60	弥生 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい黄褐色 10YR7/4. 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	ナデ? 刻み目：細かい ヘラ状工具.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%	白・黒色粒, 角閃石, 石英	表面が摩 滅してい る
227	6	649	古墳 土器	甕	口縁 部	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR7/3. 内：にぶい黄褐色 10YR7/4	外：縦方向のハケ後ヨ コナデ. 内：ヨコナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	5%	赤・白・黒色粒, 軽石, 石 英	
228	6		古墳 土器	甕	脚部	1/6 以下	外：にぶい橙色 7.5YR7/4. 内：黄灰色 2.5Y4/1. にぶ い黄褐色 10YR7/3. 器肉： 明赤褐色 2.5YR5/6	ヨコ方向のナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	20%	赤・白・黒色粒, 角閃石, 石英	

Tab. 25 遺物観察表 (12) 土器・須恵器・陶磁器類

番号	層	取上 No	種別	器種	部位	残存	色調	調整	胎土		備考
									混和材の大きさ	混入具合	
									混和材の種類	きめ	
229	5		古墳 土器	甕	脚部	1/6 以下	外：黄灰色 2.5Y5/1, 内： 黒褐色 2.5Y3/1, 器肉：灰 白色 10YR8/2	ヨコナデ.	粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	5%	
230	6		古墳 土器	甕	脚部	1/6 以下	外：浅黄橙色 10YR8/3, 内： 橙色 7.5YR6/6	ナデ?	砂粒, 細砂粒	7%	摩滅して いる
231	6u	595	古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：にぶい黄橙色 10YR6/4, 内：にぶい橙色 7.5YR7/4	ナデ, 刻み目：布目庄 痕	砂粒, 細砂粒	1%	
232	6		古墳 土器	壺	胴部 突帯	1/6 以下	外：黄灰色 2.5Y6/1, 内： 浅黄橙色 10YR8/4	外：ヨコ方向のナデ. 内：ナデ.	礫, 粗砂粒, 砂粒, 細砂粒	10%	内：摩滅 してい る.
233	6		古墳 土器	高杯	口縁 部	1/6 以下	外：浅黄橙色 10YR8/3, 内： 浅黄橙色 10YR8/3, 赤色 顔料：赤褐色 2.5YR4/8	外：ミガキ・赤色顔料 塗布, 内：ナデ.	細砂粒, 微砂粒	3%	きめ細かい
234	6	379	古墳 土器	埴?	口縁 部	1/6 以下	外：橙色 5YR6/8, 内：に ぶい黄橙色 10YR6/4	ナデ.	砂粒, 細砂粒, 微砂粒	1%	きめ細かい

Tab. 26 遺物観察表 (13) 石器類

番号	地区	層	種別	器種	サイズ (mm)			重量 (g)	石材	備考
					最大長	最大幅	最大厚			
63	ns3	3	石器	凹石	86	65	28	119	凝灰石	風化・被熱のため加工不明
112	p11	4	石器	被熱礫	80	64	40	138	凝灰石	被熱礫
113	d10	4	石器	磨石	29	29	18	19	砂岩	磨面のある礫
114	a8	4	石器	砥石	102	36	23	134	砂岩	
190	f12	5	石器	磨製石斧片	21	48	5	6.95	粘版岩	
191	e	5	石器	磨石	53	21	12	14	凝灰石	全面磨
192	f11	5	石器	磨石	52	39	18	43	硬質砂岩	一括
193	b9	5	石器	磨石	43	41	28	70	硬質砂岩	磨面あり
194	d8	5	石器	敲打具	68	22	22	56	砂岩	
195	d6	5	石器	敲打具	74	36	20	61	硬質砂岩	上面一括
196	b9	5	石器	軽石加工品	65	39	30	27	軽石	
197	c9	5	石器	軽石加工品	65	58	27	35	軽石	
198	f6	5	石器	打製石鏃	17	12	3	0.3	安山岩	
235	f12	6	石器	スクレイパー	56	64	13	46	安山岩	
236		6	石器	磨石 敲石	47	37	24	44	安山岩	
237		6	石器	軽石加工品	32	29	12	1.84	軽石	
238	e5	6	石器	軽石加工品	92	64	38	61	軽石	
239	e7	6	石器	軽石加工品	182	70	54	182	軽石	
240	e8	6	石器	磨製石鏃	37	24	2	2.4	頁岩	
241	e4	6	石器	打製石鏃	21	18	4	0.75	安山岩	
242	d8	6	石器	打製石鏃	13	9	3	0.22	黒曜石	

Tab. 27 層別遺物出土状況(1)

種別	器種	1・2層	3層	4層	5層上面 (SD3を含む)	5層	P5	P24	P291	6層	7層上面・ 8層	SD1	計
ガラス	瓶	3											3
ガラス	破片	1											1
土製品	人形	2											2
土製品	土錘	1											3
磁器	底部			1									1
磁器	不明	7											7
陶器	土鍋	1											1
陶器	壺	1											1
陶器	すり鉢	1											1
陶器	土瓶	1											1
陶器	不明	23	3	15									41
素焼き	不明		1			1							2
素焼き	火鉢	1											1
素焼き	植木鉢	3											3
青磁		1	1										2
瓦器			2										2
須恵器	不明	8				1						1	10
須恵器	破片		2	2									4
土師器	杯?	2		9									11
土師器	甕 口縁部	1											1
土師質	破片	76	72	208	17	2453				45			2871
土師質	口縁部	2	2	22		8							34
土師質	底部	17	8	10		7							42
土器	破片	278	162	1925	156	1264				391	3	32	4211
土器	赤色顔料 塗布	5	11	136	8	155				5			328
土器	甕脚部	5		18	1	83	1		1	6		1	116
土器	脚部	3				37				5			45
土器	甕 口縁部	1		1	2	120		1			1		126
土器	壺底部(成 川)	1			1	3							5
土器	壺口縁部					2							2
土器	壺肩部					3							3
土器	口縁部	16		58	12	14				7			107
土器	沈線文			1						1			2
土器	幅広突帯	1		3	1	13							18
土器	布目刻み	1		2						10			13
土器	1条突帯	8	3	70	5	122				12			220
土器	刻み突帯	3	1	29	1	89							123
土器	多条突帯	1		4	3	6				13			27
土器	高杯	4	3	10	4	67				3			91
土器	埴(土師 質)				1	24							25

Tab. 28 層別遺物出土状況（2）

種別	器種	1・2層	3層	4層	5層上面 (SD3を含む)	5層	P5	P24	P291	6層	7層上面・ 8層	SD1	計
土器	埴			4	1	14				1			20
土器	成川底部		5	2									7
土器	弥生甕口 縁部		1	5	1	4				26			37
土器	平底底部 弥生？	1	1	1						7			10
土器	弥生壺									11			11
石器	磨り石			1		2				1			4
石器	くぼみ石		1										1
石器	叩き石					1							1
石器	砥石			1									1
石器	磨製石鏃									1			1
石器	打製石鏃					1				2			3
石製品				1									1
石製品	軽石					2				3			5
剥片	黒曜石	1	1	1									3
剥片	砂岩		1										1
剥片	粘板岩		3			1							4
剥片	ハリ質安 山岩					1							1
剥片	安山岩		1			1				1			3
石	剥片			1									1
軽石				1	1	1							3
石		34	4	19	1	31				13			102
計		514	289	2561	216	4531	1	1	1	564	4	34	8716

第7章 まとめ

第1節 各層の時期

本調査では、基本土層として1～13層までを確認した。1層は盛り土と旧校舍基礎部で攪乱されていたが、2～8層は水田層と考えられる。本地点周辺では基盤層である砂礫層の上に泥炭層や氾濫原である砂層が確認されており、一体は湿地であり泥炭層の底面から出土した自然木の放射性炭素年代から、約4000年前という年代が与えられている⁶⁾。河川氾濫によって埋没した泥炭層の上で水田が営まれている。

包含されている遺物や周辺の過去の調査との比較から、2層は近代、3層は中世、4層は古代（平安時代）、5層は古墳時代、6層は弥生時代～古墳時代、7・8層は弥生時代中期以前の時期と推定される。遺物はほとんど小片で、出土量も少なかった。周辺から流れ込んだ遺物が継続的な耕作活動によって、細かく破損した結果だと思われる。

本地点の土層は、本調査区西側に位置する工学部校舍建設にともなう発掘調査（97-1）で確認された調査区東側とよく類似している。本地点3層＝97-1の3層、4層＝97-1の4・5層、5層＝97-1の6層、6層＝97-1の7・8層、7層＝97-1の9層、8層＝97-1の10層となる。遺物出土状況もほぼ整合的である。

第2節 弥生時代～古墳時代の水田遺構

本調査では、第Ⅱ遺構面で古墳時代の、第Ⅲ・Ⅳ遺構面で弥生時代の水田関連遺構を確認することができた。8層上面のレベルで見ると、調査区北東隅の標高が高く、南西方向に向かって緩やかに傾斜している（Fig.4）。調査区北側には、弥生時代～古代に流れていたと推定される河川跡があり、その自然堤防の緩傾斜を利用した水田を造営していたと考えられる。本地点北側には郡元団地を東西方向に横断する河川跡があり、井堰跡を含む木杭列も検出されている（2002-2VBL）。第Ⅲ遺構面では、平行する同規模の溝が8条検出された。これらは傾斜方向にも平行で、北側の河川から水を引いた水路の一部と考えられる。

古墳時代の第Ⅱ遺構面では、調査中には確認できなかったが、土層断面図を細かく観察すると6c層に部分的な高まりが観察できる部分があり（層位断面図Fig.5・6・8の↓部）、擬似畦畔であった可能性が高い。写真から推定した模式図によるが、水田面は1枚8m×4～5mで、32～40m²と積算される。一方、第Ⅳ遺構面では弥生時代中期以前と考えられる水田遺構が検出されており、この面の擬似畦畔や凹凸のある地形から水田面の広さを推定すると、緩傾斜地である東側の1面が30～64m²、西側の平坦面は100m²以上であった。郡元団地2012-1の発掘調査において検出した古墳時代の水田跡は、1条の大畦と小畔で区切られた3×3m程の水田面であり、古墳時代としては小規模な水田を営んでいたと考えられる⁷⁾。本地点で検出した擬似畦畔は大畦にあたり、今回は検出できなかったが、さらに小畔によって小さな区画が形成されていたと推定される。

溝状遺構は西隣の97-1でも検出されていて（97-1-SD3）、検出面は本調査の第Ⅲ遺構面に一致する。平行して位置する事から、ほぼ同時期の遺構で、水田面が両調査区一帯に広がっていたと推定される。97-1の西側は微高地となっており、弥生・古墳時代の水田層も確認できなかった。東側の理学部1・3号館（85-1・2001-2）では古墳時代の住居跡群が検出されており、微高地に立地する。したがって、水田が造営できた範囲はそれ以上東西方向へは広がらず、居住域に比べると狭い範囲が想定される。郡元団地内には、弥生時代～古墳時代の水田跡としてあと2カ所が確認されているが、いずれも後背湿地に続く緩やかな傾斜地を利用している。居住地近くで、給排水に適した自然地形を利用した小規模な水田を、点々と造営していたものと考えられる。

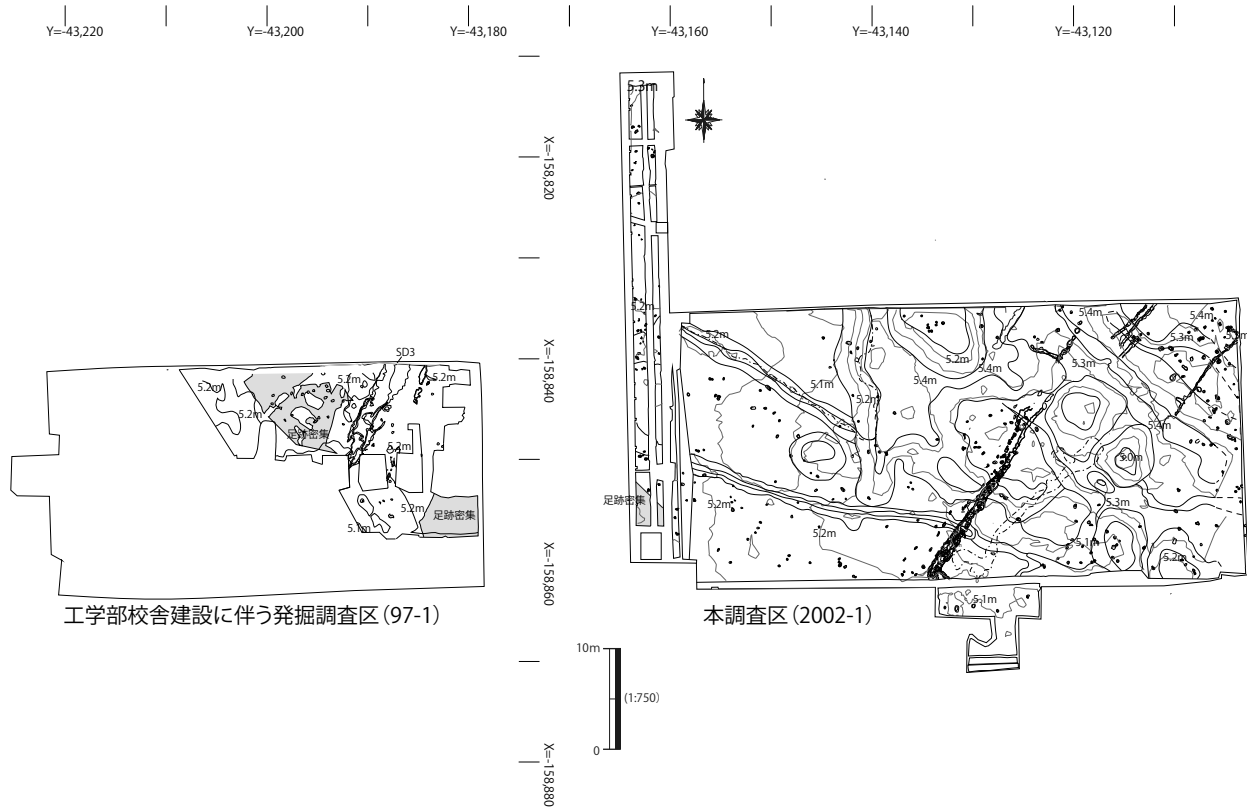


Fig. 48 本調査区周辺の弥生時代水田遺構 S=1/750

註

- 1) 河口貞徳 1969 「弥生時代」『鹿児島市史』I 鹿児島市史編纂委員会 58-75 頁
- 2) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1986 『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』I
- 3) 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 2015 『鹿児島大学構内遺跡郡元団地 J・K-10・11 区 (工学部校舎新営工事)』鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書第 11 集
- 4) 東和幸 2003 「波板状凹凸面牛馬歩行痕説再論」『縄文の森から』創刊号 鹿児島県立埋蔵文化財センター 81-88 頁
- 5) 註 3) に同じ。
- 6) 古環境研究所 2015 「郡元団地 J・K-10・11 区における放射性炭素年代測定」『鹿児島大学構内遺跡郡元団地 J・K-10・11 区 (工学部校舎新営工事)』鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書第 11 集 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 66 頁
- 7) 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター 2014「II 発掘調査の概要」『鹿児島大学埋蔵文化財調査センター年報』28 平成 24(2012) 年度事業報告 5-14 頁

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター調査報告書 第14集

鹿児島大学構内遺跡

郡元団地 J・K- 9・10 区 (理工系総合研究棟)

2019年3月

発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター

〒 890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24
